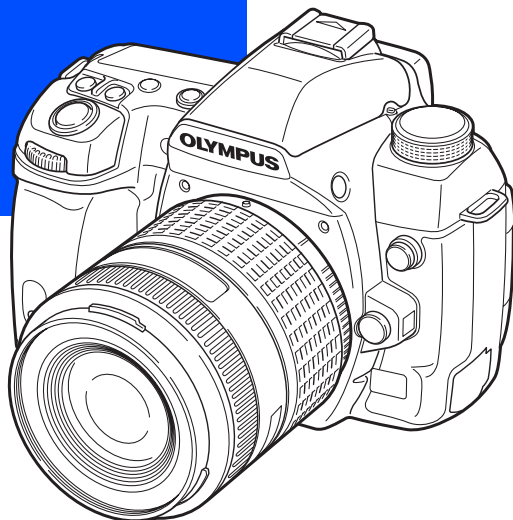
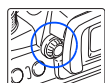
OLYMPUS

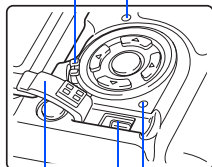
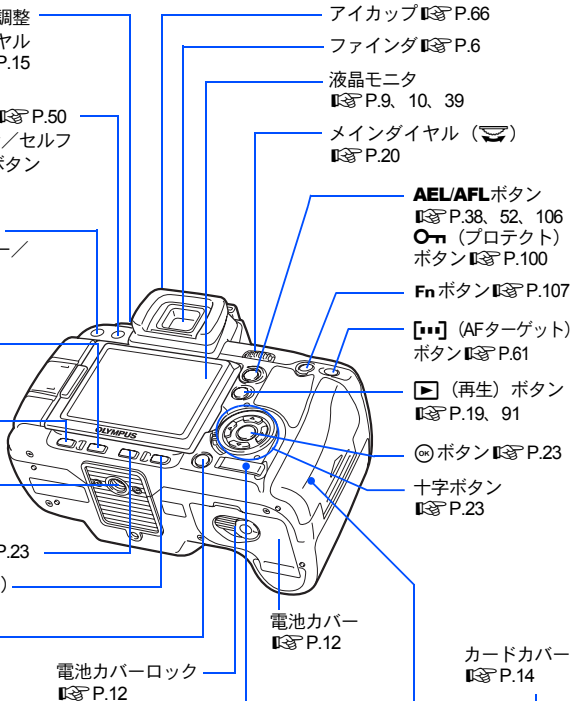
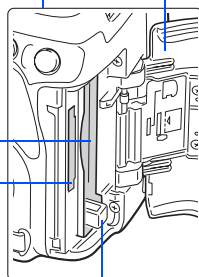
デジタルカメラ

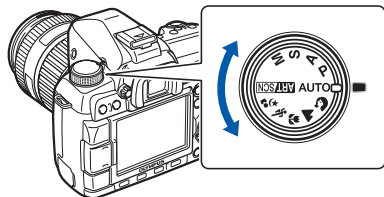
E-30

取扱説明書

- オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。特に「安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前に良くお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- この取扱説明書は、カメラのファームウェアVer1.0にもとづいて記載されています。カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

カメラ

WB（ホワイトバランス）ボタン☞P.73
（露出補正）ボタン☞P.51
ISOボタン ☞P.54
ストラップ取り付け部 ☞P.11
シャッターボタン ☞P.17、38、64
セルフタイマー／リモコンランプ／リモコン受信センサー ☞P.66、67
サブダイヤル（）☞P.20
プレビューボタン ☞P.50
レンズ合わせマーク ☞P.13
マウント（ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。）
光源センサー ☞P.74
LIGHT（ライト）ボタン☞P.15
コントロールパネル☞P.7
内蔵フラッシュ ☞P.84
ホットシュー ☞P.87
（フラッシュ）ボタン☞P.84
（フラッシュ補正）ボタン☞P.85
OLYMPUS
モードダイヤル ☞P.4
ストラップ取り付け部 ☞P.11
外部フラッシュ端子 ☞P.89
レンズ取り外しボタン ☞P.13
レンズロックピン
ミラー ☞P.37
コネクタカバー
DC入力端子☞P.145

かんたんガイド

各部の名称と機能

モードダイヤル

モードダイヤルを使うと、撮影する被写体に合わせてカメラの設定を簡単に変えることができます。

応用撮影モード

- 絞り値、シャッター速度を任意に設定し、より高度な撮影ができます。
- 応用撮影モードで設定した機能は、カメラの電源を切っても設定を保持しています。

P	プログラム撮影	絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて設定します。（☞P.45）
A	絞り優先撮影	絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。（☞P.46）
S	シャッター優先撮影	シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。（☞P.47）
M	マニュアル撮影	絞り値とシャッター速度を自分で設定します。（☞P.48）

かんたん撮影モード

- 撮影シーンに合わせて選びます。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。
- かんたん撮影モードでは、モードダイヤルを回したり、電源をオフにすると設定した機能は、初期設定に戻ります。

AUTO	オート	最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップします。
	ポートレート	人物撮影をするのに最適です。
	風景	風景を撮るのに最適です。
	マクロ	被写体に近接した撮影を行うときに使用します。
	スポーツ	スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。
	夜景&人物	夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。
ART/SCN	アートフィルター／シーン	お好みのフィルター／シーンを選択すると、カメラが自動的にフィルター／シーンに適した撮影条件を設定します。ほとんどの機能は変更できません。

アートフィルター／シーンの設定方法

1 モードダイヤルを ART/SCN に設定します。
- アートフィルターメニューが表示されます。▷を押すとシーンメニューに切り換わります。

2 △▽でフィルター／シーンを選択します。
3 OKボタンを押します。
- 設定を変更したいときは、再度OKボタンを押してメニューを表示します。

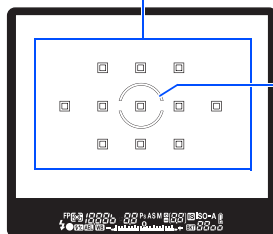
アートフィルターの種類

アイコン	アートフィルター	アイコン	アートフィルター
ART1	ポップアート	ART4	ライトトーン
ART2	ファンタジックフォーカス	ART5	ラフモノクローム
ART3	デイドリーム	ART6	トイフォト

シーンモードの種類

アイコン	モード	アイコン	モード
	チャイルド		夕日
HI	ハイキー		文書
LOW	ローキー		パノラマ
	ぶれ軽減		打ち上げ花火
	ネイチャーマクロ		ビーチ＆スノー
	キャンドル		

- アートフィルターはRAW画像には適応されません。
- アートフィルターでRAW設定時は、自動的にLN+RAWに設定されます。
- アートフィルターの種類によっては、画像の粗さが強調される場合があります。

ファインダ

絞り値☞P.45-48

撮影モード☞P.4、45-48

シャッター速度
☞P.45-48

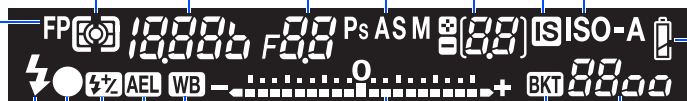
連続撮影可能枚数
☞P.65

スーパー FP発光
☞P.87

手ぶれ補正☞P.69

測光方式
☞P.50

ISO感度☞P.54

FP ◎ 18888 F8.8 PS A S M 88 IS ISO-A
⚡ ● ⚡±
AEL WB − 0 + BKT 88

ホワイトバランス
（オートホワイトバランス以外に設定しているときに表示されます。）
☞P.73

オートブラケット
☞P.53、55、77、86

ISO感度数値
☞P.54

AEロック☞P.52

電池残量
☞P.15

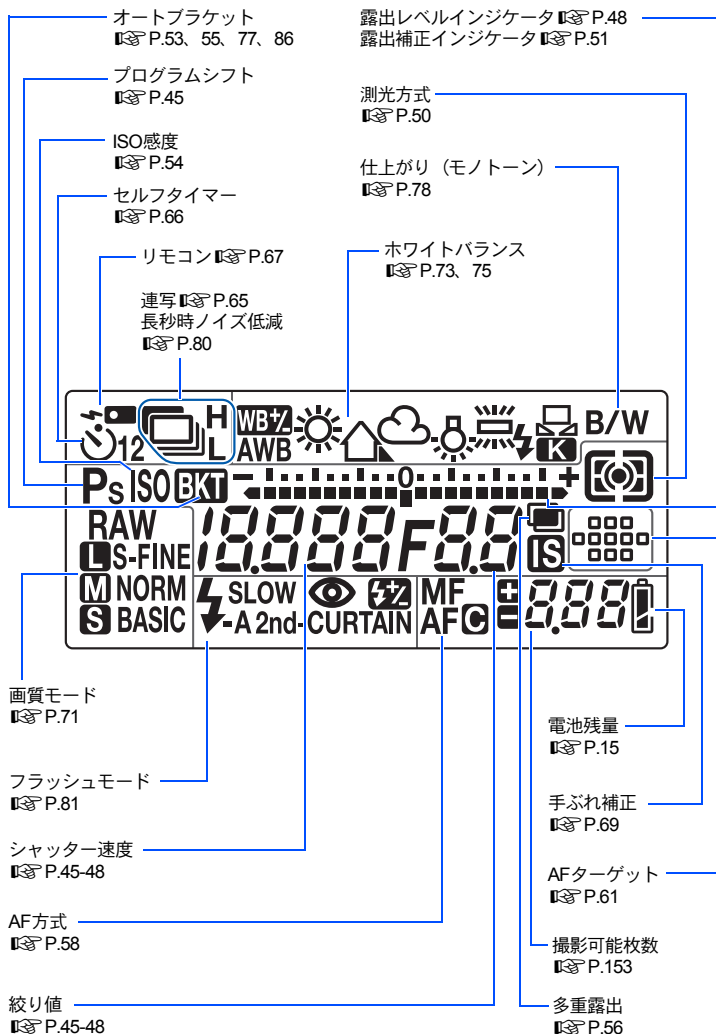
フラッシュ補正
☞P.85

露出レベルインジケータ☞P.48
露出補正インジケータ☞P.51

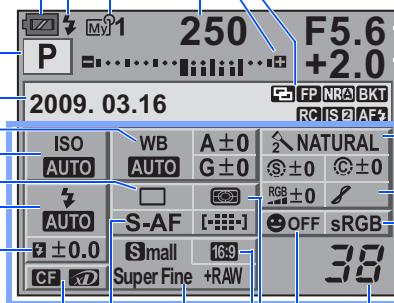
合焦マーク
☞P.17、38、64

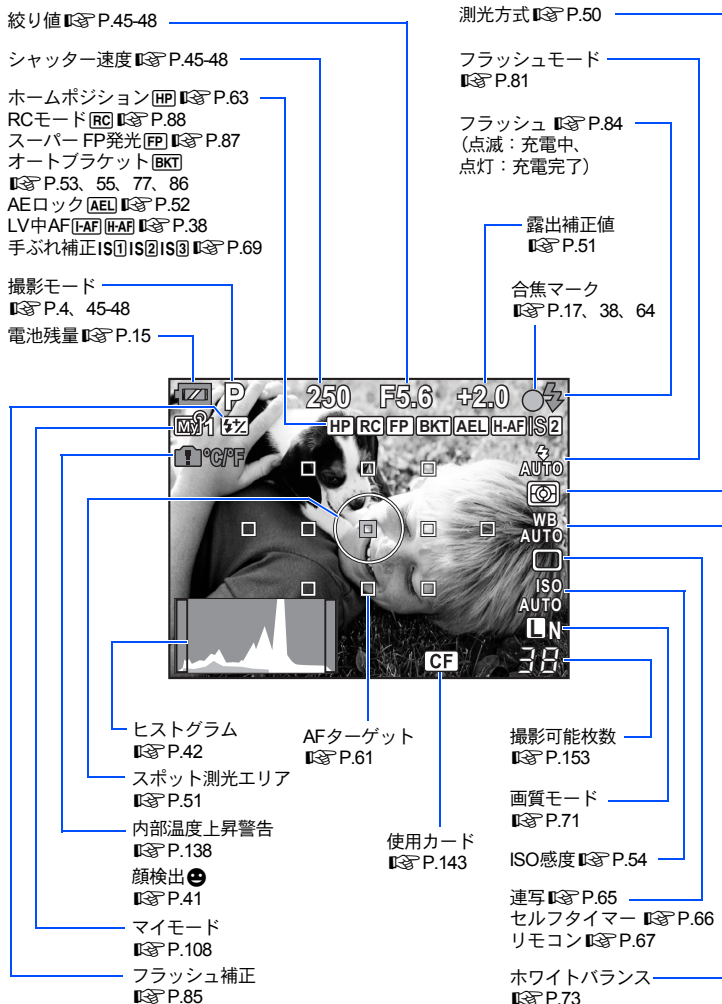
フラッシュ ☞P.84
（点滅：充電中、点灯：充電完了）

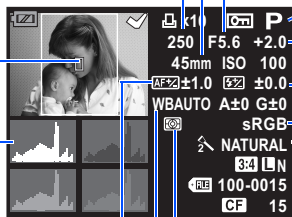
コントロールパネル

オートブラケット
☞P.53、55、77、86
プログラムシフト
☞P.45
ISO感度
☞P.54
セルフタイマー
☞P.66
リモコン☞P.67
連写☞P.65
長秒時ノイズ低減
☞P.80
露出レベルインジケータ☞P.48
露出補正インジケータ☞P.51
測光方式
☞P.50
仕上がり（モノトーン）
☞P.78
ホワイトバランス
☞P.73、75
H
L
WB+/-
AWB
B/W
K
Ps ISO BKT
RAW
S-FINE
NORM
BASIC
SLOW
-A 2nd-CURTAIN
MF
AF C
IS
画質モード
☞P.71
フラッシュモード
☞P.81
シャッター速度
☞P.45-48
AF方式
☞P.58
絞り値
☞P.45-48
電池残量
☞P.15
手ぶれ補正
☞P.69
AFターゲット
☞P.61
撮影可能枚数
☞P.153
多重露出
☞P.56

スーパーコンパネ

撮影の設定状態の表示と設定が、同時にできる下の画面をスーパーコンパネと呼びます。**INFO**ボタンを押して液晶モニタに表示して使用します。

☞「スーパーコンパネ表示を見ながら設定する」（P.22）

液晶モニタ（ライブビュー）

液晶モニタで被写体を表示して確認しながら撮影します。[□]ボタンを押してライブビューを使います。☞「ライブビュー撮影」（P.36）

液晶モニタ（再生）

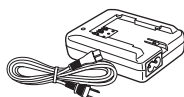
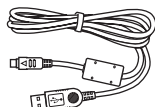
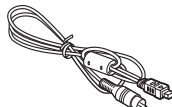
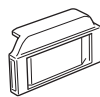
INFOボタンを使って表示を切り換えることができます。
☞「情報表示」（P.94）

同梱品を確認する

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。
万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

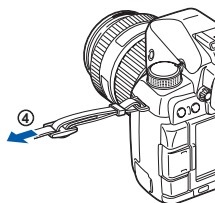
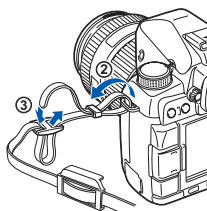
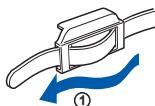
カメラ

ボディキャップ

ストラップ

リチウムイオン電池BLM-1

リチウムイオン充電器BCM-2

USBケーブル

ビデオケーブル

アイピースカバー

- OLYMPUS Master 2 CD-ROM
- 取扱説明書
- 保証書

ストラップを取り付ける

片方のストラップにアイピースカバーを通しておきます。矢印にしたがってストラップを通します。

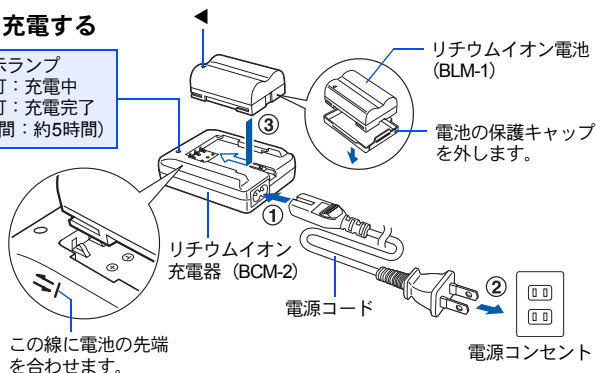
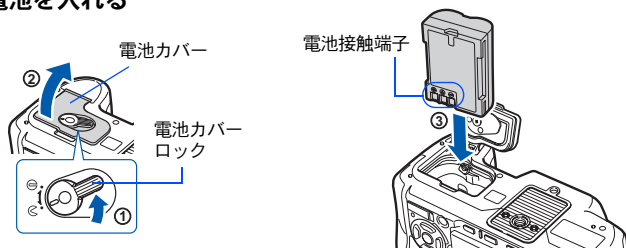
最後に強く引っ張り、抜けないことを確認してください。

- もう一方のストラップ取り付け部にも、同様にストラップを取り付けます。

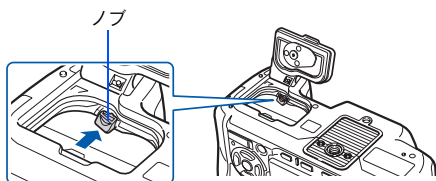
かんたんガイド

撮影前の準備

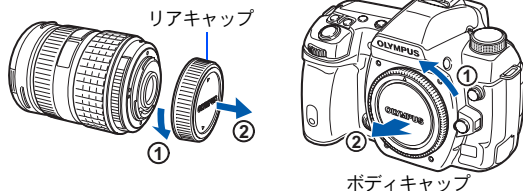
電池を準備する

1 電池を充電する

2 電池を入れる

3 電池カバーを閉め、電池カバーロックを⊖の方向に回す

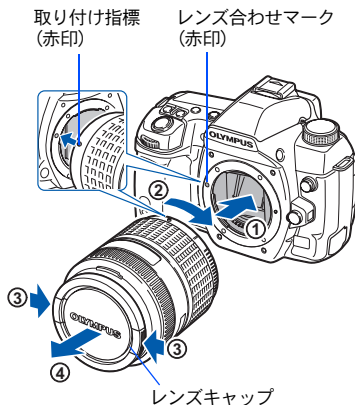
電池を取り出す

電池ロックノブを押すと電池が取り出せるようになります。カメラを逆さにして取り出してください。

長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。

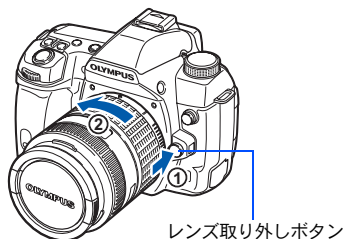
レンズを取り付ける

1 カメラのボディキャップとレンズのリアキャップを外す

2 レンズを取り付ける

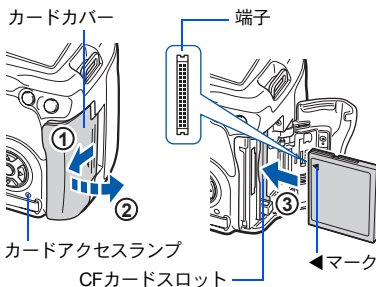
- カメラのレンズ合わせマーク（赤印）にレンズの取り付け指標（赤印）を合わせ、レンズをボディに差し込みます（①）。
- レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します（②）。

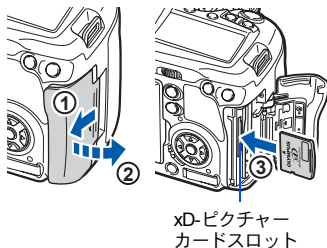
- パワースイッチがOFFになっていることを確認してください。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。

3 レンズキャップを外す（③、④）

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら（①）、矢印の方向に回します（②）。

カードを入れる

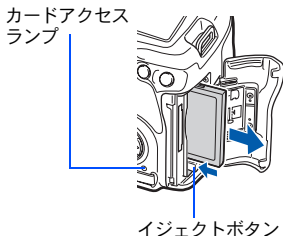
コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

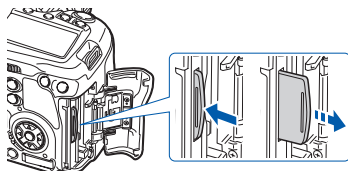
カードカバーを開けます（①、②)。
端子側を奥にして差し込みます（③)。

xD-ピクチャーカードの場合

カードカバーを開けます（①、②)。
カードがロックされるまで差し込みます（③)。

カードを取り出す

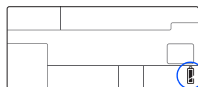
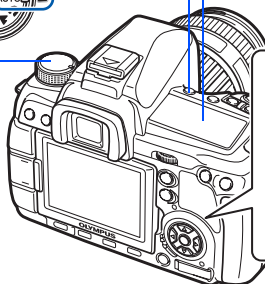
カードアクセスランプが点滅しているときは、絶対にカードカバーを開けないでください。

コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

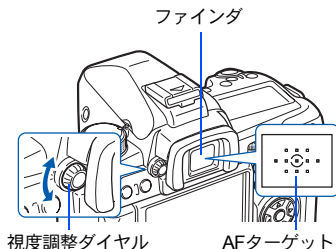
- イジェクトボタンを奥まで押し込むと、イジェクトボタンが出てきます。イジェクトボタンをもう一度奥まで押し込むと、カードが出てきます。
- カードをつまんで取り出します。

xD-ピクチャーカードの場合

- 差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。
- カードをつまんで取り出します。

電源を入れる

1 パワースイッチをONの位置にします。

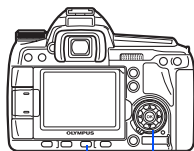
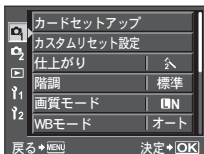
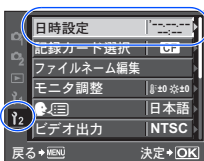
- 電源を切るには、パワースイッチを**OFF**の位置にします。

ダストリダクション機能の作動
電源を入れたとき、撮像素子のフィルター前面についたゴミをスーパーソニックウェーブフィルター（SSWF）により払い落とすダストリダクション機能が自動的に働きます。ダストリダクション機能が作動中はSSWFランプが点滅します。

ファインダを見やすくする

視力に合わせてファインダの視度調整をします。
ファインダをのぞきながら、視度調整ダイヤルを少しずつ回します。
AFターゲットがはっきり見えたら調整完了です。

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

1 MENUボタンを押す

• 液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

2 △▽で[ᛉ2]を選択し、▷を押す

3 △▽で[日時設定]を選択し、▷を押す

4 △▽で[年]を選択し、▷を押す

5 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力する

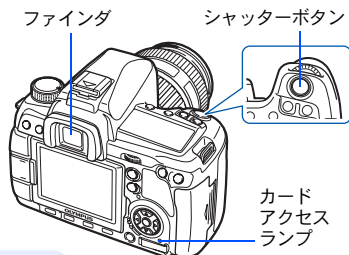
• 時刻は24時間表示です。

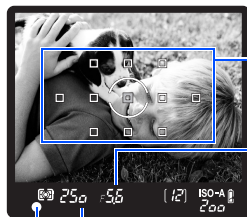
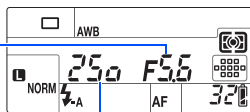
6 △▽で日付の順序を選択する

7 OKボタンを押す

8 MENUボタンを押して終了する

撮影する

1 ファインダをのぞきながらAFターゲットに被写体を合わせ、構図を決める

2 ピントを合わせる

シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯し、ピントの合ったAFターゲットが点灯します。
- カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。
- シャッターボタンが押されている間は、スーパーコンパネは消灯します。

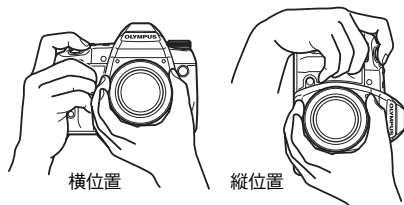
3 撮影する

半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

- シャッター音がして、撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

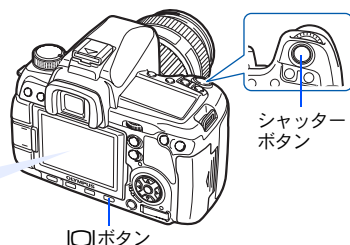
カードアクセスランプの点滅中は、絶対に電池やカードを抜かないでください。撮影した画像が保存されないだけではなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。

カメラの構え方

レンズ、フラッシュ、光源センサーに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

液晶モニタを見ながら撮影する

撮影する被写体を液晶モニタに表示して構図を確認したり、拡大表示して液晶モニタを見ながら撮影することができます。
☞「ライブビュー撮影」（P.36）

1 [ライブビュー] （ライブビュー）ボタンを押して、ライブビューに切り換える

• 液晶モニタに被写体が表示されます。

2 シャッターボタンを押して撮影する

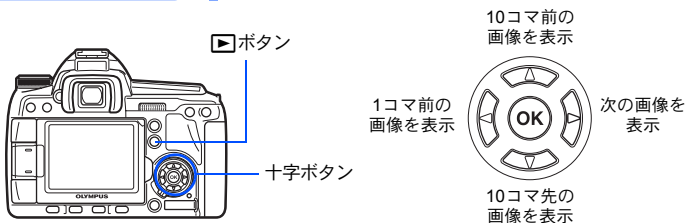
• ピント合わせをして撮影されます。

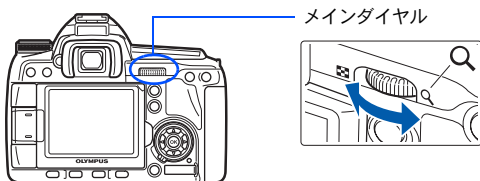
カメラが動作を停止したときは

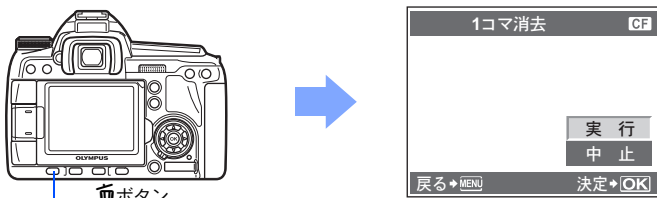
電源を入れたまま約8秒間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐために液晶モニタのバックライトが消灯します（スーパーコンパネ点灯時）。さらに約1分間何も操作しないと、スリープモード（待機状態）になり、カメラは動作を停止します。シャッターボタンや[再生]ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。☞「バックライト時間」（P.109）、「スリープ時間」（P.109）

再生する／削除する

画像を再生する

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

クローズアップ再生する

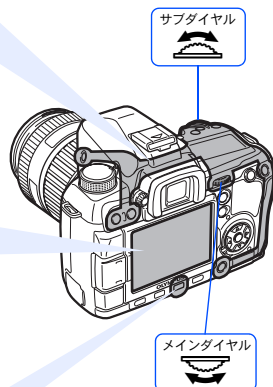
メインダイヤルを🔍側に回すたびに2～14倍と拡大倍率が変化します。

画像を削除する

消去したい画像を再生し、🗑ボタンを押します。
△▽を押して[実行]を選択しⓄボタンを押すと、削除されます。

基本操作

このカメラには3通りの操作方法があります。

ダイレクトボタン操作　☞P.21
機能が割り当てられたダイレクトボタンと、メインダイヤルまたはサブダイヤルで設定します。設定中はファインダ、コントロールパネル、スーパーコンパネに情報が表示されます。ファインダで被写体をとらえながら操作したいときや、コントロールパネルで確認してすばやく操作したいときなどに適しています。

スーパーコンパネ表示を見ながら設定 ☞P.22
液晶モニタにスーパーコンパネを表示して、機能を設定します。スーパーコンパネでは、現在の設定状態の確認だけでなく、画面上で機能を選択して直接設定を変えることができます。

メニューを表示して設定　☞P.23
メニューでは撮影に関する設定だけでなく、再生に関する設定、撮影機能やカメラの機能をカスタマイズする設定を行います。

本書の記載方法

本文中、ダイレクトボタン、スーパーコンパネ、メニューでの操作方法を以下のように表記しています。
- 「+」は同時に操作をすることを示しています。
- 「▶」は次の操作に進むことを示しています。

例：フラッシュ補正を設定する場合

ダイレクトボタン	▶
スーパーコンパネ	▶ ：[フラッシュ補正]
メニュー	MENU ▶ [] ▶ [フラッシュ補正]

カメラの設定をリセットする

P/**A**/**S**/**M**モードでは、変更した設定は電源を切ってもリセットされません。カメラを出荷時の設定に戻すにはリセットを実行します。
☞「設定のリセット」(P.121)

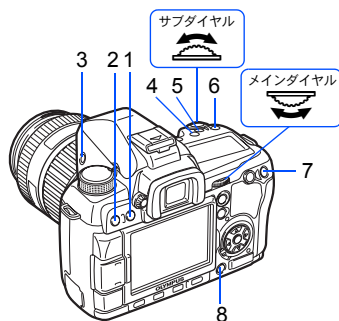
ダイレクトボタンを使って操作する

基本操作は以下の2通りがあります。

1 ボタンを押しながらメインダイヤルまたはサブダイヤルを回す

- ボタンから指を離すと設定が確定します。

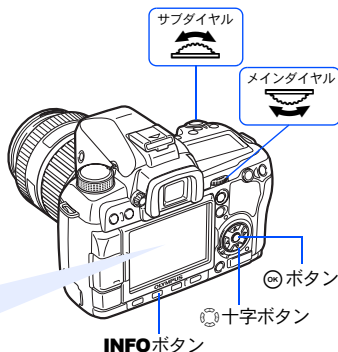
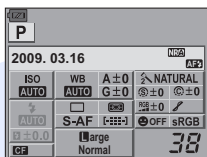
1つまたは2つのボタンを同時に押した後、メインダイヤルまたはサブダイヤルを回す

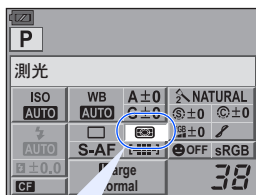
- ボタンを押すとその機能が約 8 秒間選択状態になり、その間にダイヤルを回して設定します。何も操作しないで約8秒経過すると設定が確定します。☞「ボタンON保持時間」（P.108）

ダイレクトボタン一覧

番号	ダイレクトボタン	ダイヤル	機能	参照ページ
1			測光方式設定	P.50
	/　/		リモコン撮影／セルフタイマー撮影／連写	P.65-67
2	AF	/	AF方式設定	P.58
1+2	+AF	/	AEブラケット	P.53
3			フラッシュモードの設定	P.81
			フラッシュ補正	P.85
4	WB	/	ホワイトバランス設定	P.73
1+4	+WB	/	WBブラケット	P.77
5		/	露出補正	P.51
4+5	WB+	/	WB補正	P.75
6	ISO	/	ISO感度設定	P.54
5+6	+ISO	/	リセット	P.121
7		/	AFターゲット選択	P.61
8	IS	/	手ぶれ補正設定	P.69

スーパーコンパネ表示を見ながら設定する

1 INFOボタンを押してスーパーコンパネを表示する

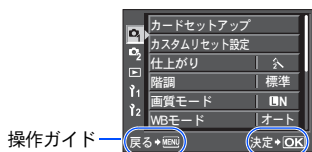
- 再度 **INFO** ボタンを押すとスーパーコンパネが消灯します。
- ライブビュー中は、Ⓞボタンを押してスーパーコンパネを表示します。

2 Ⓞボタンを押す

3 でカーソルを設定したい機能に移動し、ダイヤルで設定を変更する

ダイレクトメニュー

Ⓞボタンを押すと、カーソル位置のダイレクトメニューが表示されます。ダイレクトメニューでも設定を変更することができます。設定を変更してⓄボタンを押すと、設定が確定されます。また、数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。

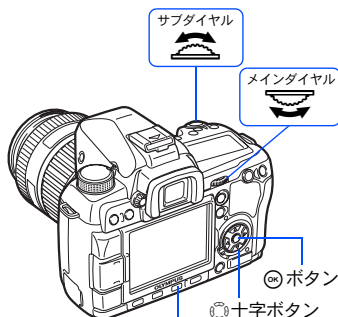
スーパーコンパネで設定できる機能については、「スーパーコンパネ」（☞P.8）をご覧ください。

メニューを表示して操作する

1 MENUボタンを押して、メニューを表示する

操作ガイド

MENUボタンを押して1つ前に戻る

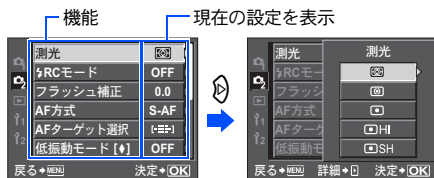
ボタンを押して選択肢を決定

2 でタブを選択し、を押す

1	撮影メニュー1
2	撮影メニュー2
▶	再生メニュー
1	カスタムメニュー1：撮影機能をカスタマイズします。さらにA～Iの9つのタブに分類されています。
2	カスタムメニュー2：カメラの基本的な機能を設定します。

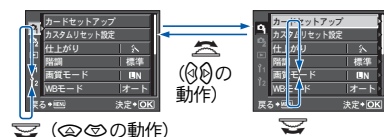
タブ

3 で機能を選択し、を押して各設定画面に進む

機能

現在の設定を表示

4 ボタンを押して、設定内容を確定する

- 繰り返し**MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。

ダイヤル操作でメニューを選ぶには

- 機能を選択してメインダイヤルを回し続けると、タブが自動的に切り換わり次のタブの機能を選択できます。

メニューで設定できる機能については、「メニュー一覧」（P.155）をご覧ください。

もくじ

かんたんガイド 2

各部の名称と、撮影・再生の基本を確認しましょう。

1 ライブビュー撮影 36

ライブビュー中のみ可能な機能や操作について説明します。

2 露出 45

撮影で重要な露出に関する機能の説明です。明るさを測って絞り値やシャッター速度などをどのように決めるかを選びます。

3 ピント合わせ／撮影機能 58

撮影する状況や被写体に適切なピント合わせの方法を選びます。

4 画質／色合い／仕上がり 71

画像の出来上がりを調整する機能について説明します。デジタルカメラに特有の機能です。

5 フラッシュ撮影 81

内蔵フラッシュ撮影や専用フラッシュ撮影について説明します。

6 再生 91

撮影した画像を再生する際に使う機能について説明します。

7 カスタム機能の設定 103

カメラをお好みの状態にカスタマイズします。

8 プリントする 123

撮影した画像をプリントする方法について説明します。

9 OLYMPUS Masterを使う 130

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する方法について説明します。

10 こんなときは?／カメラのお手入れ 135

困ったときやカメラのことがもっと知りたいときにご覧ください。

11 資料 143

別売アクセサリーの紹介、カメラの仕様情報を記載しています。撮影の参考にしてください。

撮りたい、知りたいときのもくじ

撮　影		
カメラまかせで撮りたい	モードダイヤルを**AUTO**に合わせて撮影します。	P.4
ピントが合わない	フォーカスロックを使用します。	P.64
	AFターゲットを選択して撮影します。	P.61
	レンズによって最短撮影距離が異なります。使用しているレンズの最短距離まで被写体から離れて撮影します。	P.146
	オートフォーカスでピントが合いにくい被写体です。撮影したい位置であらかじめフォーカスロックしておくか、MFで距離を固定して撮影します。	P.59、P.64、P.136
	AFイルミネータを使うと、暗い場所でもピントが合いやすくなります。	P.103
狙った一点にピントを合わせたい	AFターゲット選択して、狙ったAFターゲットで撮影します。	P.61
	MFで撮影します。ピント合わせはライブビューで拡大して撮影すると便利です。	P.41、P.43、P.59
	[AFターゲットサイズ]を**[小]**にして狭い範囲でピントをあわせます。	P.104
近くの被写体を撮影したい	近距離撮影の可能なマクロレンズを選びます。	P.146
撮影結果を確認しながら撮影したい	ライブビューでWB、露出補正、仕上がりなどの設定値を確認しながら撮影できます。	P.36
	ライブビューの比較表示画面で、WBまたは露出補正の効果を比較しながら撮影できます。	P.43
	プレビューを行うと、絞り込んだ絞り値で被写界深度を確認できます。	P.50
	設定した露出状態をライブビューで確認できるように設定できます。	P.110
	[試し撮り撮影]をすると、カードに記録することなく撮影画像を液晶モニタで確認できます。	P.107
電池を長持ちさせて撮りたい	シャッターボタンの半押しや長時間の再生、ライブビュー撮影は電力を消費します。なるべく避けて撮影しましょう。	—
	[スリープ時間]を短く設定します。	P.109
	[バックライト時間]を短く設定します。	P.109

撮影枚数を増やしたい	ピクセルサイズや圧縮率を低く設定します。	P.71、P.114
	2種類のカードを入れることができます。	P.14、P.143
暗い場所でもフラッシュを発光させないで撮りたい	ISO感度を高く設定します。	P.54
	手ぶれ補正を設定します。	P.69
暗い場所でフラッシュが自動的に光るようにしたい	フラッシュの設定を**[オート]**にします。	P.81
	モードダイヤルが**AUTO**のときは、自動的にポップアップして光ります。	P.4、P.84
フラッシュが自動的に光るのをやめたい	フラッシュの設定を**[発光禁止]**にします。	P.81
	[自動ポップアップ]を**[OFF]**にすると、フラッシュは自動的にポップアップしなくなります。	P.84、P.113
白とび／黒つぶれを防ぎたい	ヒストグラムを確認しながら撮影します。	P.42
	シャッター速度や絞り値の表示を確認しながら撮影します。どちらかが、点滅しているときは適正露出ではありません。	P.45-47、P.150
	階調を**[オート]**に設定します。明暗差の大きい被写体でも自動的に調整されます。	P.79
	露出補正を調整します。	P.51
モノクロ撮影したい	**[仕上がり]**を**[モノトーン]**に設定します。白黒のほか、セピア・紫・青・緑のモノクロ画像が撮影できます。	P.78
	撮影した画像をモノクロまたはセピアの画像に編集できます。	P.97
	アートフィルターの**[ラフモノクレーム]**に設定します。	P.5
逆光時に被写体が暗くならないようにしたい	階調を**[オート]**に設定します。	P.79
	フラッシュを**[強制発光]**に設定して、フラッシュ撮影をします。	P.81
	スポット測光にして、中央の被写体に合わせて露出を測ります。被写体が中央にない場合は、AEロックをして露出を固定した状態で、構図を変えて撮影します。	P.50、P.52
逆光で暗くなってしまった画像を明るくしたい	撮影した画像は**[JPEG編集]**の**[階調オート]**で調整することができます。	P.97
背景をぼかして撮影したい	**A**（絞り優先）モードにして絞り値をできるだけ小さくします。被写体に近づいて撮影すると、さらに背景をぼかした撮影ができます。	P.46

<table>
<tr><td>被写体の動きを止めて撮影したい／被写体の動きを表現したい</td><td>S（シャッター速度優先）モードにして撮影します。</td><td>P.47</td></tr>
<tr><td rowspan="2">正しい色合いで撮影したい</td><td>光源にあわせてホワイトバランスの設定をします。さらに微調整することもできます。</td><td>P.73</td></tr>
<tr><td>WBブラケット撮影は、1回の撮影で色合いを変えた画像が 3 ～ 9 枚撮影されます。細かい調整を行わなくても好みの色合いで撮影できます。</td><td>P.77</td></tr>
<tr><td rowspan="3">白いものを白く／黒いものを黒く撮影したい</td><td>スポット測光のハイライトコントロール／シャドウコントロールに設定します。被写体が中央にない場合は、AEロックをして露出を固定した状態で、構図を変えて撮影します。</td><td>P.50、
P.52</td></tr>
<tr><td>露出補正をします。露出補正値に迷うときはAEブラケット撮影が便利です。</td><td>P.51、
P.53</td></tr>
<tr><td>シーンモードを[ハイキー]または[ローキー]にして撮影します。</td><td>P.5</td></tr>
<tr><td rowspan="3">できるだけノイズ（ざらつき）を抑えた撮影をしたい</td><td>ISO200など低めのISO感度に設定します。</td><td>P.54</td></tr>
<tr><td>[長秒時ノイズ低減]を[オート]または[ON]に設定します。</td><td>P.80</td></tr>
<tr><td>ISO1600など高感度撮影をしているときは、[高感度ノイズ軽減]を[強]に設定します。</td><td>P.80</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ファインダを見やすくしたい</td><td>視力に合せて視度調整します。</td><td>P.15</td></tr>
<tr><td>視度調整してもファインダが見にくい場合や眼鏡をせずに撮影をしたいときは、別売の視度補正アイカップに付け替えることができます。</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">液晶モニタを見やすくしたい</td><td>液晶モニタの明るさを調整します。</td><td>P.120</td></tr>
<tr><td>ライブビュー中は[LVブースト]を[ON]にすると、露出が液晶モニタに反映されず見やすくなります。</td><td>P.110</td></tr>
<tr><td rowspan="6">手ぶれを防ぎたい</td><td>手ぶれ補正を設定します。</td><td>P.69</td></tr>
<tr><td>カメラをしっかり構えてシャッターボタンを押しましょう。シャッター速度が遅いときは三脚などを使用してカメラを固定してください。</td><td>P.18</td></tr>
<tr><td>フラッシュを発光させます。</td><td>P.81</td></tr>
<tr><td>シーンモードを[ぶれ軽減]に設定します。</td><td>P.5</td></tr>
<tr><td>ISO感度を高く設定します。オートに設定しているときは、オートの上限値を高め（ISO800など）に設定し、暗い状況は自動的にISOが上がるようにします。</td><td>P.54、
P.112</td></tr>
<tr><td>セルフタイマーを使うと、シャッターボタンを押したときの振動を防ぐことができます。</td><td>P.66</td></tr>
</table>

水平・垂直を確認しながら撮影したい	水準器を表示して、カメラの傾きを確認することができます。	P.111
	ライブビューで罫線を表示します。目安となる被写体と罫線が水平垂直になるように、構図を調整します。	P.42、P.111

再　生		
撮影後に画像を確認したい	**[撮影確認]**の設定をします。画像を表示している秒数を設定できます。	P.121
撮影後に画像を確認し、不要な画像をすぐに削除したい	**[撮影確認]**で**[AUTO ▶]**に設定します。撮影後、自動的に再生モードになりますので、1コマ削除をします。	P.121
ピントが合っているか確認したい	クローズアップ再生をしてピントが合っているか確認します。	P.91
目的の画像をすばやく探したい	4～100コマのインデックス再生で一覧表示して探すことができます。	P.93
	カレンダー再生で、撮影日から画像を探すことができます。	P.93
テレビに映して楽しみたい	ビデオケーブルでテレビに接続して画像を映し出します。スライドショーもできます。	P.96
画像を見比べたい	ライトボックス表示で2コマの画像を左右に並べて表示することができます。	P.92
	拡大率を変えずに、他の画像を再生することができます。	P.91

設　定		
設定した内容を保存したい	**[カスタムリセット設定]**で2通りの設定状態を登録しておくことができます。設定を変更してもリセット操作で、登録した設定状態に戻ります。	P.121
	[マイモード設定]で現在のカメラの設定を2つまで登録しておくことができます。マイモードは**Fn**ボタンに機能を割り当てておくと、撮影時に簡単に呼び出せます。	P.108
メニューの表示言語を切り換えたい	表示言語は切り換えることができます。	P.120
	付属のOLYMPUS Masterを使って表示言語を1言語増やすことができます。	P.130

Web版取扱説明書
オリンパスホームページにて作例写真を使った撮影テクニックを紹介しています。
http://www.olympus.co.jp/jp/imsg/webmanual/

本書の表記について

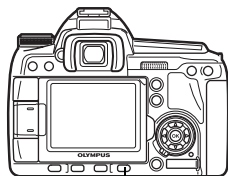
- 本文中の操作ボタンの表記は、カメラ本体上のマークを使用しています。「各部の名称と機能」(☞P.2) をご覧ください。
- 本文中の [メインダイヤル] は、液晶モニタ側のメインダイヤルを表しています。
- 本文中の [サブダイヤル] は、レンズ側のサブダイヤルを表しています。
- 本文中、以下の表記を使用しています。

❗ 注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ライブビューを起動する

撮影する被写体を液晶モニタに表示します。露出やホワイトバランスの効果や構図を映し出しながら撮影することができます。

1 ボタンを押します。

- ミラーアップして液晶モニタに被写体が表示されます。
- **[AF方式]**を**[C-AF]**に設定している場合は、自動的に**[S-AF]**（**[C-AF+MF]**の場合は**[S-AF+MF]**）になります。

ボタン

ライブビュー中の操作

ライブビュー撮影中は以下の機能を使うことができます。

ライブビュー中のピント合わせ

- オートフォーカスの方法を選んで撮影したい ☞P.38
- フォーカスロックして撮影したい ☞P.39
- マニュアルフォーカスでピントの調整をしながら撮影したい ☞P.41
- 顔にピントを合わせて撮影したい ☞P.41
- ピントを合わせたい部分を拡大して、確認しながら撮影したい ☞P.43

効果を見ながら撮影する

- 露出補正またはホワイトバランスの効果を比較しながら撮影したい ☞P.43
- パノラマ撮影する ☞P.44
- 手ぶれ補正の効果を確認しながら撮影したい ☞P.69

液晶モニタの表示を切り換える

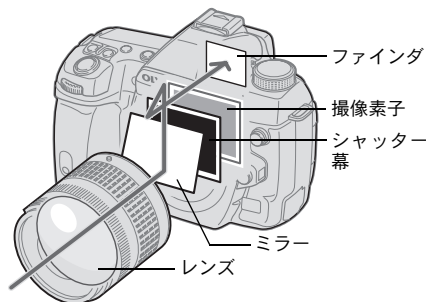
- 情報表示を消したい。ヒストグラムや罫線を表示したい ☞P.42
- 暗い場所でも被写体を液晶モニタで確認しやすくしたい ☞P.110

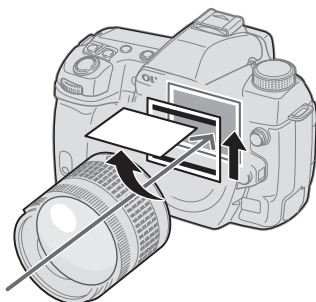
注意

- 画面内に高輝度の光源があると黒く表示されますが、撮影画像は正常に記録されます。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、ISO感度を高くした画像ではノイズや色むらが発生します。ISO感度を低くして撮影するかしばらく電源を切ってください。
- レンズを交換するとライブビューは停止します。
- ライブビュー中は以下の機能は使用できません。
  C-AF／AEロック*／**[AEL/AFLモード]**
  * **[LV中AF]**を**[イメージャ AF]**に設定時は可能です。
- **[イメージャ AF]**では、AFイルミネータは使用できません。

ライブビューの仕組み

ライブビューでは、通常の撮影で使用する撮像素子（LiveMOS／イメージャ）に写る映像を液晶モニタに映し出します。これによって、露出補正やホワイトバランスなどの結果を液晶モニタ上で確認することができます。また、被写体の一部を拡大してピント合わせをする、罫線を表示して水平を確認しながら撮る、といった操作が可能になります。
ライブビューで液晶モニタに像を映し出しているときは、ミラーが上がってシャッターは開いている状態になります。そのため、ファインダで被写体を見ることができなくなります。
ファインダから強い光が入ると、正しく測光できない場合があります。その場合はアイピースカバーを取り付けてください。☞「アイピースカバー」（P.66）

ファインダによる撮影

• レンズから入った光はミラーで反射されファインダで被写体を確認します。

ライブビュー撮影

• ミラーがアップしてシャッターが開き、撮像素子に写る被写体が液晶モニタに表示されます。

ライブビュー撮影する

ライブビュー中のオートフォーカスは、3種類の設定を選ぶことができます。**[LV中AF]**の設定によってピント合わせが働くタイミングやAFの仕組みが変わります。

メニュー **MENU ▸ [ʏ1] ▸ [iA] ▸ [LV中AF]**

LV中AFの特徴

LV中AF	シャッターボタンの操作		フォーカスロック	使用制限
	半押し	全押し		
イメージャ AF（初期設定）	イメージャを使ったAF作動	撮影	シャッターボタン半押し、または**AEL/AFL**ボタンを押します。	対応レンズのみ可能*
全押しAF	—	AFセンサーによるAFをして、撮影	**AEL/AFL**ボタンを押しながら、シャッターボタンを全押しします。	なし
ハイブリッドAF	イメージャを使ったAF作動（おおよそのピント合わせ）	AFセンサーによるAFをして、撮影	**AEL/AFL**ボタンを押しながら、シャッターボタンを全押しします。	なし

* イメージャAFに対応しているオリンパスレンズは、オリンパスホームページでご確認ください。**[イメージャ AF]**に対応していないレンズをお使いの場合は、**[ハイブリッドAF]**に自動的に切り換わります。

[イメージャ AF]で撮る

1 シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと合焦マークとAFターゲットマークが点灯します。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

合焦マーク

AFターゲットマーク

[全押しAF]で撮る

1 シャッターボタンを全押しします。

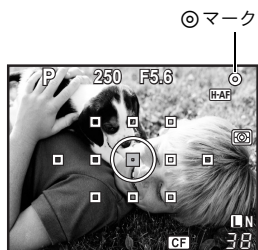
- ミラーダウンしてピント合わせを行い、撮影します。
- ピント合わせをしている間は、ミラーダウン直前の静止画が表示されます。
- ピントが合わないときはシャッター音はしますが、撮影されません。
- あらかじめピント合わせをして撮影する時は、**AEL/AFL**ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。ピントが合うと合焦マークが点灯します。点滅したときはピントが合っていません。

[ハイブリッドAF]で撮る

1 シャッターボタンを半押しします。

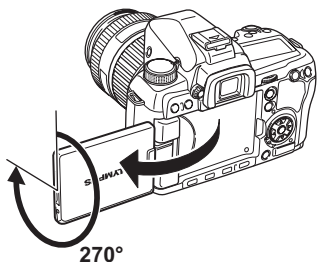
- イメージャ AF が作動し、液晶モニタで被写体が確認できるようになります。
- イメージャAFによりおおよそのピントが合うと、◎マークが点灯します。

2 シャッターボタンを全押しします。

- **[全押し AF]** と同じ動作でピント合わせをして撮影されます。

液晶モニタの角度を変えて撮影する

このカメラは液晶モニタの角度を変えることができます。見にくいアングルでも、液晶モニタで構図を確認しながら撮影できます。

- 液晶モニタは可動範囲内でゆっくりと動かしてください。

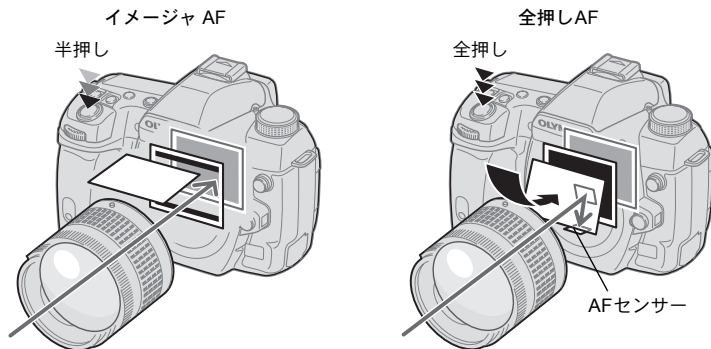
1

ライブビュー撮影

ライブビュー中のAF動作

[イメージャ AF]
シャッターボタンを半押しすると、撮像素子を使ってAFが行われます。

[全押しAF]
シャッターボタンを全押しすると、通常のファインダ撮影と同じ方法でAFが行なわれて撮影されます（シャッターボタンを半押ししたときにはピント合わせを行いません）。

[ハイブリッドAF]
シャッターボタンを半押しすると、イメージャ AFによりおおよそのピント合わせを行い、液晶モニタで被写体が確認できるようになります。シャッターボタンを全押しすると、**[全押しAF]**と同じ動作でAFが行われます。シャッターボタンを半押ししたときにピント位置がおおよそ調整されているため、全押ししてから撮影されるまでの時間が短くなります。S-AF+MF撮影時には、シャッターボタンを半押しした状態から、液晶モニタを見ながらピントの微調整ができるので便利です。

AF中のカメラの状態

• 撮像素子によるピント合わせが行われます。

• ミラーが下がって AF センサーによるピント合わせが行われます（ミラーが下がっているので、液晶モニタの画面はシャッターボタンを全押しする直前の画像で止まったままになります）。

顔検出機能を使う

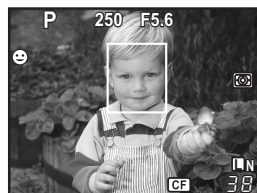
[☻顔検出]を**[ON]**にすると、画面の範囲内から人物の顔を検出し、ピント合わせや測光の調整を自動的に行います。

ダイレクトボタン	**Fn（押すたびにON/OFFが切り換わります。）**
スーパーコンパネ	Ⓞ ▸ ◎ ▸ **[☻顔検出]**
メニュー	**MENU ▸ [🔧1] ▸ [🆔] ▸ [☻顔検出] ▸ [ON]**

- **Fn**ボタンを使うには、あらかじめメニューで**[フェイス&バック]**を設定しておく必要があります。☞「Fnボタン機能」（P.107）
- **Fn**ボタンを使って**[☻顔検出]**を**[ON]**に設定すると、以下の機能が人物撮影に最適な設定に自動的に切り換わります。

機能	設定	参照ページ
測光	[ESP]	P.50
階調	オート	P.79
LV中AF	イメージャ AF	P.38
AF方式	S-AF	P.58
AFターゲット選択	[:::]	P.61

1 カメラが顔を検出すると、その位置に枠が表示されます。

- シャッターボタンを押すと、検出された枠の位置でピントを合わせます（**[AFターゲット選択]**で1点を選択しているときは、その位置でピント合わせをします）。
- **[全押しAF][ハイブリッドAF]**では、表示された枠に一番近いAFターゲットの位置でピントを合わせます。

❗ 注意

- 連写中は最初の1コマのみ顔検出機能が働きます。
- 被写体によっては、顔が検出できないことがあります。

マニュアルフォーカスで撮る

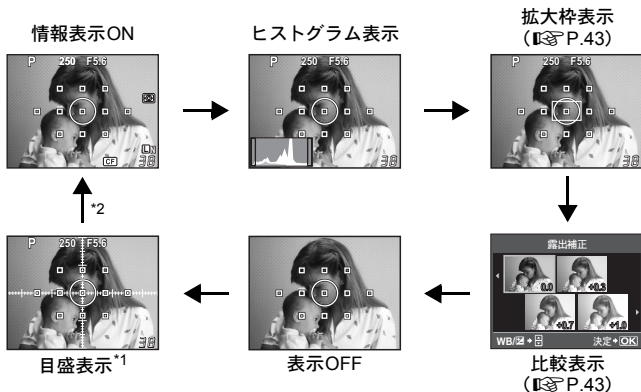
ライブビュー中は、液晶モニタでピントを確認しながらMF撮影できます。

1 AF方式を[S-AF+MF]または[MF]に設定します。☞「AF方式の選択」（P.58）

2 フォーカスリングを回してピントを合わせます。

- **[S-AF+MF]**ではシャッターボタン半押し、または**AEL/AFL**ボタンを押してAFを行い、その状態でフォーカスリングを回してピントを微調整して撮影できます。
- ピントを調整するときは、拡大表示を使うと便利です。☞「拡大表示の操作」（P.43）

情報表示を切り換える

INFOボタンを繰り返し押して、液晶モニタに表示される情報を切り換えることができます。**INFO**ボタンを押しながらダイヤルを回して切り換えることもできます。

*1 **[INFO表示設定]**（☞P.111）で、方眼や黄金分割の罫線表示をすることもできます。
*2 多重露出撮影中（☞P.56）および**[水準器]**（☞P.111）を**[ON]**に設定している場合は、この後「多重露出表示」、「デジタル水準表示」に切り換わります。

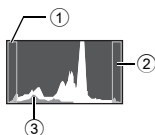
こんなときは

よく使う表示にすばやく切り換えたい：

→「情報表示 ON」以外の情報表示を表示しないようにできます。☞「INFO 表示設定」（P.111）

ヒストグラム表示について知りたい：

→ヒストグラム表示の簡単な見かたは次の通りです。

① このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は黒くつぶれ気味に写ります。
② このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は白くとび気味に写ります。
③ ヒストグラムの緑色の部分は、スポット測光エリア内の輝度分布です。

効果を比較しながら撮影する

4分割された画面上で露出補正またはホワイトバランスの効果を比較しながら撮影することができます。

1 INFOボタンを繰り返し押して、比較表示画面を表示します。

☞「情報表示を切り換える」（P.42）

- 露出補正の比較画面が表示されます。△を押すとホワイトバランスの比較画面になります。△▽を押して切り換えます。

2 ◁▷またはダイヤルで設定値を選択し、Ⓞボタンを押します。

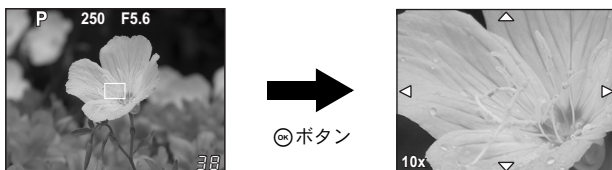
- 選択した設定値で、撮影できる状態になります。

注意

- **M**モードでは露出補正の設定はできません。
- ART/SCNモードではこの機能は使用できません。

拡大表示の操作

被写体を拡大して、液晶モニタに表示することができます。MFで画像を拡大してピントの確認や調整をするのに便利です。

Ⓞボタン

1 INFOボタンを繰り返し押して、拡大枠表示画面を表示します。

☞「情報表示を切り換える」（P.42）

- 拡大枠が表示されます。

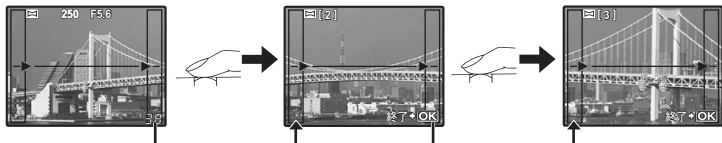
2 ✥で枠を移動し、Ⓞボタンを押します。

- 枠の部分が拡大表示されます。
- Ⓞボタンを長押しすると、移動した拡大枠は中央に戻ります。

3 ダイヤルを回して、倍率（5倍／7倍／10倍）を切り換えます。

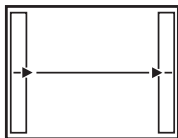
- 拡大表示中も✥でスクロールすることができます。
- Ⓞボタンを押すと、拡大表示は解除されます。
- 拡大表示中は、シャッターボタンを全押ししてもAFは作動しません。拡大表示でピントを確認した位置で撮影ができます。

パノラマ撮影

OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードを使って、パノラマ撮影を簡単に楽しむことができます。被写体の端が重なるように撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROM）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。
最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

- 重なり合う画像の共通部分には、できるだけ目印となる被写体を入れて撮影してください。

1 モードを設定します。 ☞「アートフィルター／シーンの設定方法」（P.5）
- ライブビューに切り換わります。

2 でつなげる方向を指定し、被写体の端が重なるように撮影します。

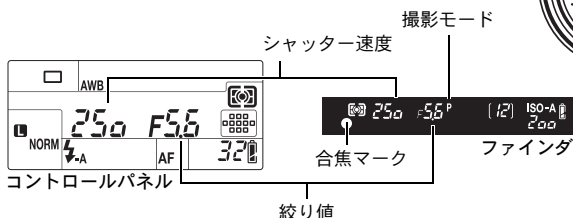
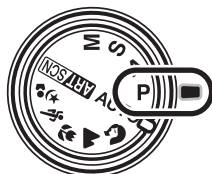
：次の画像を右につなげます。
：次の画像を左につなげます。
：次の画像を上につなげます。
：次の画像を下につなげます。

- 被写体が重なるように構図を変えながら撮影します。
- ピント、露出などは1枚目で決定されます。
- 10枚撮り終わると（警告）マークが表示されます。
- 1コマ目の撮影前にボタンを押すと、シーンモードの選択メニューに戻ります。
- 撮影の途中でボタンを押すと、一連のパノラマ撮影を終了し、続けて次のパノラマ撮影ができます。

注意
- OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードをカメラにセットしていないときは、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影時には、前に撮影した位置合わせ用の画像は残りません。画像に表示される枠や目印となる被写体を目安に、重なり合う画像の端が枠の中に重なるように構図を設定してください。

プログラム撮影 P

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する自動露出モードです。

モードダイヤルをPにします。

• シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度と絞り値がファインダとコントロールパネルに表示されます。

プログラムシフト（Ps）

Pモードのときメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。

☞「プログラム線図（**P**モード）」（P.149）

• プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダやコントロールパネルの**Ps**表示が消えるまでメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。または、カメラの電源を一度切ります。
• フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

こんなときは

シャッター速度と絞り値が点滅している：

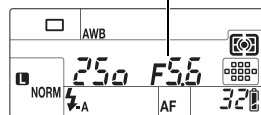
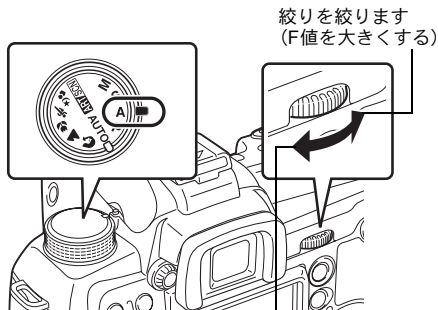
→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.150）をご覧ください。

絞り優先撮影 A

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞りを開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

絞り値 (F値) を小さくしたとき

絞り値 (F値) を大きくしたとき

モードダイヤルをAにし、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して絞り値を設定します。

こんなときは

設定した絞り値での被写界深度を確認したい：

→「プレビュー機能」（☞P.50）をご覧ください。

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.112）

シャッター速度が点滅している：

→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.150）をご覧ください。

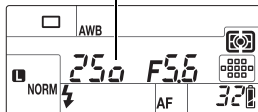
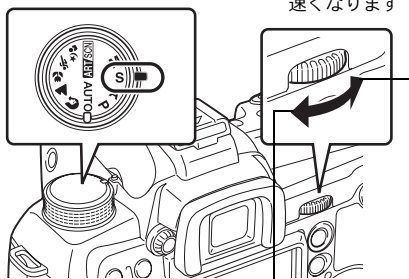
シャッター優先撮影　S

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

モードダイヤルをSにし、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、シャッター速度を設定します。

ファインダ

コントロールパネル

こんなときは

画像がぶれる：

→近接撮影や超望遠撮影では、画像がぶれやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

→シャッター速度が遅いときには手ぶれしやすくなります。手ぶれ補正を使って手ぶれを抑えることができます。☞「手ぶれ補正」（P.69）

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.112）

絞り値が点滅している：

→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.150）をご覧ください。

マニュアル撮影 M

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。

モードダイヤルをMにし、ダイヤルを回して設定します。

絞り値：メインダイヤルを回して設定します。

シャッター速度：サブダイヤルを回して設定します。

- 絞りの設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は1/8000～60秒および**[BULB]**（バルブ）に設定できます。
- **M**モードでは露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、-3EV～+3EVの範囲で表示されます。±3EVを超える場合は、インジケータ全体が点滅します。

露出アンダー

露出オーバー

適正露出

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に現れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラは長秒時ノイズ低減が働きます。

☞「長秒時ノイズ低減」（P.80）

こんなときは

画像がぶれる：

→シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

→シャッター速度が遅いときには手ぶれしやすくなります。手ぶれ補正を使って手ぶれを抑えることができます。☞「手ぶれ補正」（P.69）

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.112）

メインダイヤルとサブダイヤルの操作を入れ換えたい：

→ダイヤルで設定する機能を入れ換えることができます。☞「ダイヤル機能」（P.105）

注意

- **M**モードでは、露出補正はできません。

バルブ撮影

シャッターボタンを押している間露光し続けるバルブ撮影を行います。
別売のリモコン（RM-1）を使ってバルブ撮影することもできます。☞「リモコンによるバルブ撮影」（P.68）

Mモードでシャッター速度を[BULB]に設定します。

- ファインダ、コントロールパネルにbuLbと表示されます。

buLb

こんなときは

一定時間経過後、バルブ撮影が自動で終了するようにしたい：

→バルブ撮影の最長時間を設定できます。☞「BULBリミッター」（P.112）

MFで撮影中にピントが動かないようにしたい：

→露光中にフォーカスリングを回してもピントが動かないようにすることができます。☞「BULB中MF」（P.104）

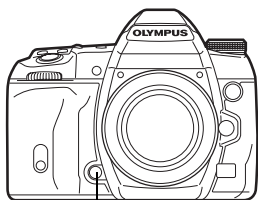
注意

- バルブ撮影中は、以下の機能は使用できません。
  連写／セルフタイマー撮影／AEブラケット撮影／手ぶれ補正／フラッシュブラケット

プレビュー機能

実際に絞りを動作させて、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。

プレビューボタンを押すと、設定された絞り値まで絞り込まれます。

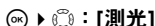
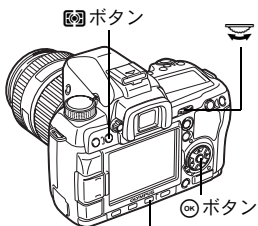
- **[Fn ボタン機能]**を**[プレビュー]**または**[ライブプレビュー]**に設定しているときは、Fn ボタンでもプレビュー操作できます。
  ☞「Fn ボタン機能」（P.107）

プレビューボタン

測光方式の変更

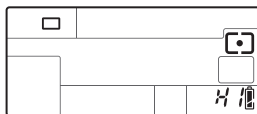
このカメラはデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光など5つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

ダイレクトボタン	▶
スーパーコンパネ	▶ ：**[測光]**
メニュー	**MENU ▶ [2] ▶ [測光]**

ボタン

ボタン

MENUボタン

設定中の表示

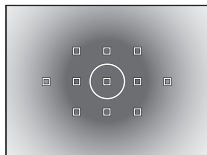
ファインダ

コントロールパネル

- ：デジタルESP測光
- ：中央重点平均測光
- ：スポット測光
- HI ：スポット測光ハイライトコントロール
- SH ：スポット測光シャドウコントロール

デジタルESP測光

画面を49分割測光し、それぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。通常はこのモードをおすすめします。AF連動機能を**[AF連動ON]**にすると、AFでピントを合わせたAFターゲットを中心に測光するパターンが稼動します。

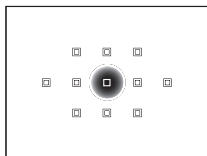
中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

スポット測光

画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。

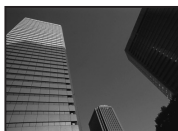
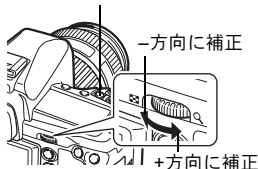
：測光範囲

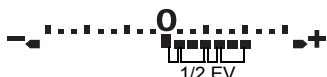
HI スポット測光ハイライトコントロール

測光したポイントの露出がオーバーになるように設定します。白い被写体を白く表現したいときに使います。
測光範囲はスポット測光と同じです。

SH スポット測光シャドウコントロール

測光したポイントの露出がアンダーになるように設定します。黒い被写体を黒く表現したいときに使います。測光範囲はスポット測光と同じです。

露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、+に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に–に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。

- 露出補正インジケータが表示されます。露出補正が0のときは、露出補正インジケータは表示されません。

1/3EVステップの場合　　1/2EVステップの場合

1/3 EV　　1/2 EV

- 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているとき、ファインダとコントロールパネルのインジケータが点滅します。スーパーコンパネのインジケータは左右端に赤い◀▶が表示されます。

こんなときは

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.112）

ダイヤルの操作だけで露出補正をしたい：

→±ボタンを押さないで露出補正が設定できるようにできます。
☞「ダイヤル機能」（P.105）

注意

- **M**、**SCN**モードでは、露出補正はできません。

AEロック　AEL

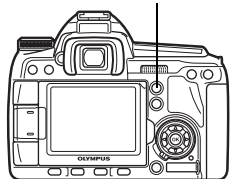
AEL/AFLボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL/AFL**ボタンを押して露出のみを固定することができます。

測光値を固定したいところでAEL/AFLボタンを押すと、露出が固定されます。AEL/AFLボタンを押している間は露出が固定されるので、そのままシャッターボタンを押します。

- **AEL/AFL** ボタンを離すと、AE ロックが解除されます。

AEロック

ファインダ

こんなときは

露出を固定したい：

→**AEL/AFL**ボタンから指を離しても、測光した状態を固定することもできます。
☞「AEL/AFL MEMO」（P.106）

AEL/AFLボタンとシャッターボタンを同時に押しにくい：

→**AEL/AFL**ボタンと**Fn**ボタンの機能を交換することができます。
☞「AEL/AFL⇌Fn」（P.108）

決まった測光方式でAEロックしたい：

→AEロックで露出を固定するときの測光方式を設定しておくことができます。
☞「AEL測光モード」（P.112）

AEブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適正露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正～–補正～+補正の順に撮影されます。

例）BKT設定が**[3F 1.0EV]**の場合

-1.0EV

±0

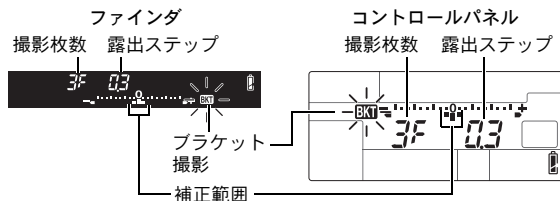
+1.0EV

補正量：0.3・0.7・1.0

• 補正量は露出ステップを変更すると変わります。☞「露出ステップ」（P.112）

撮影枚数：3枚／5枚

ダイレクトボタン	**+ AF ▸** /
メニュー	**MENU ▸ [2] ▸ [AE BKT]**

設定中の表示

撮影します。

- 単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、露出を変えて撮影します。
- 連写モードでは、設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。
- シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときはファインダとコントロールパネルにBKTが点滅し、スーパーコンパネにBKTが緑で表示されます。

撮影モードによる補正の方法

設定している撮影モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード：絞り値とシャッター速度
Aモード：シャッター速度
Sモード：絞り値
Mモード：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心にAEブラケット撮影をしたい：

→露出補正値を設定した状態で、AEブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行われます。

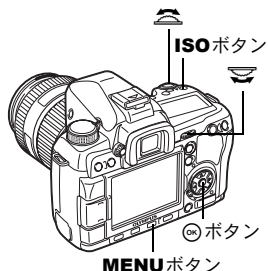
ISO感度の設定 ISO

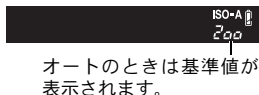
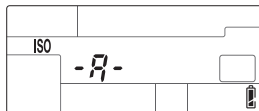
ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところでの撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。

ダイレクトボタン	**ISO** ▸ /
スーパーコンパネ	OK ▸ ：**[ISO感度]**
メニュー	**MENU** ▸ **[]** ▸ **[ISO感度]**

[オート]　：撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ISOオート設定で、基準値（適正露出が得られる撮影状況で通常使用する値）と上限値（自動的に変わる感度の上限値）を設定できます。☞「ISOオート設定」（P.112）

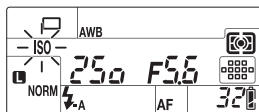
[100～3200]：ISO感度を固定します。ISOステップは1/3EVまたは1EVステップで設定します。☞「ISO感度ステップ」（P.112）

2 露出

設定中の表示

ファインダ　　　　　　　　　　コントロールパネル

オートのときは基準値が表示されます。

	ファインダ	コントロールパネル
オート：	ISO-A	-A-
100：	100	100
～	～	～
3200：	3200	3200

• 125、1250はファインダでは120、1200と表示されます。

設定後の表示

ファインダ　　　　　　　　　　コントロールパネル

オートに設定しているときは、ISO-Aとカメラが判断したISO値が表示されます。オート以外の設定ではISOと設定値が表示されます。2000以上に設定するとISOが点滅します。

オート以外の設定ではISOと表示されます。2000以上に設定するとISOが点滅します。

こんなときは

Mモードでも自動的に適正ISOになるようにしたい：

→通常、**M**モードではオートの設定は使用できませんが、すべての撮影モードで使えるようにできます。☞「ISOオート有効」（P.112）

ISOブラケット撮影

撮影時のシャッター速度と絞り値を固定したまま、ISO感度を自動的に変えてブラケット撮影します。1回の撮影で露出の異なる3枚の画像が、設定したISO感度（オート設定時は適正ISO）～−補正～+補正の順に記録されます。

補正量：0.3・0.7・1.0

• ISOステップの設定に関わらず、補正量は1/3EVステップになります。

撮影枚数：3 枚

メニュー　**MENU ▸ [📷2] ▸ [ISO BKT]**

注意

• **[ISOオート設定]**で設定した上限値とは関係なくブラケット撮影が行われます。

多重露出撮影

複数コマの画像を重ねて合成し、1つの画像として保存します。保存時に設定されている画質モードで保存されます。
撮影をしながら合成する方法と、撮影した画像を再生モードで合成する方法の2種類があります。

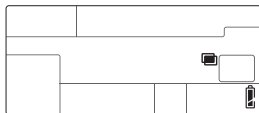
多重露出
撮影モードで、最大4コマの撮影画像を重ねて合成し、1つの画像として保存します。すでに保存されているRAW形式の画像に撮影画像を重ねて合成することもできます。

[コマ数]：撮影回数を**[2コマ][3コマ][4コマ]**から設定します。
[自動ゲイン補正]：**[ON]** に設定すると、各コマの明るさを「1／撮影回数」にしてから合成します。**[OFF]**に設定すると、各コマの明るさのままで合成します。
[再生画+多重]：**[ON]** に設定すると、カードに記録された RAW 形式の画像に重ねて多重露出撮影ができます。撮影した画像は別の画像として保存されます。撮影回数は設定した**[コマ数]**より1回少なくなります。

画像合成
再生モードで、最大4コマのRAW形式の画像を重ねて合成し、1つの画像として保存します。☞「画像合成」（P.98）

メニュー **MENU ▶ [撮影2] ▶ [多重露出]**

設定中の表示
- 多重露出を設定するとコントロールパネルとスーパーコンパネに▣が表示されます。撮影を中断したときは▣が点滅し、スーパーコンパネには▣が緑で表示されます。

コントロールパネル

こんなときは

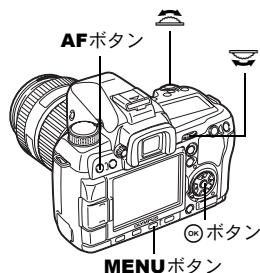
撮影途中の画像を取り消したい：
→🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像が取り消されます。
1コマずつ構図を確認しながら多重露出撮影したい：
→ライブビュー撮影します。液晶モニタに途中の合成画像が半透過で表示されるので、合成位置を確認しながら撮影できます。
5コマ以上撮影画像を合成したい：
→画像をRAW形式で保存し、繰り返し**[再生画+多重]**で多重露出撮影すると、5コマ以上の撮影画像の合成が可能です。

注意

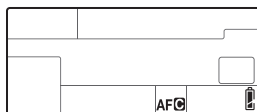
- 多重露出を設定すると、自動的に**[スリープ時間]**は**[OFF]**に設定されます。
- 他のカメラで撮影したRAW形式の画像は、撮影画像を合成できません。
- **[再生画+多重]**を**[ON]**に設定し、RAW形式の画像を選択するときに表示される画像は、撮影時の設定で現像されたものです。
- 撮影に関する設定は、多重露出撮影を解除してから行ってください。一部設定できない機能があります。
- 次の場合は多重露出が自動的に解除されます。
  電源を切る／▶ボタンを押す／**Fn**ボタンを押す（**[ワンタッチWB][試し撮り撮影][マイモード撮影]**が登録されている場合）／**P**/**A**/**S**/**M**/**AUTO**以外の撮影モードにする／レンズ取り外しボタンを押す／バッテリー残量がなくなる／カードカバーの開閉／カード切り換え／液晶モニタを収納／USBケーブル挿入
- 多重露出撮影の1コマ目の情報が、撮影情報として表示されます。

AF方式の選択 AF

フォーカスモードにはS-AF、C-AF、MFの3つのモードがあります。
S-AFとMF、C-AFとMFを組み合わせて撮影することもできます。

ダイレクトボタン	AF ▶ /
スーパーコンパネ	▶ ：[AF方式]
メニュー	MENU ▶ [] ▶ [AF方式]

設定中の表示

ファインダ　コントロールパネル

	ファインダ	コントロールパネル
S-AF	： S.AF	AF
C-AF	： C.AF	AF©
MF	： -F	MF
S-AF+MF	： S.AF -F	MFAF
C-AF+MF	： C.AF -F	MFAF©

S-AF（シングルAF）

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

シャッターボタンを半押しします。
- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

ファインダ
250 F5.6 P [12] ISO-A 200
合焦マーク

こんなときは

暗い場所だとAFではピントを合わせにくい：

→内蔵フラッシュをAFイルミネータとして機能させると、AFではピントが合わせにくい暗いところでもピントが合いやすくなります。☞「AFイルミネータ」（P.103）

AF方式をすばやくMFモードに切り換えたい：

→**Fn**ボタンに**[MF切換]**を登録すると、**Fn**ボタンを押すだけでMFモードに切り換えられます。☞「Fnボタン機能」（P.107）

ピントが合わない状態でも撮影できるようにしたい：

→「レリーズ優先S、レリーズ優先C」（☞P.109）をご覧ください。

ファインダ内のAFターゲット合焦点灯を消したい：

→ピントが合うとファインダ内でAFターゲットが赤く点灯します。点灯しないようにすることもできます。☞「AFターゲット表示」（P.103）

C-AF（コンティニュアスAF）

シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合ってもAFターゲットは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。

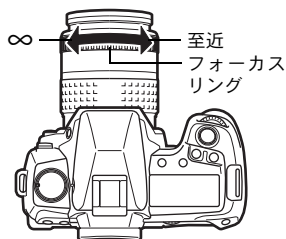
こんなときは

被写体の前を何かが横切った場合でもピント合わせしてしまうのが煩わしい：

→被写体距離が変化しても、すぐに追従してピント合わせしないように設定できます。☞「AFロックオン」（P.103）

MF（マニュアルフォーカス）

任意の位置に手動でピントを合わせることができます。

フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。

こんなときは

フォーカスリングの回転方向を変えたい：

→フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り換えることができます。☞「フォーカスリング」（P.103）

ピントが合っているか知りたい（フォーカスエイド）：

→フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。**[AFターゲット選択]**で**[::::]**を設定している場合は、中央のAFターゲットでのピントが選択されます。

S-AFモードとMFモードの併用（S-AF+MF）

S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。

- シャッターボタンを半押ししてAFが合ったら、フォーカスリングを回してピントの微調整をします。

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AFモードとMFモードの併用（C-AF+MF）

あらかじめフォーカスリングでピント合わせをしておいて、シャッターボタンを半押しするとC-AFモードの動作をします。

- シャッターボタンを押している間は、MFは使用できません。
- シャッターボタンを押していないときは、MFでピント合わせできます。

こんなときは

C-AFモードでも手動でピントの微調整をしたい：

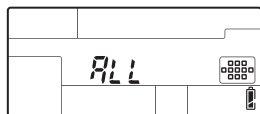
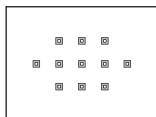
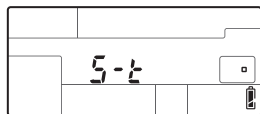
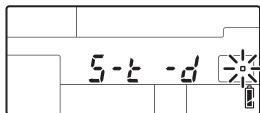
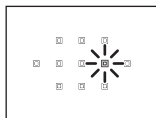
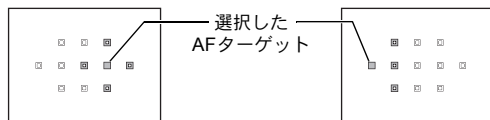
→**AEL/AFL**ボタンで手動でC-AFが動作するように設定できます。☞「AEL/AFLモード」（P.106）

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AF が作動し、微調整はキャンセルされます。

AFターゲットの選択

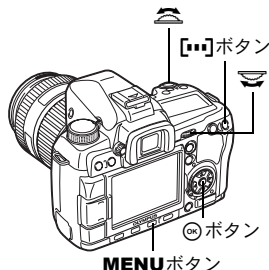
このカメラは、オートフォーカスで被写体にピントを合わせるためのAFターゲットが11点あります。被写体や構図にあわせて最適なAFターゲットモードを選択して撮影します。
AFターゲットモードは、すべてのAFターゲットを使ってAFを行う「オールターゲットAFモード」と、選択した1点を中心にAFを行う「シングルターゲットAFモード」があります。

[::::]オールターゲットAFモード
11点のAFターゲットの中から一番手前にある被写体にあわせて、カメラが自動的にピント合わせをします。動き回る被写体やピント合わせをカメラまかせにして撮影するときに適しています。

[・]シングルターゲットAFモード
([・]sスモールシングルターゲットAFモード)
選択した1つのAFターゲットでピント合わせをします。構図を決めて正確にピント合わせをしたいときに便利です。**[・]**では1点のAFターゲットよりやや広い範囲でピント合わせをしますが、その範囲をAFターゲット内のみに設定することもできます。**[AFターゲットサイズ]**で**[小]**を選択すると、選択肢の表示が**[・]s**になります。☞「AFターゲットサイズ」(P.104)

[·:·]ダイナミックシングルターゲットAFモード
選択した1つのAFターゲットでピント合わせができない場合は、隣り合ったAFターゲットでピント合わせをします。

3
ピント合わせ/撮影機能

ダイレクトボタン　[▪▪▪] + 〔サブダイヤル〕/〔メインダイヤル〕

- ボタンから指を離すと現在設定しているAFターゲットが点灯します。**[・]**または**[·:·]**の場合は、その状態から使用するAFターゲットを選択できます。操作については、次項「AFターゲットの位置を選択する」（☞P.62）の手順2をご覧ください。

スーパーコンパネ　Ⓞ ▸ 〔十字ボタン〕: [AFターゲット選択] ▸ [▪▪▪] + 〔メインダイヤル〕

- **[・]**または**[·:·]**設定時は、ダイヤルを回してAFターゲットを選択します。

メニュー　MENU ▸ [〔カメラ2〕] ▸ [AFターゲット選択]

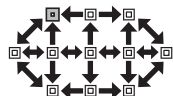
- **[・]**または**[·:·]**設定時は、〔十字ボタン〕でAFターゲットを選択します。

AFターゲットの位置を選択する

シングルターゲットAFモードで使用するAFターゲットを選択します。

1 [▪▪▪]ボタンを押して指を離すと、AFターゲットを選択できる状態になります。

2 メインダイヤルまたはサブダイヤル、十字ボタンを操作して、AFターゲットを選択します。

- メインダイヤルは 〔上〕〔下〕 方向、サブダイヤルは〔左〕〔右〕方向に移動します。
- Ⓞボタンを押すとAFターゲットの位置が中央に戻ります。

こんなときは

AFターゲットを選択操作するときの動作を選びたい：

→AFターゲットを選択するときの、ダイヤルと十字ボタン操作の動きを変更することができます。☞「[▪▪▪]循環選択」（P.104）

[▪▪▪]ボタンを押さないで十字ボタンだけでAFターゲットの位置を選択したい：

→シャッターボタンを半押しして離した後、十字ボタンを押してAFターゲットの位置を変更することができます。☞「〔十字ボタン〕ボタン機能」（P.108）

❗ 注意

- **[LV中AF]**が**[イメージャAF]**または**[ハイブリッドAF]**の時は、ダイナミックシングルターゲットAFモードは使用できません。

AFターゲットモードを登録する

よく使うAFターゲットモードと、そのAFターゲットの位置を登録しておくことができます。登録した状態（ホームポジションと呼びます）を瞬時に呼び出して撮影することができます。

登録する

1 「AFターゲットの位置を選択する」（☞P.62）の手順2の画面で、Fn ボタンと ボタンを同時に押します。

- ボタンを押したときの状態でホームポジションが登録されます。
- メニューから操作した場合はホームポジションの登録はできません。

登録中であることを示します。

撮影する

この機能を使うには、あらかじめ Fn ボタンに**[[▪▪▪]HOME]**機能を割り当てておきます。☞「Fnボタン機能」（P.107）

1 Fn ボタンを押します。

- 登録したホームポジションになります。再度押すと、元のAFターゲットモードに戻ります。

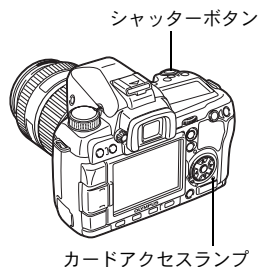
注意

- ホームポジション登録では、AFターゲットサイズの状態は記憶されません。

フォーカスロック—ピントが合わないとき

被写体が画面中央にないときなど、オートフォーカスではピントが合わないことがあります。このような場合の簡単な対処方法にフォーカスロックがあります。被写体がAFターゲットから外れる構図のときやオートフォーカスが苦手な被写体で使用します。

1 ピントを合わせたいものに AF ターゲットを合わせ、シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。

- ピントが固定されます。合焦マークと、ピントの合ったAFターゲットがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- シャッターボタンを操作している間は、スーパーコンパネが消えます。

例）中央の AF ターゲットでピント合わせをする場合

2 半押しした状態のまま、撮影したい構図に移し全押しします。

- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。

被写体のコントラストが弱いとき

明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなど、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わないことがあります。被写体と等距離でコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックし、そのまま構図を決めて撮影してください。

連写

単写□　一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。
連写H　シャッターボタンを押している間、約5コマ／秒で連続撮影できます（S-AF、MF時）。
連写L　シャッターボタンを押している間、設定した速度（「L設定」（P.109））で連続撮影できます。

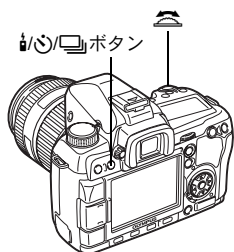
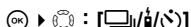
- 連写のときは、シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指を離すと連写は止まります。
- ピント・露出・ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます（S-AF、MF時）。

連続撮影可能枚数

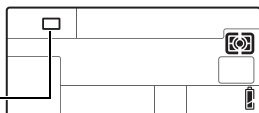
注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

設定方法

ダイレクトボタン 　/ / ボタン ▶ ダイヤル

スーパーコンパネ 　OK ▶ 十字ボタン：[/ /]

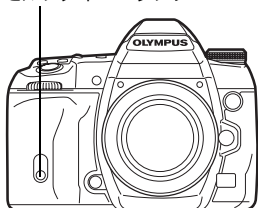
設定中の表示

連写H	：b-d H	H
連写L	：b-d L	L
12秒セルフタイマー	：SEL F 12	12
2秒セルフタイマー	：SEL F 2	2
リモコン	：r-d 0	
2秒リモコン	：r-d 2	2

- 低振動モードの表示：
  ファインダ・コントロールパネルでは表示の点滅が、スーパーコンパネでは◆マークが低振動モードであることを示します。

セルフタイマー撮影

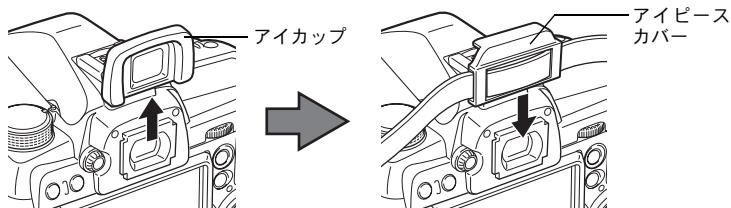
シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
設定方法は「連写」（☞P.65）をご覧ください。

シャッターボタンを全押しします。

- 12sの場合：セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、撮影されます。
- 2sの場合　：セルフタイマーランプが約 2 秒間点滅した後、撮影されます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、ボタンを押します。

注意

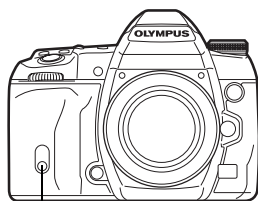
- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

アイピースカバー

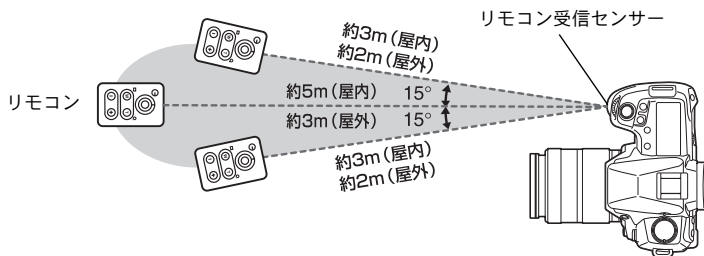
ファインダから顔を離して撮影するときは、ファインダから入る光で露出が変らないように、アイピースカバーをファインダに取り付けます。アイカップを図のように外してからアイピースカバーを取り付けてください。別売のアイカップに交換するときも同様に取り付けてください。

リモコン撮影

別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。
リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターが切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。またリモコンバルブ撮影も可能です。
設定方法は「連写」（☞P.65）をご覧ください。
• 別売のリモートケーブル（RM-UC1）による撮影も可能です。

カメラを三脚などでしっかりと固定し、リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

• 0sの場合　：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
• 2sの場合　：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信センサーに太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。

3
ピント合わせ／撮影機能

こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない：

→リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→リモコン信号が混信しています。リモコンとカメラを向かい合わせ、リモコンのCHボタンとズームボタンのWまたはTを同時に、カメラのリモコンランプが点滅するか受信音が鳴るまで、3秒以上押し続けます。

リモコンモードを解除したい：

→リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。/ / ボタンを押して、**[ ]**（単写）などに設定してください。

カメラのシャッターボタンを使って撮影したい：

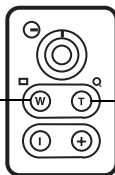
→リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

注意

- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

リモコンによるバルブ撮影

モードダイヤルを**M**にセットし、シャッター速度を**[BULB]**に設定します。
☞「バルブ撮影」（P.49）

Wボタンを押すとシャッターが開きます。
「BULBリミッター」（☞P.112）で設定した時間が経過すると、自動的にシャッターが閉じます。

Tボタンを押すとシャッターが閉じます。

低振動モード

ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラぶれを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

1 **MENU ▸ [2] ▸ [低振動モード[ ]]**

2 **ミラーアップ後から撮影されるまでの時間を1～30秒から選択し、OKボタンを押します。**

3 **撮影機能（単写／連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影）に低振動モードがそれぞれ追加されます。設定方法は「連写」（☞P.65）をご覧ください。**

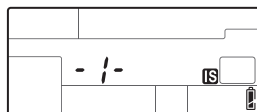
3
ピント合わせ／撮影機能

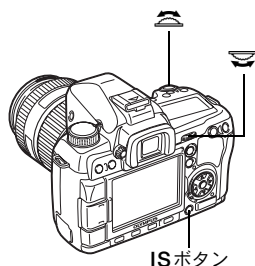
手ぶれ補正 IS

被写体が暗い場面や、高倍率撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。

OFF　手ぶれを補正しません。
I.S. 1　手ぶれを補正します。
I.S. 2　カメラの横方向の流し撮りをするときに使います。横方向の手ぶれ補正機能を停止し、縦方向の手ぶれのみ補正します。
I.S. 3　カメラの縦方向の流し撮りをするときに使います。縦方向の手ぶれ補正機能を停止し、横方向の手ぶれのみ補正します。

ダイレクトボタン　IS ▸ ダイヤル / ダイヤル

ファインダ

コントロールパネル

oFF　IS：OFF
-1-　IS：I.S. 1
-2-　IS：I.S. 2
-3-　IS：I.S. 3

焦点距離の設定について

レンズの焦点距離をあらかじめ設定することで、フォーサーズシステム以外のレンズでも手ぶれ補正機能を使うことができます。フォーサーズシステムレンズ装着時は、この設定は無効です。

P
手ぶれ補正
OFF　I.S. 1　I.S. 2　I.S. 3
焦点距離入力　50 mm
決定➡OK

1　手ぶれ補正設定中に ボタンを押します。

2　ダイヤルまたは で焦点距離を設定し、OK を押します。

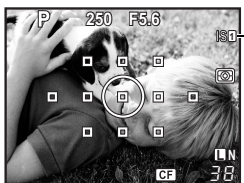
設定可能な焦点距離（35mm判換算値）

8mm	10mm	12mm	16mm	18mm	21mm	24mm	28mm	30mm	35mm
40mm	48mm	50mm	55mm	65mm	70mm	75mm	80mm	85mm	90mm
100mm	105mm	120mm	135mm	150mm	180mm	200mm	210mm	250mm	300mm
350mm	400mm	500mm	600mm	800mm	1000mm				

• ご使用のレンズの焦点距離が表にない場合は、最も近い値を選択してください。

手ぶれ補正効果をライブビューで確認する

ライブビュー中にISボタンを押している間は、設定している手ぶれ補正の効果を液晶モニタで確認できます。その状態でシャッターボタンを全押しして、撮影することもできます。

- **[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定していても、ISボタンを押している間は**[I.S. 1]**が働きます。
- ISボタンから指を離すか、または押したまま数秒間経過すると、手ぶれ補正機能は停止します。

緑色点灯：手ぶれ補正機能起動中
赤色点滅：手ぶれ補正機能エラー

注意

- 手ぶれが大きすぎるときやシャッター速度が極端に遅い場合、手ぶれが補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 三脚使用時は**[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定してください。
- 手ぶれ補正機能付きのレンズを使用している場合は、レンズまたはカメラのいずれかの手ぶれ補正機能をオフにしてください。
- 手ぶれ補正を**[I.S.1]**／**[I.S.2]**／**[I.S.3]**に設定している場合、電源を切ったときにカメラが振動します。これは手ぶれ補正機構の初期化動作で、この動作を行わないと、適正な補正効果が得られない場合があります。
- 液晶モニタの手ぶれ補正アイコンが赤く点滅したときは、手ぶれ補正機能の故障です。その状態で撮影すると、構図がずれることがあります。当社修理センターまたはサービスステーションにご相談ください。

画質モードの選択

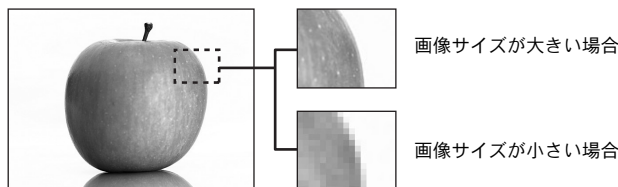
撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードを選択します。

記録形式

JPEG

JPEG形式の画像では、画像サイズ（L、M、S）と圧縮率（SF、F、N、B）の組み合わせを選択します。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

用途	画像サイズ	ピクセルサイズ	圧縮率			
			SF (Super Fine) 1/2.7	F (Fine) 1/4	N (Normal) 1/8	B (Basic) 1/12
プリントサイズに合わせて選択	L (Large)	4032 × 3024	LSF	LF	LN	LB
	M (Middle)	3200 × 2400	MSF	MF	MN	MB
		2560 × 1920				
		1600 × 1200				
	S (Small)	1280 × 960	SSF	SF	SN	SB
		1024 × 768				
小さいプリントやホームページ用		640 × 480				

RAW

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。パソコンで画像として表示するには、OLYMPUS Masterを使います。他のカメラで再生したり、一般のソフトウェアでの表示、プリント予約はできません。拡張子は「.ORF」です。
RAW画像をこのカメラで編集し、JPEGデータとして保存することができます。
☞「画像編集」(P.97)

画質モードの設定方法

JPEG
JPEGは3種類の画像サイズ(L、M、S)と4種類の圧縮率(SF、F、N、B)を組み合わせた12通りの設定から4通りを登録して使います。☞「画質設定」(P.114)
画像サイズM、Sは、さらにピクセルサイズを変えることができます。
☞「ピクセルサイズ」(P.114)

JPEG+RAW
1回の撮影でJPEGとRAWの2種類の画像を同時に記録します。

RAW
RAW形式で画像を記録します。

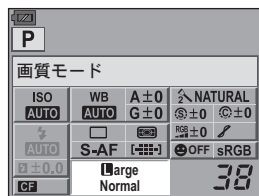
例)LF/LN/MN/SNを登録した場合に使用できる9つの画質モード
RAW　　　　：RAW
JPEG　　　　：LF/LN/MN/SN
JPEG+RAW：LF+RAW/LN+RAW/MN+RAW/SN+RAW

スーパーコンパネ　OK ▸ ◎:[画質モード]

メニュー　MENU ▸ [カメラ1] ▸ [画質モード]

こんなときは

画質モードをすばやく設定したい:
→Fnボタンに[RAW◀:-]を設定すると、Fnボタンを押しながらダイヤルを回して画質モードを切り換えられるようになります。
Fnボタンを押すたびにRAWデータを同時に記録するかどうかを切り換えられます。☞「Fnボタン機能」(P.107)

各画質モードでのファイル容量、撮影枚数が知りたい:
→「画質モードとファイル容量、撮影可能枚数」(☞P.153)

ホワイトバランスの選択

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。これをホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、4つの設定があります。

オートホワイトバランス [オート]
自動的に画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。通常はこのモードをお使いください。

プリセットホワイトバランス [☼][⌂][☁][電球][蛍光灯1][蛍光灯2][蛍光灯3][WB⚡]
光源別に8種類の色温度がプリセットされています。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。

カスタムホワイトバランス [CWB]
2000K～14000Kの範囲で色温度を設定して使用します。色温度については「ホワイトバランス色温度」（☞P.152）をご覧ください。

ワンタッチホワイトバランス [ワンタッチ]
カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。

WBモード	適した撮影シーン
オート	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
☼ 5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
⌂ 7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
☁ 6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
電球 3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯1 4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯2 4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯3 6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
WB⚡ 5500K	フラッシュ撮影のとき
ワンタッチ	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。 ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P.76）
CWB	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。2000K～14000Kの範囲で設定できます。未設定時は5400Kに設定されています。

オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定　　WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

ダイレクトボタン	WB ▸ ダイヤル / ダイヤル
スーパーコンパネ	OK ▸ 十字ボタン : **[ホワイトバランス]**

• カスタムホワイトバランスは**[CWB]**を選び、露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。

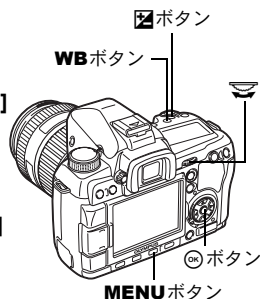
メニュー	MENU ▸ [撮影メニュー] ▸ [WBモード]

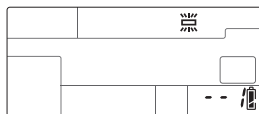
露出補正ボタン
WBボタン
OKボタン
MENUボタン

設定中の表示

ファインダ

色温度

WBモード

• カスタムホワイトバランスのときは色温度が表示されます。

コントロールパネル

-A- : AWB
-dL- : 晴天
-Sh- : 晴天日陰
-cL- : 曇天
-LA- : 電球
- - 1 : 蛍光灯 - - 1
- - 2 : 蛍光灯 - - 2
- - 3 : 蛍光灯 - - 3
-FL- : フラッシュ
-0- : ワンタッチ -0-
5400 : K 5400

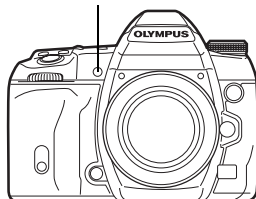
📄 *こんなときは*

白くないものが白くなった：

→オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

光源センサー

このカメラは、撮影する環境の光源を判定するために、光源センサーを備えています。赤外光と可視光を測光・演算し、太陽光・蛍光灯・フラッドランプ・ブルーフラットランプなどの判定をします。撮影時には、センサー部を手で覆ったり、陰にならないように注意してください。

4
画質／色合い／仕上がり

WB補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

ダイレクトボタン　**WB + [露出補正] ▸ [サブダイヤル]：A方向の補正／[メインダイヤル]：G方向の補正**

• サブダイヤルでA方向、メインダイヤルでG方向の設定をします。

スーパーコンパネ　**[OK] ▸ [十字ボタン]：[WB補正]**

メニュー　**MENU ▸ [撮影メニュー] ▸ [WBモード]**

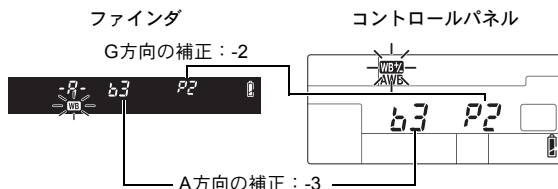
• 補正したいホワイトバランスを選択し、[▷]を押します。

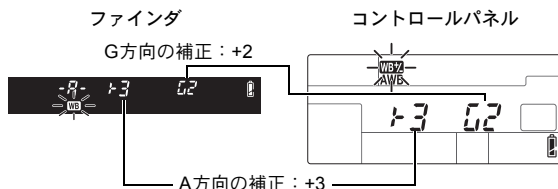
A方向（赤-青）で補正する場合
現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で赤味がかり、–方向で青味がかった画像になります。

G方向（緑-赤紫）で補正する場合
現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で緑の色味が増し、–方向で赤紫がかった画像になります。
• それぞれ7段階の補正が可能です。

ダイレクトボタンでの設定画面

設定中の表示

例1）A方向、G方向それぞれで–方向の補正をしている場合

例2）A方向、G方向それぞれで+方向の補正をしている場合

4
画質／色合い／仕上がり

🗎 ***こんなときは***

補正したホワイトバランスを確認したい：

→補正値を設定した後、試し撮りをするためにカメラを向けます。**AEL/AFL**ボタンを押すと、設定したホワイトバランスの条件で撮影したサンプル画像が表示されます。

すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい：

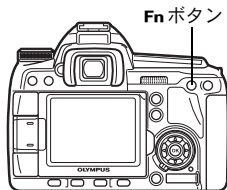
→「全WBモード補正」（☞P.113）をご覧ください。

ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。
あらかじめ**[Fnボタン機能]**を**[ワンタッチWB]**に設定しておきます。（☞P.107）

1 カメラを白い紙に向けます。
- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 Fn ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。
- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

3 [実行]を選択して、Ⓞボタンを押します。
- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

🗎 ***こんなときは***

シャッターボタンを押したら、[不適切なデータです 撮り直してください]と表示された：

→白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。絞り、シャッター速度などの撮影条件を変えて、再度、手順1からやりなおしてください。

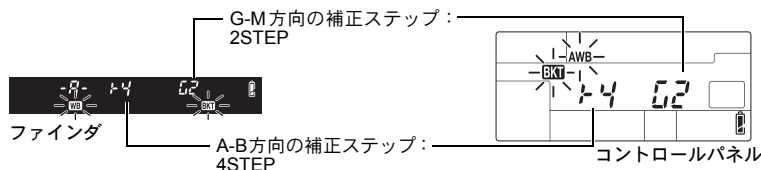
WBブラケット撮影

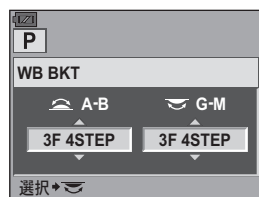
1回の撮影から、1つの補正方向に対して色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、カメラの設定で撮影された画像と、その画像から色合いを変更した画像が記録されます。

ダイレクトボタン　**WB + [測光] ▶ [サブダイヤル]：A-B方向の補正ステップ／[メインダイヤル]：G-M方向の補正ステップ**

• サブダイヤルでA-B方向、メインダイヤルでG-M方向の設定をします。

MENU ▶ [撮影2] ▶ [WB BKT]

設定中の表示

ダイレクトボタンでの
設定画面

• 補正ステップはA-B（赤-青）方向、G-M（緑-赤紫）方向それぞれ**[OFF]**/**[3F 2STEP]**/**[3F 4STEP]**/**[3F 6STEP]**から選択します。
• 1回の撮影で、1つの補正方向に対して3コマの画像を作成します。

こんなときは

補正したホワイトバランスを中心にWBブラケット撮影をしたい：

→WB補正をした状態で、WBブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてWBブラケット撮影が行われます。

注意

• WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、撮影ができません。

仕上がり

画像の色調を、撮影目的に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。調整したパラメータは各仕上がり項目ごとに記録されます。

[VIVID]　：色鮮やかに仕上げます。
[NATURAL]　：自然な色合いに仕上げます。
[FLAT]　：素材性を重視した仕上がりになります。
[PORTRAIT]　：肌色をきれいに仕上げます。
[モノトーン]　：モノクロ調に仕上げます。
[カスタム]　：仕上がり項目の１つを選んで各パラメータを設定し、登録します。**[カスタム]**では階調の設定も登録しておくことができます。この設定は、メニューの**[階調]**とは別に記憶されます。☞「階調」(P.79)

スーパーコンパネ　OK ▶ ◎：**[仕上がり]**

メニュー　**MENU ▶ [◘] ▶ [仕上がり]**

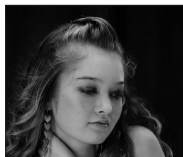
各仕上がり項目に合わせて調整できるパラメータが異なります。
それぞれのパラメータの内容は次の通りです。

[コントラスト]　：明暗の差
[シャープネス]　：鮮鋭さ
[彩度]　：色の鮮やかさ
[フィルター効果]　：フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。
　[N:無し]　：通常の白黒画像になります。
　[Ye:黄]　：自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
　[Or:オレンジ]　：青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。
　[R:赤]　：青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
　[G:緑]　：赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。
[調色]　：白黒画像に色味をつけます。
　[N:無し]　：通常の白黒画像になります。
　[S:セピア]　：セピア
　[B:青]　：青味
　[P:紫]　：紫味
　[G:緑]　：緑味

階調

標準階調以外に3種類の階調を選択できます。

[ハイキー]：明るい被写体に適した階調にします。
[ローキー]：暗い被写体に適した階調にします。
[オート]：画像を細かい領域にわけて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗差の大きい画像に有効です。
[標準]：通常は**[標準]**に設定してください。

ハイキー
ハイライト部の多い被写体に最適です。

ローキー
シャドウ部の多い被写体に最適です。

スーパーコンパネ	OK ▶ 十字ボタン：**[階調]**
メニュー	**MENU ▶ [撮影1] ▶ [階調]**

注意

- **[ハイキー]**、**[ローキー]**、**[オート]**の階調ではコントラスト調整は反映されません。

長秒時ノイズ低減

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。**[長秒時ノイズ低減]**では、カメラが自動的にノイズの軽減処理を行い、きれいな画像を撮影することができます。**[オート]**ではシャッター速度が遅い場合にこの機能が作動し、**[ON]**では常にノイズ低減処理が行われます。
長秒時ノイズ低減を行うと、撮影時間は通常の約2倍になります。

OFF

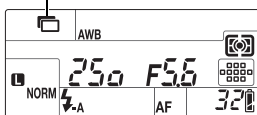
ON／オート

メニュー MENU ▸ [📷] ▸ [長秒時ノイズ低減]

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅し、ファインダ内にbusyと表示されます。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。

長秒時ノイズ低減**[ON]**

注意

- 連写設定時は、**[長秒時ノイズ低減]**は自動的に**[OFF]**になります。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

高感度ノイズ低減

ノイズの処理レベルを選択できます。通常は**[標準]**に設定し、高感度撮影では**[強]**に設定することをおすすめします。

メニュー MENU ▸ [📷] ▸ [高感度ノイズ低減]

フラッシュモードの設定

発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応されます。

オート発光 AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットを合わせて撮影してください。

フラッシュ同調速度・低速制限
内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を変更することができます。☞「⚡同調速度」（P.113）、「⚡低速制限」（P.113）

赤目軽減発光 👁／👁⚡

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定すると本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。**S**/**M**モードでは強制発光になります。

目が赤く写ります

注意
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合や個人差などにより、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

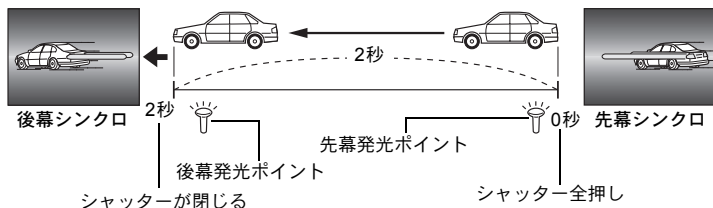
スローシンクロ（先幕シンクロ）⚡SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて
フラッシュは、通常はシャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行われます。

スローシンクロ（後幕シンクロ）SLOW2／2nd CURTAIN

シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせるモードです。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。S/Mモードでは強制発光になります。

シャッター速度が2秒のとき

スローシンクロ（先幕シンクロ）+ 赤目軽減発光 SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

強制発光

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意
- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/250秒より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュ FL-50Rなどを使用して、スーパー FP発光モードで撮影してください。「スーパー FP発光」（P.87）

発光禁止

フラッシュは発光しません。
発光禁止でも、内蔵フラッシュをポップアップすればAFイルミネータとして使うことができます。「AFイルミネータ」（P.103）

マニュアル発光

内蔵フラッシュを固定した発光量で発光させることができます。フラッシュをマニュアル発光させるときは、被写体までの距離に基づいてレンズのF値を合わせて撮影してください。

発光比	GN：ガイドナンバー ISO 200（ISO 100相当）
FULL（1/1）	18（13）
1/4	9（6.5）
1/16	4.5（3.3）
1/64	2.3（1.6）

レンズのF値は以下の式で計算してください。

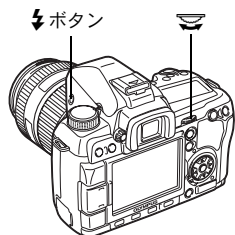
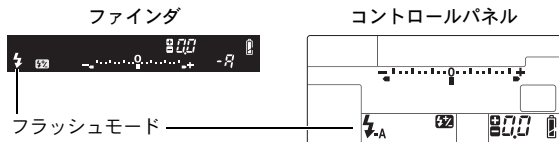
$$絞り（F値）= \frac{GN \times ISO感度係数}{撮影距離（m）}$$

ISO感度係数

ISO感度	100	200	400	800	1600	3200
ISO感度係数	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6

設定方法

ダイレクトボタン ⚡ + ダイヤル

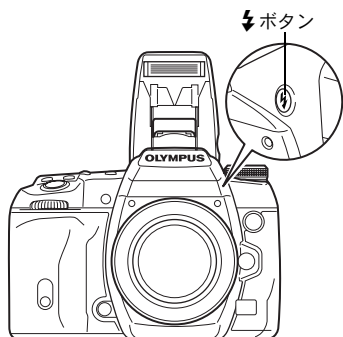
スーパーコンパネ OK ▶ 十字ボタン：[フラッシュ]

設定中の表示

• 各設定値の表示については、「撮影モード別使用可能なフラッシュモード」（☞P.151）をご覧ください。

5 フラッシュ撮影

内蔵フラッシュ撮影

14 mm（35 mmフィルムカメラ換算28 mm）より広角のレンズを使用した場合、フラッシュの光がけられる場合があります。また使用レンズ、距離などの撮影条件によってもけられが発生する場合があります。

1 ⚡ボタンを押して内蔵フラッシュを起こします。

- 下記のモードの場合、内蔵フラッシュは暗いときには自動的にポップアップして、発光します。
  **AUTO/ / / / / / **

2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、⚡（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

フラッシュ発光予告マーク

ファインダ

3 シャッターボタンを全押しします。

こんなときは

フラッシュを自動ポップアップさせないようにしたい：

→メニューの**[自動ポップアップ]**を**[OFF]**にします。☞「自動ポップアップ」（P.113）

フラッシュの充電完了を待たずに撮影したい：

→「レリーズ優先S、レリーズ優先C」（☞P.109）をご覧ください。

注意

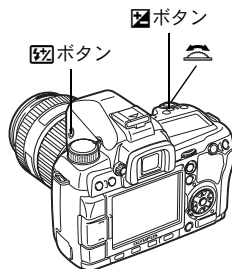
- RCモードが**[ON]**になっているときは、内蔵フラッシュは外部フラッシュとの通信用に発光するため、フラッシュとして機能しません。☞「オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムによる撮影」（P.88）

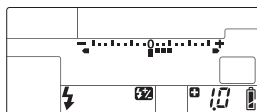
フラッシュ発光量補正

フラッシュの発光量を+3～-3の範囲で調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

ダイレクトボタン [フラッシュ補正] + [ダイヤル]

スーパーコンパネ OK ▸ [十字ボタン]：[フラッシュ補正]

メニュー MENU ▸ [撮影2] ▸ [フラッシュ補正]

設定中の表示

ファインダ　　　コントロールパネル

こんなときは

ダイヤル操作のみでフラッシュ補正したい：

→メインダイヤルまたはサブダイヤルにフラッシュ補正機能を割り当てることができます。☞「ダイヤル機能」（P.105）

注意

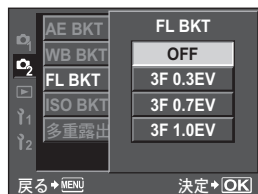
- マニュアル発光のときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- **[フラッシュ補正+露出補正連動]**が**[ON]**に設定されているときは、露出補正量に加算されます。☞「フラッシュ補正+露出補正連動」（P.113）

5 フラッシュ撮影

フラッシュブラケット撮影

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影します。3コマの画像が適正発光量、–発光、+発光の順に撮影されます。

メニュー　MENU ▸ [📷2] ▸ [FL BKT]

- 露出ステップにより補正量が変わります。☞「露出ステップ」（P.112）
- 単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、発光量を変えて撮影します。
- 連写モードでは、設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。
- シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときはファインダとコントロールパネルに BKT が点滅し、スーパーコンパネに BKT が緑で表示されます。

専用フラッシュ撮影

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。
カメラとの通信機能があり、TTL-AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。また、ブラケットケーブル（別売）を使用して専用のフラッシュブラケットに取り付けることもできます。
専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-50R	FL-50	FL-36R	FL-36	FL-20	RF-11	TF-22
調光モード	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL, FP TTL AUTO, FP MANUAL				TTL-AUTO, AUTO, MANUAL	TTL-AUTO, MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85 mm*時）GN28（24 mm*時）		GN36（85 mm*時）GN20（24 mm*時）		GN20（35 mm*時）	GN11	GN22
RCモード	○	—	○	—	—	—	—

* カバーできるレンズ焦点距離（35 mmフィルムカメラ換算）

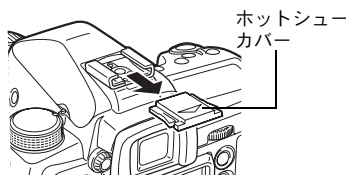
注意

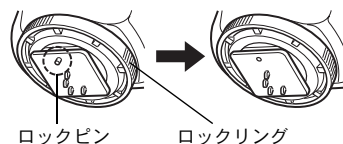
- エレクトロニックフラッシュ FL-40は使用できません。

専用フラッシュを使った撮影

フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管してください。ストラップに取り付けたアイピースカバーの裏側に取り付けることができます。専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

2 専用フラッシュをカメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのロックリングを回して、あらかじめ引込めておいてください。

3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの充電ランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は1/250秒以下です。

4 フラッシュモードを選択します。

5 フラッシュの調光モードを選択します。

- 通常は TTL-AUTO の使用をおすすめします。

6 シャッターボタンを半押しします。

- カメラ・フラッシュ間で、ISO感度・絞り・シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。

7 シャッターボタンを全押しします。

注意

- 外部フラッシュをホットシューに取り付けているときは、内蔵フラッシュは同時には使えません。

スーパー FP発光

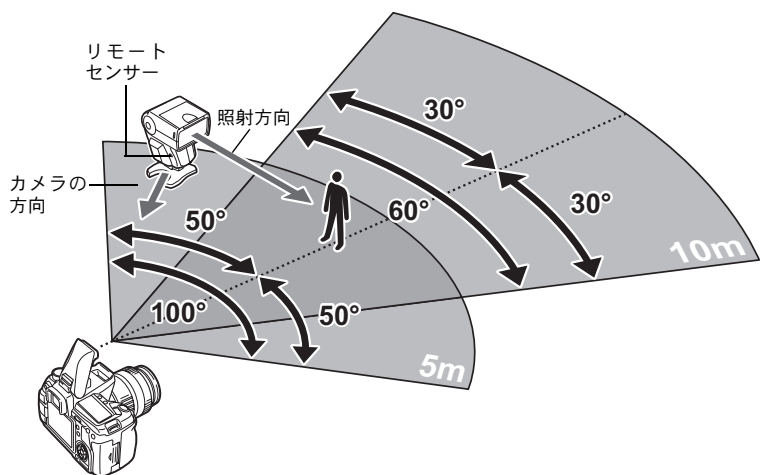
専用フラッシュ FL-50RやFL-36Rではスーパー FP発光が可能です。通常はフラッシュが使用できない高速のシャッター速度でも、フラッシュを発光させて撮影できます。

ファインダ

屋外のポートレート撮影など開放絞りで日中シンクロ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムによる撮影

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応しているフラッシュを使用すると、ワイヤレスでフラッシュ撮影ができます。このシステムに対応した複数のフラッシュを使った多灯フラッシュ撮影も可能で、フラッシュを3グループ（A、B、C）に分けて調光することができます。カメラとフラッシュの通信にはカメラの内蔵フラッシュを使用します。
ワイヤレスフラッシュの操作については、専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

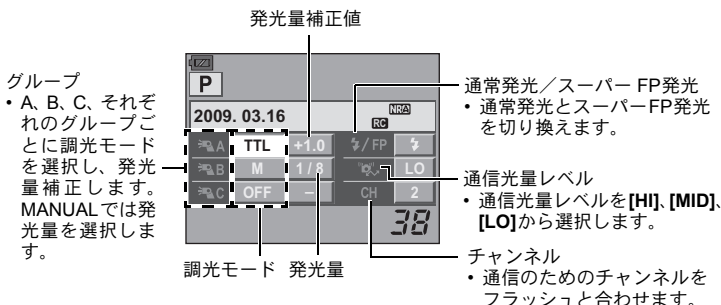
ワイヤレスフラッシュ設置範囲
ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。設置範囲の目安は以下の通りです。範囲は周辺環境により変わります。

1 「ワイヤレスフラッシュ設置範囲」を参考にフラッシュを配置し、フラッシュの電源を入れます。

2 フラッシュのMODEボタンを押してRCモードに設定し、フラッシュのチャンネルとグループを設定します。

3 カメラのRCモードを[ON]に設定します。

- **MENU** ▸ **[**📷2**]** ▸ **[**⚡RCモード**]** ▸ **[ON]**
- スーパーコンパネがRCモードに切り換わります。
- **INFO**ボタンを繰り返し押すと、スーパーコンパネの表示が切り換わります。

5
フラッシュ撮影

4 **スーパーコンパネでグループごとに調光モードなどの設定をします。**

5 **フラッシュモードを選択します。**

• RCモードでは赤目軽減発光はできません。

6 **ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップします。**

7 **撮影準備が終わったら、必ずテスト撮影をしてフラッシュの作動や画像の確認を行ってください。**

8 **カメラとフラッシュの充電完了表示を確認してから撮影します。**

注意

• ワイヤレスフラッシュの設置数に制限はありませんが、相互干渉による誤動作を防止するため、1グループ最大3台での使用をおすすめします。
• RCモードでは、内蔵フラッシュはワイヤレスフラッシュとの通信に使用されます。撮影時のフラッシュとしては使用できません。
• ワイヤレスフラッシュで後幕シンクロ撮影をする場合は、シャッター速度が4秒以内になるように設定してください。また低振動モードの設定も4秒以内にしてください。それを超えると、正常な撮影ができません。

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュは、カメラ側から発光量を調整することはできません。ホットシューに接続するか、シンクロコードを外部フラッシュ端子に接続して使用します。カメラの撮影モードを**M**にします。使用できる市販のフラッシュの詳細については「使用できる市販のフラッシュ」（☞P.90）をご覧ください。

1 ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。

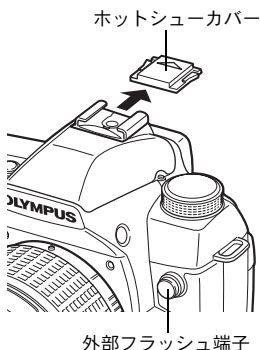
2 撮影モードをMにし、絞り値とシャッター速度を設定します。

- シャッター速度は 1/250 秒より低速に設定してください。これより早いシャッター速度ではフラッシュは同調しません。
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がぶれる可能性があります。

3 フラッシュの電源を入れます。

- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 フラッシュ側の調光の設定に適したISO感度と絞り値にします。

- フラッシュ側の調光モードの設定方法は､各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

- フラッシュは常に発光します｡フラッシュを光らせたくないときは、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

使用できる市販のフラッシュ

1) 市販のフラッシュには、シンクロ端子に250V以上の電圧がかかるものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせください。
2) 市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談ください。
3) フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
4) フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります｡このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。
5) レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください｡レンズの焦点距離に約2倍した数字が35 mmフィルム用レンズの焦点距離になります。
6) 専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく､故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。

1コマ再生／クローズアップ再生

画像を見るための基本的な手順は、以下の通りです。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1の操作を行って、各再生機能を操作します。撮影後、自動的に1コマ再生モードにすることもできます。☞「撮影確認」（P.121）

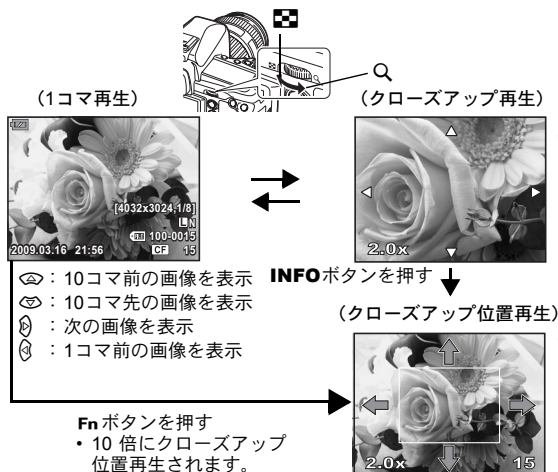
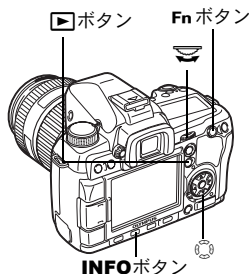
1 ▶ボタンを押します（1コマ再生）。

- 最後に撮影された画像が表示されます。
- 1分以上何も操作しないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その後何も操作しないと4時間後に、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れなおしてください。

2 ✣で表示したい画像を選択します。ダイヤルを🔍側に回して、クローズアップ再生することができます。

（1コマ再生）

（クローズアップ再生）

✣を押して、クローズアップ位置を変更できます。

- △：10コマ前の画像を表示
- ▽：10コマ先の画像を表示
- ▷：次の画像を表示
- ◁：1コマ前の画像を表示

INFOボタンを押す

（クローズアップ位置再生）

2.0x 15

✣を押して、クローズアップ位置の表示を移動できます。
メニューの**[☻顔検出]**（☞P.41）が**[ON]**のときは、顔を中心に枠が表示されます。OKを押すと他の顔に枠が移動します。

Fnボタンを押す
- 10 倍にクローズアップ位置再生されます。

INFOボタンを押す

（クローズアップコマ送り再生）

◁▷を押して、クローズアップのままコマ送りできます。
[☻顔検出]が**[ON]**のときは、△▽を押すとクローズアップ状態のまま他の顔に移動します。
- **INFO**ボタンを押すとクローズアップ再生に戻ります。

- 再生を終了するときは、再度、▶ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻ります。

ライトボックス表示

再生中の画像と他の画像を左右に表示して見ることができます。ブラケット撮影などの画像の比較に便利です。

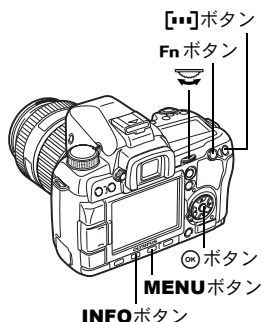
1　1コマ再生中に[▪▪▪]ボタンを押します。

- 表示中のコマが画面の左半分に、次のコマが右半分に表示されます。再生中の拡大倍率で表示されます。
- 左の画像が基準画像となります。

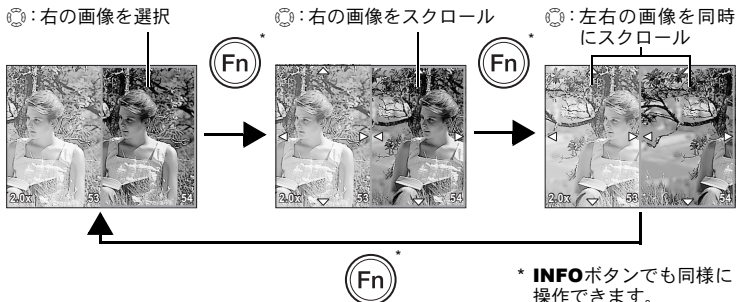
2　◎で右の画像を選択します。

- 右の画像のプロテクト･消去･コピーができます。

3　[▪▪▪]ボタンを押します。

- 左の画像が再生中の拡大倍率で1コマの再生に戻ります。

ライトボックス表示中の操作

- OKボタンを押すと、左の画像が右の画像に置き換わり、基準画像になります。
- ダイヤル操作で左右の画像の倍率を同時に変えられます。
- **Fn**ボタンまたは**INFO**ボタンを押すと、◎で右の画像の表示位置を移動できます。再度**Fn**ボタンまたは**INFO**ボタンを押すと、◎で左右の画像の表示位置を同時に移動できます。

＊ **INFO**ボタンでも同様に操作できます。

インデックス再生／カレンダー再生

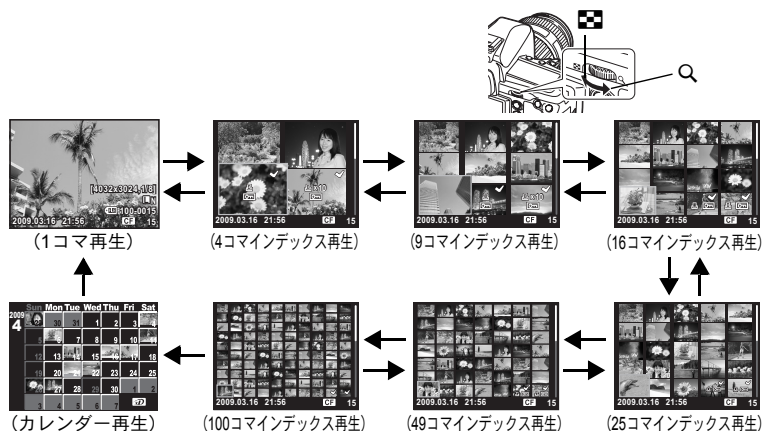
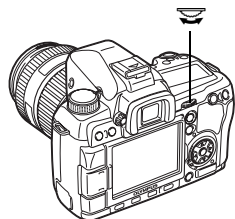
液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

1コマ再生中に、ダイヤルを側に回すたびにコマ数が4、9、16、25、49、100コマと変化します。

◁：前のコマへ移動
▷：次のコマへ移動
△：上のコマへ移動
▽：下のコマへ移動

• 1コマ再生に戻るにはメインダイヤルを 側に回します。

（1コマ再生）　（4コマインデックス再生）　（9コマインデックス再生）　（16コマインデックス再生）

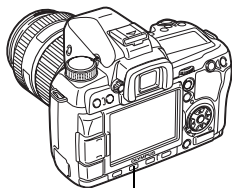
（カレンダー再生）　（100コマインデックス再生）　（49コマインデックス再生）　（25コマインデックス再生）

カレンダー再生について

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。

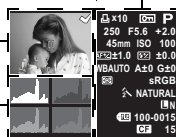
で日付を選択し ボタンを押すと、選択した日付の画像が1コマ再生されます。

6 再生

情報表示 INFO

画像の詳細情報を表示することができます。
また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。

選択したい情報が表示されるまで、INFOボタンを繰り返し押します。INFOボタンを押しながらダイヤルを回して切り換えることもできます。

- この設定は記憶され、次回表示する際も同じ情報が表示がされます。

表示OFF → 簡易表示 → 総合表示 → ヒストグラム表示 → ハイライト&シャドウ → 表示OFF

簡易表示

総合表示
ハイライト／シャドウ表示
撮影情報
ヒストグラム*

***ヒストグラムの活用**
ヒストグラムの右端付近が著しく突出した場合は、白トビの可能性があり、左端付近が著しく突出した場合は、黒つぶれの可能性があります。露出補正するか、再度撮影してください。

ヒストグラム表示
撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示

ハイライト&シャドウ
撮影した画像の露出オーバーまたは露出アンダーな部分を表示
ハイライト（露出オーバー）：赤色表示
シャドウ（露出アンダー）　：青色表示

こんなときは

よく使う表示にすばやく切り換えたい：
→「簡易表示」以外を表示しないようにできます。☞「INFO表示設定」（P.111）

6 再生

自動再生（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。同時に表示できるコマ数は1、4、9、16、25、49、100コマから選択できます。

1 MENU ▶ [▶] ▶ [自動再生]

2 ⊚⊚ でインデックス表示の分割数を選択します。

3 ⊚ボタンを押すと自動再生がスタートします。

4 ⊚ボタンを押すと停止します。

[⊞4]を選択したとき

注意

- 電池を使用している場合、自動再生を 30 分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

回転再生

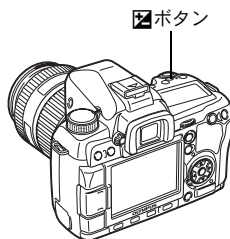
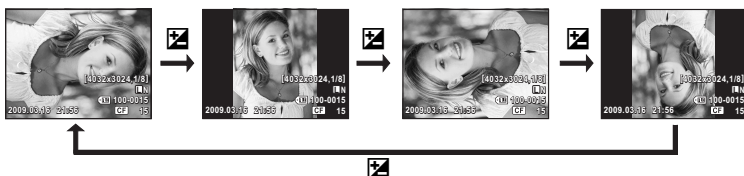
1コマ再生中に、撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。カメラを回転させても、自動的に正しい方向で画像を見ることができます。

1 MENU ▶ [▶] ▶ [回転再生]

- **[ON]**に設定すると、縦位置で撮影した画像を再生したときに自動的に回転して表示します。また、⊠ボタンを押して画像を回転して表示することもできます。
- 回転表示した画像は、その状態でカードに記録されます。

回転する前の画像

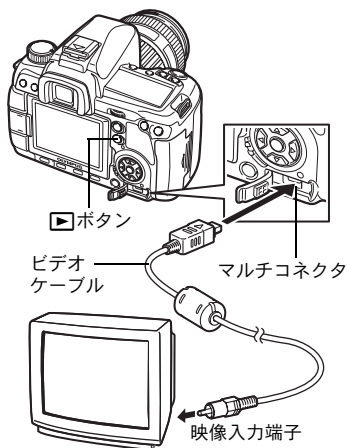
6

再生

テレビ再生

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。

2 テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 カメラの電源を入れ、▶（再生）ボタンを押します。

注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.120）
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

画像編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。
プリント可能なファイルはJPEGです。RAWファイルは、そのままではプリントできません。プリントする場合はRAW編集機能を使ってJPEGファイルにします。

RAWデータ形式で記録した画像の編集
RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、JPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。目的に合わせてあらかじめカメラの設定を変更しておきます。

JPEG形式で記録した画像の編集

[階調オート] 逆光時に暗く写った被写体を明るくします。

[赤目補正] フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。

[トリミング] メインダイヤルでトリミングサイズ、十字ボタンでトリミング位置を指定します。

[モノクロ作成] 白黒に変換します。

[セピア作成] セピア色に変換します。

[鮮やかさ調整] 画像の色をより鮮やかにします。画面で確認しながら鮮やかさを調整します。

[リサイズ] 画像サイズを1280 × 960、640 × 480、または320 × 240に変換します。アスペクト比が4:3（基準）以外の画像は、近い大きさの画像サイズに変換されます。

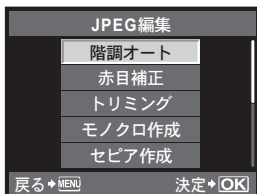
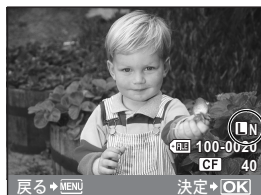
[アスペクト] アスペクト比が4:3（基準）の画像のアスペクト比を**[3:2]**/**[16:9]**/**[6:6]**/**[5:4]**/**[7:6]**/**[6:5]**/**[7:5]**/**[3:4]**に変更します。アスペクト比変更後、十字ボタンでトリミング位置を指定します。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [編集] ▸ [RAW/JPEG]**

2 **◁▷で画像を選択し、Ⓞボタンを押します。**

- 画像のデータ形式をカメラが認識します。
- JPEG+RAW で記録した画像は、どちらのデータを編集するかを選択する画面が表示されます。

3 **画像のデータ形式によって、表示される画面が変わります。編集項目を選択し、各手順を行ってください。**

データ形式をここで確認します。

- 編集した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

注意

- 画像によっては赤目補正できないことがあります。また、目以外の部分が補正されることがあります。
- 次の場合はJPEG編集できません。
  RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。
- **[トリミング]/[アスペクト]**は、アスペクト比が4：3（基準）の画像のみ編集できます。

6

再生

画像合成

撮影したRAW形式の画像を最大4コマまで重ねて合成し、別の画像として保存します。保存時に設定されている画質モードで保存されます。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [編集] ▸ [画像合成]**

2 **画像合成するコマ数を選択し、Ⓞボタンを押します。**

3 **✥を押してコマを選択し、Ⓞボタンを押します。**

- 手順２で選択したコマ数の数だけ、繰り返し画像を選択します。
- 選択を取り消すには、再度Ⓞボタンを押します。

4 ◁▷で画像を選択し、△▽で各画像のゲインを選択します。OKボタンを押します。

- 0.1～2.0まで選択できます。
- ゲインを変更するたびに表示画像が更新されます。

5 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

こんなときは

5コマ以上画像を合成したい：

→画像をRAW形式で保存し、繰り返し**[画像合成]**を行うと、5コマ以上の画像合成が可能です。

注意

- 画質モードが**[RAW]**に設定されていると、画像合成した画像は**[LN+RAW]**で保存されます。

画像のコピー　COPY

xD-ピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。選択されているカードがコピー元になります。

☞「記録カード選択」（P.120）

1コマコピー

1 コピーしたい画像を表示して、COPY/⎙ボタンを押します。

2 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

選択コマコピー

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度にコピーすることができます。

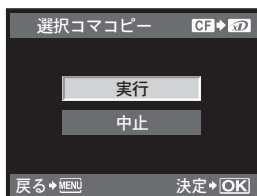
1 コピーしたい画像を表示して、OKボタンを押します。

- 画像が選択され、✔が表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。

2 ◁▷を押してコピーしたい次の画像を表示して、OKボタンを押します。

3 コピーする画像を選択し終えたら、COPY/⎙ボタンを押します。

4 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

選択コマコピー CF➔xD
実行
中止
戻る➔MENU 決定➔OK

全コマコピー

1 MENU ▸ [▶] ▸ [全コマコピー]

2 ▷を押します。

3 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

6 再生

画像のプロテクト

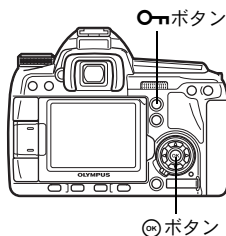
残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1コマプロテクト

プロテクトをかけたい画像を再生して、O━ボタンを押します。

- 画面右上に[O━]（プロテクトマーク）が表示されます。

プロテクトを解除するには

プロテクトされている画像を再生しO━ボタンを押します。

選択コマプロテクト

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度にプロテクトをかけることができます。

1 プロテクトをかけたい画像を表示して、Ⓞボタンを押します。

- 画像が選択され、✔が表示されます。
- 選択を取り消すには、再度Ⓞボタンを押します。
- インデックス再生時は、を押してプロテクトしたい画像を選択して、Ⓞボタンを押します。

2 を押してプロテクトしたい次の画像を表示して、Ⓞボタンを押します。

3 プロテクトする画像を選択し終えたら、O┳ボタンを押します。

全プロテクト解除

複数のプロテクトされている画像を一度に解除できます。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [全プロテクト解除]

2 で[実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。

注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。☞「カードを初期化する」(P.144)
- プロテクトされた画像は、ボタンを押しても回転再生できません。

画像の消去

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去および選択したコマを消去する選択コマ消去があります。

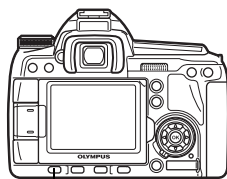
注意

- RAW+JPEGで記録した画像は、全コマ消去、選択コマ消去では、RAW・JPEG両方の画像が同時に消去されます。1コマ消去では、消去される画像をJPEGのみ、RAWのみ、RAW・JPEG両方から選べます。☞「RAW+JPEG 消去」(P.115)
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像のプロテクト」(P.100)

6 再生

1コマ消去

1 消去したい画像を表示して、🗑ボタンを押します。

2 ⊙⊙で[実行]を選択し、⊛ボタンを押します。

選択コマ消去

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度に消去することができます。

1 消去したい画像を表示して、⊛ボタンを押します。

- 画像が選択され、✔が表示されます。
- 選択を取り消すには、再度⊛ボタンを押します。
- インデックス再生時は、⊙を押して消去したい画像を選択して、⊛ボタンを押します。

2 ⊙を押して消去したい次の画像を表示して、⊛ボタンを押します。

3 消去する画像を選択し終えたら、🗑ボタンを押します。

4 ⊙⊙で[実行]を選択し、⊛ボタンを押します。

全コマ消去

1 MENU ▸ [▣] ▸ [カードセットアップ]

2 ⊙⊙で[全コマ消去]を選択し、⊛ボタンを押します。

3 ⊙⊙で[実行]を選択し、⊛ボタンを押します。

- 全コマ消去が実行されます。

こんなときは

画像をすぐに消去したい：

→「ワンプッシュ消去」（☞P.115）を設定すると、🗑ボタンを押すとすぐに画像を消去できます。

→初期設定のカーソルの位置を**[実行]**に設定することができます。☞「実行優先設定」（P.116）

7 カスタム機能の設定

カスタムメニューでは、カメラを使いやすくするための設定をします。カスタムメニューには、撮影機能をカスタマイズするカスタムメニュー1と、カメラの基本的な機能を設定するカスタムメニュー2があります。
カスタムメニュー1には、さらに[A]～[I]の9つのタブがあり、設定する機能によって分類されています。

でを選択し、を押します。

でタブ[A]～[I]を選択し、を押します。

で機能を選択し、を押します。

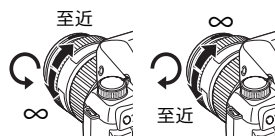
メニューの操作方法は「メニューを表示して操作する」(P.23) ご覧ください。

カスタムメニュー1 ▶ [A]AF/MF

AFイルミネータ

内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させせることができ、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピントが合いやすくなります。この機能を使うにはフラッシュを起こしておきます。

フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り換えることができます。

AFロックオン

[ON] に設定すると、C-AFでピント合わせの動作中に被写体との距離が急に変化しても、すぐにピントを追いかけません。被写体の前後を横切るものの多い撮影場所で効果的です。

AFターゲット表示

[OFF] に設定すると、ピントが合ったときにファインダ内でAFターゲットマークを点灯しないようにすることができます。

AFターゲットサイズ

[AFターゲット選択]で**[・]**を選択しているとき、ピントを合わせるAFターゲットの範囲を設定します。

[標準] 選択した AF ターゲット枠とその周辺も含めた範囲でピントを合わせます。

[小] 選択したAFターゲット枠内だけでピントを合わせます。**[小]**に設定しているときは、**[AFターゲット選択]**の選択肢の表示が**[・]s**になります。

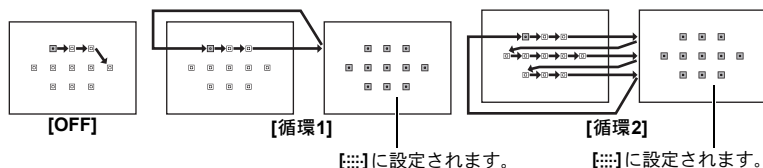
[▪▪▪]循環選択

AFターゲット選択時のダイヤルおよび十字ボタンの動作を選択します。

[OFF] 一番端のAFターゲットまで移動したところで止まります。

[循環1] 一番端のAFターゲットまで移動した後、同じ行または同じ列の反対側の端のAFターゲットに移動します。反対側のAFターゲットに移動する前に、すべてのAFターゲットが選択され、**[AFターゲット選択]**が**[:::::]**に設定されます。

[循環2] 一番端のAFターゲットまで移動した後、次の行または次の列の反対側の端のAFターゲットに移動します。反対側のAFターゲットに移動する前に、すべてのAFターゲットが選択され、**[AFターゲット選択]**が**[:::::]**に設定されます。

例）左上のAFターゲットから右方向に移動する場合

レンズリセット

[ON]に設定すると、カメラの電源を切ったときに、レンズのフォーカス位置をリセット（無限遠）します。

BULB中MF

MFでバルブ撮影しているときのピント調整について設定します。

[ON] 露光中もフォーカスリングを回してピントを変えることができます。

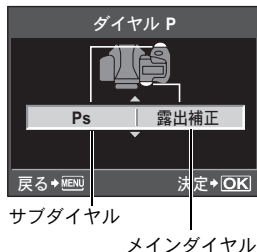
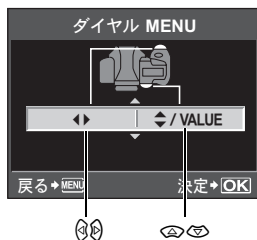
[OFF] 露光中はピントが固定されます。

LV中AF

☞P.38

ダイヤル機能

P、**A**、**S**、**M**モードのとき、出荷時とは異なる機能をメインダイヤルとサブダイヤルそれぞれに割り当てることができます。また、メニュー操作時のメインダイヤルとサブダイヤルの動作を出荷時とは逆に設定できます。

- **P**　　：**[Ps]**/**[露出補正]**/**[フラッシュ補正]**
- **A**　　：**[絞り]**/**[露出補正]**/**[フラッシュ補正]**
- **S**　　：**[シャッター速度]**/**[露出補正]**/**[フラッシュ補正]**
- **M**　　：**[シャッター速度]**/**[絞り]**
- **MENU**：**[◀▶]**/**[▲▼/VALUE]**

- **[MENU]** の **[◀▶]** は、ダイヤル操作が横方向（◁▷）の動作をすることを意味しています。**[▲▼/VALUE]** は、ダイヤル操作が縦方向（△▽）の動作をすることを意味しています。

ダイヤル方向

ダイヤルの回転方向と、シャッター速度／絞り値の増減方向を切り換えることができます。

設定	（ダイヤル回転方向）	（ダイヤル回転方向）
ダイヤル1	• シャッター速度が遅くなる • 絞りを開く（F値が小さくなる）	• シャッター速度が速くなる • 絞りを絞る（F値が大きくなる）
ダイヤル2	• シャッター速度が速くなる • 絞りを絞る（F値が大きくなる）	• シャッター速度が遅くなる • 絞りを開く（F値が小さくなる）

AEL/AFLモード

シャッターボタンでオートフォーカス動作や測光を行う代わりに、**AEL/AFL**ボタンを押してオートフォーカス動作や測光を行うことができます。
シャッターボタンを押したときの動作と組み合わせてボタンの機能を選択できます。それぞれのフォーカスモードで**[mode1]**～**[mode4]**を選択します（**[mode4]**はC-AFモードのときのみ選択できます）。

モード	シャッターボタンの役割				AEL/AFLボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
[S-AF]						
mode1	S-AF動作	固定	—	—	—	固定
mode2	S-AF動作	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—
[C-AF]						
mode1	C-AF開始	固定	固定	—	—	固定
mode2	C-AF開始	—	固定	固定	—	固定
mode3	—	固定	固定	—	C-AF開始	—
mode4	—	—	固定	固定	C-AF開始	—
[MF]						
mode1	—	固定	—	—	—	固定
mode2	—	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—

各モードでの基本の使い方

[mode1] ピント合わせと同時に測光して露出を決めて撮影します。**AEL/AFL**ボタンを押している間はAEロックされるので、ピント合わせと露出を別々に決めることもできます。

[mode2] シャッターボタンを全押ししたときに露出を決めて撮影します。舞台など撮影時の照明状態が大きく変わるシーンの撮影に適しています。

[mode3] シャッターボタンではなく、**AEL/AFL**ボタンを使ってピント合わせを行いたいときに使います。

[mode4] **AEL/AFL**ボタンでピント合わせの動作を行い、シャッターボタンを全押ししたときに露出を決めて撮影します。

AEL/AFL MEMO

AEL/AFLボタンを押すと露出の固定と保持ができます。

[ON] **AEL/AFL**ボタンを押すと露出を固定して保持します。もう一度押すと保持を解除します。

[OFF] **AEL/AFL**ボタンを押している間だけ露出を固定します。

Fn ボタン機能

Fn ボタンに機能を登録することができます。

[フェイス&バック]

Fn ボタンを押すと、**[顔検出]**が**[ON]**になり、最適な設定に切り換わります。再度押すと**[OFF]**になります。

☞「顔検出機能を使う」(P.41)、「顔検出」(P.111)

[プレビュー]/[ライブプレビュー]（電子式）

Fn ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。**[ライブプレビュー]**では Fn ボタンを押すと自動的にライブビューになり、液晶モニタで確認することができます。

☞「プレビュー機能」(P.50)

[ワンタッチWB]

Fn ボタンを押して、ホワイトバランスの値を取得します。

☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.76)

[[▪▪▪] HOME]

Fn ボタンを押すと、登録したAFホームポジションに切り換わります。再度押すと元のAFターゲットモードに戻ります。AFホームポジションに切り換えた状態で電源をOFFにすると、元の位置は記憶していません。

☞「AFターゲットモードを登録する」(P.63)

[MF切換]

Fn ボタンを押すと、AF方式が**[MF]**に切り換わります。再度押すと、元のAF方式に戻ります。

[RAW◀::-]

Fn ボタンを押すと、JPEG撮影時はJPEG+RAWの画質モードに、JPEG+RAW撮影時はJPEGのみの画質モードに切り換わります。

Fn ボタンを押しながらダイヤルを回すと、画質モードを変更できます。

[試し撮り撮影]

Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像をカードに記録することなく液晶モニタで画像の確認ができます。すばやく設定値の効果を確認するのに便利です。

[マイモード撮影]

Fn ボタンを押している間、[マイモード設定]で登録した設定内容で撮影することができます。

☞「マイモード設定」(P.108)

[水準器]

Fn ボタンを押すと、ファインダとコントロールパネルに水準器が表示され、再度押すと表示が消えます。

☞「水準器」(P.111)

[OFF]

機能は割り当てられていません。

マイモード設定

よく使う設定状態をマイモードとして2つ記憶させておくことができます。どちらのマイモードを使用するかは、以下の「実行する」の操作をしてあらかじめ設定しておきます。マイモードは**[Fnボタン機能]**を**[マイモード撮影]**に設定し、使用するときは**Fn**ボタンを押しながら撮影します。☞「Fnボタン機能」(P.107)

登録する

1) **[マイモード1]**または**[マイモード2]**を選択し、Ⓓを押します。
2) **[登録]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
- 現在の設定がカメラに登録されます。マイモードに登録できる機能は「マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能」(☞P.154)をご覧ください。
- 登録を解除するには**[クリア]**を選択します。

実行する

1) **[マイモード1]**または**[マイモード2]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
2) **[実行]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
- 使用するマイモードに設定されます。
- 撮影するときは**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。

ボタンON保持時間

ダイレクトボタンから指を離しても、押した状態を保持します。

[OFF]	ボタンを押している間のみ有効です。
[3秒]/[5秒]/[8秒]	それぞれの秒数の間、押した状態を保持します。
[HOLD]	もう一度ボタンを押すまで、押した状態を保持します。

- **[ボタンON保持時間]**で対象となるボタン
ISO、露出補正、**WB**、フラッシュ、フラッシュ補正、測光、**AF**、ドライブ/セルフタイマー/連写

AEL/AFL⇄Fn

AEL/AFLボタンと**Fn**ボタンの機能を切り換えることができます。**[ON]**を選択すると、**AEL/AFL**ボタンが**Fn**ボタンとして、**Fn**ボタンが**AEL/AFL**ボタンとして機能します。
- 別売のパワーバッテリーホルダーを装着しているときは、パワーバッテリーホルダー側の**Fn**ボタンにも設定が反映されます。

十字ボタン機能

[▪▪▪]を選択すると、十字ボタンでAFターゲットの位置を選択できるようになります。操作はシャッターボタンを半押しして離した後、しばらくの間可能です。
☞「AFターゲットの位置を選択する」(P.62)

カスタムメニュー1 ▶ Ⓒ レリーズ／連写

レリーズ優先S、レリーズ優先C

このカメラはAF作動中・フラッシュ充電中はシャッターが切れませんが、次の設定により、これらの完了を待たずに、シャッターを切ることができます。シャッターチャンスを優先する撮影に適しています。AF方式により個別に設定できます。
レリーズ優先S　S-AFモード（☞P.58）のレリーズ優先を設定します。
レリーズ優先C　C-AFモード（☞P.59）のレリーズ優先を設定します。

▭L設定

[▭L]で連続撮影するときの1秒間に撮影する枚数を**[1fps]**～**[4fps]**から設定します。

カスタムメニュー1 ▶ Ⓓ 表示／音／接続

ビープ音

シャッターボタンを押してピントが合ったときのピピッという音を鳴らさないようにできます。

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。スーパーコンパネ表示中は一定時間経過後、バックライトが消灯し、さらに一定時間が経過するとスリープモードになります。**[スリープ時間]**では、スリープモードに入るまでの時間を**[1分]**/**[3分]**/**[5分]**/**[10分]**から設定することができます。**[OFF]**に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、▶ボタンなどのボタンを操作してください。

バックライト時間

スーパーコンパネ表示中に一定時間が経過すると、バックライトが消灯して液晶モニタが暗くなり、電池の消費を抑えます。バックライトが消灯するまでの時間を**[8秒]**/**[30秒]**/**[1分]**から設定します。**[HOLD]**に設定するとバックライトは消灯しません。
バックライトを点灯させるにはシャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

自動電源OFF

カメラを使用しないで4時間経過すると、自動的に電源が切れるように設定することができます。**[OFF]**に設定すると電源は切れません。

USB接続モード

USBケーブルを使って、カメラをパソコンやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、「カメラをプリンタに接続する」（☞P.126）、「カメラをパソコンに接続する」（☞P.131）をお読みください。

[オート]
カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。

[ストレージ]
パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS Masterを使うときにもこれに設定します。

[MTP]
Windows Vistaで、OLYMPUS Masterを使わずに画像を転送するときに設定します。

[コントロール]
OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

[かんたん]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。☞「カメラをプリンタに接続する」（P.126）

[カスタム]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。プリント枚数や用紙などを設定してプリントすることができます。☞「カメラをプリンタに接続する」（P.126）

LVブースト

ライブビュー撮影中に、液晶モニタを明るくして被写体を確認しやすくすることができます。

[OFF]
設定した露出に応じた明るさで被写体が液晶モニタに表示されます。撮影結果に近い画像を、あらかじめ液晶モニタで確認しながら撮影できます。

[ON]
被写体を確認しやすいように、カメラが明るさを自動的に調整して液晶モニタに表示します。露出補正の調整結果は液晶モニタには反映されません。

LVフレームレート

ライブビューの表示更新速度を変更することができます。

[標準] 表示の細かさを優先します。
[高速] 表示の細かさよりも表示更新速度を優先します。シャッターの切れ遅れが緩和されます。

☻顔検出

[ON]に設定すると、人物の顔を検出して自動でピント合わせを行います。
☞「顔検出機能を使う」(P.41)
顔を中心にしたクローズアップ再生ができます。☞「1コマ再生／クローズアップ再生」(P.91)

INFO表示設定

ライブビュー時または再生時、**INFO**ボタンを押して表示する情報を選択します。

[▶INFO] 再生時の**[表示OFF]**/**[総合表示]**/**[ヒストグラム表示]**/**[ハイライト&シャドウ]**の表示、非表示を設定します。☞「情報表示」(P.94)

[LV-INFO] ライブビュー時の**[ヒストグラム表示]**/**[拡大枠表示]**/**[比較表示]**/**[表示OFF]**/**[方眼表示]**/**[黄金分割表示]**/**[目盛表示]**の表示、非表示を設定します。☞「情報表示を切り換える」(P.42)

水準器

[ON]に設定すると、カメラに内蔵されている加速度センサーにより、カメラの「あおり」と「水平傾き」に対応した2方向の水準器表示をすることができます。水平な線がない場合や夜景撮影時に画面が暗くて見えない場合などに目安としてご使用ください。

ファインダとコントロールパネルの表示：
シャッターボタンを半押し後、しばらくするとファインダとコントロールパネルが水準器表示に変わります。

液晶モニタの表示：
INFOボタンを繰り返し押して水準器表示に切り換えます。☞「情報表示を切り換える」(P.42))

表示範囲をオーバーしているときに表示されます。

こんなときは

水準器の0点を調整したい：

→ ☞「水準器調整」（P.119）

簡単に水準器表示と非表示を切り換えたい：

→ **Fn**ボタンに**[水準器]**を登録すると、**Fn**ボタンで水準器表示を切り換えることができます。☞「Fnボタン機能」（P.107）

注意

- カメラのあおりが大きい場合には、水平方向の傾きの誤差が大きくなります。

カスタムメニュー 1 ▸ 露出／測光／ISO

露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを**[1/3EV]**/**[1/2EV]**/**[1EV]**から切り換えます。

ISO感度ステップ

ISO感度の補正ステップを**[1/3EV]**/**[1EV]**から切り換えます。

ISOオート設定

ISO感度をオートに設定しているときの上限値と基準値を設定します。

[上限値]

自動的に変わるISO感度の上限値を200～3200の間で、1/3EVステップで設定します。

[基準値]

適正露出が得られる撮影状況で通常使用する値を200～3200の間で、1/3EVステップで設定します。

ISOオート有効

ISO感度の**[オート]**の設定が有効になる撮影モードを設定します。

[P/A/S]

Mモードをのぞく撮影モードで**[オート]**の設定が有効になります。**M**モードでは**[オート]**に設定されていると、ISO200になります。

[ALL]

すべての撮影モードで**[オート]**の設定が有効になります。**M**モードでも適正ISOになるようにISO感度が自動的に変わります。

AEL測光モード

AEL/AFLボタンを押して露出を固定するときの測光方式を設定します。

- **[オート]**は**[測光]**で選択されているモードで測光します。

BULBリミッター

バルブ撮影の最長時間（分）を設定します。

カスタムメニュー 1 ▸ 🅕 フラッシュ

⚡同調速度

フラッシュ発光時のシャッター速度を1/60～1/250の間で、1/3EVステップで設定できます。

⚡低速制限

フラッシュ発光時のシャッター速度の低速制限を1/30～1/250の間で、1/3EVステップで設定できます。

⚡±+± 連動

[ON]に設定しているときは、露出補正量に加算して、フラッシュ補正が行われます。

自動ポップアップ

AUTOやシーンモードでは、内蔵フラッシュは暗いときや逆光のときに自動的にポップアップします。**[OFF]**にすると内蔵フラッシュは自動的にポップアップしません。

カスタムメニュー 1 ▸ 🅖 画質／アスペクト／色／WB

全WBモード補正

ホワイトバランスの各モードを一括して同じ値に補正します。

[ALL SET]　すべてのWBモードを一括して同じ値に補正します。
[ALL CLEAR]　すべてのWB補正値を一括して0にします。

[ALL SET]を選択した場合

1) ◁▷で補正方向を選択します。
　A方向：赤-青／G方向：緑-赤紫
2) △▽で補正します。☞「WB補正」（P.75）
　AEL/AFLボタンを押すと、サンプル画像が撮影されます。補正したホワイトバランスを確認できます。

[ALL CLEAR]を選択した場合

1) △▽で**[実行]**を選択します。

カラー設定

撮影した画像をモニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。
☞「ファイルネーム」（P.116）

Pmdd0000.jpg
　P : sRGB
　_ : Adobe RGB

[sRGB]	Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB]	Adobe Photoshopで設定できる色空間。

7
カスタム機能の設定

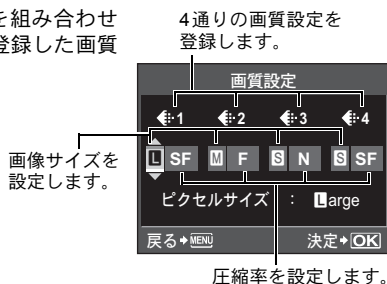
シェーディング補正

レンズの特性により、画面の周辺が暗くなることがあります。これを補正して、明るくします。特に広角レンズを使用したときに、この機能が効果を発揮します。

注意

- テレコンバーターやエクステンションチューブを装着しているときは、この機能は働きません。
- ISO感度の高い設定で行うと、画面周辺のノイズが目立つことがあります。

画質設定

3種類の画像サイズと4種類の圧縮率を組み合わせて、4通りの画質設定を登録します。登録した画質設定は**[画質モード]**で選択します。
☞「画質モードの選択」（P.71）

ピクセルサイズ

画像サイズ**[M]**、**[S]**のピクセルサイズを設定します。

[Middle] **[3200 × 2400]**/**[2560 × 1920]**/**[1600 × 1200]**から選択します。
[Small] **[1280 × 960]**/**[1024 × 768]**/**[640 × 480]**から選択します。

アスペクト比設定

ライブビュー撮影時のアスペクト比（横 × 縦）を変更します。撮影目的に応じた縦横比を**[4:3]**（基準）/**[3:2]**/**[16:9]**/**[6:6]**/**[5:4]**（六切）/**[7:6]**/**[6:5]**（四切）/**[7:5]**/**[3:4]**から選びます。JPEG形式の画像は、アスペクト比に応じてトリミングされて保存されます。

注意

- RAW画像はトリミングされずに、撮影時のアスペクト比情報が付加された状態で記録されます。
- RAW画像再生時は、アスペクト比に応じた枠が表示されます。

こんなときは

ファインダ撮影時にも[アスペクト比設定]を反映させたい：

→**[アスペクト反映]**で**[ALL]**を設定します。

☞「アスペクト反映」（P.115）

撮影した画像のアスペクト比を変更したい：

→画像のアスペクト比が**[4:3]**の場合のみ、アスペクト比変換が可能です。

☞「画像編集」（P.97）

撮影した画像をトリミングしたい：

→画像のアスペクト比が**[4:3]**の場合のみ、トリミングが可能です。

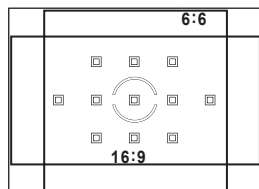
☞「画像編集」（P.97）

アスペクト反映

撮影時のアスペクト比を**[4:3]**以外に設定した場合、その設定をライブビュー撮影のみに限定するか、ファインダ撮影・ライブビュー撮影にかかわらず設定したアスペクト比で撮影するかを選択できます。

[LV撮影]　ライブビュー撮影時のみ反映します。
[ALL]　ファインダ撮影・ライブビュー撮影とも反映します。

注意

- ファインダ撮影時はトリミングされずに、撮影時のアスペクト比情報が付加された状態で記録されます。再生時は、アスペクト比に応じた枠が表示されます。
- ファインダにアスペクト枠は表示されません。ファインダ撮影する場合は、右図を目安として撮影してください。

ファインダ

カスタムメニュー 1 ▶ 記録／消去

ワンプッシュ消去

🗑ボタンを押して、すぐに画像を消去するように設定します。

[OFF]　🗑ボタンを押すと消去を実行するかどうかを確認する画面が表示されます。
[ON]　🗑ボタンを押すとすぐに消去が実行されます。

RAW+JPEG 消去

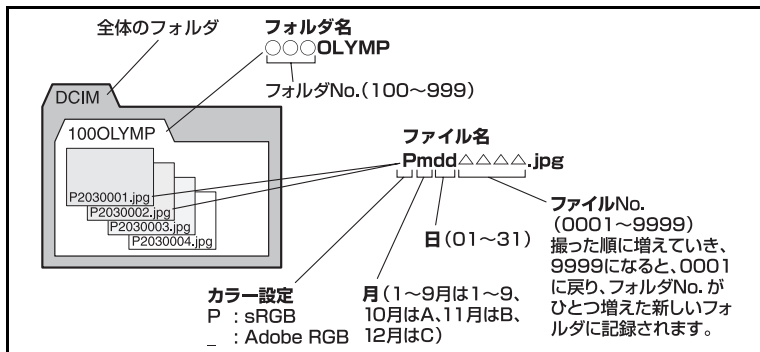
RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定できます。1コマ消去を行うときのみ有効な機能です。

[JPEG]　JPEGの画像を消去してRAWのみ残します。
[RAW]　RAWの画像を消去してJPEGのみ残します。
[RAW+JPEG]　同時に両方を消去します。

注意

- この機能は、1コマ消去する場合にのみ有効です。全コマ消去や選択コマ消去の場合は、この設定に関係なくRAW、JPEG両方とも同時に消去されます。

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときにファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

[オート]
カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNo.と重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNo.に続いた番号が付けられます。

[リセット]
新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo. に続けて番号が付けられます。

実行優先設定

「画像の消去」や「カードの初期化」などの画面で、カーソルの初期位置を**[実行][中止]**のどちらにするかを選択できます。

dpi設定

プリントするときの解像度をあらかじめ設定できます。設定した値が撮影時に画像と共にカードに記憶されます。

[オート] 画像サイズにあわせて自動的に設定されます。
[カスタム] 任意の数値を設定します。▷を押すと設定画面が表示されます。

クリーニングモード

☞ P.142

光源センサの参照

オートホワイトバランスでの光源判定用の光源センサーを使わないこともできます。センサー周辺と被写体の光源が異なる場合に有効です。

AF微調節

AFセンサーによるピント位置を±20ステップ（–：至近側、+：∞側）の範囲で微調節できます。通常は設定を変更する必要はありません。

[AF微調節モード]

AF基準値を微調節して登録します。レンズごとに登録することもできます。

[OFF]

AF微調節しません。

[一律]

個別登録されていないすべてのレンズのAF微調節値を登録、適用します。

[個別]

レンズごとにAF微調節を行い、最大20本分のレンズの調節値を登録することができます。

を押して調整します。

注意

- 調整により、レンズの∞側または至近側でピントが合わなくなる場合があります。
- テレコンバーターを装着した場合は、テレコンバーターとレンズのセットで登録されます。
- フォーサーズレンズ以外は登録できません。

[個別登録リスト]

[AF微調節モード]から**[個別]**で登録したレンズ情報が一覧表示されます。一覧からレンズを選択して登録内容の確認、削除、編集を行います。

同一のレンズが複数登録されている場合、✔がついているレンズの調節値が適応されます。

選択したレンズの確認、削除、編集を行います。

同一のレンズを複数登録している場合、どのレンズを使用するか選択します。

こんなときは

AF調節値を少しずつ変えながら撮影したい：

→微調節後、Ⓞボタンを押す前に、シャッターボタンを押して繰り返し撮影することができます。
確認用の撮影では、以下についてご注意ください。

- 画質モードはLN以上で撮影することをおすすめします。
- 撮影時は手ぶれ、被写体ぶれ、距離の変化などに注意してください。
- 実際に撮影する環境（光量、温度）で、撮影距離は約3m以内としてコントラストのはっきりとした被写体を撮影することをおすすめします。
- 逆光での撮影は避けてください。

調節値の違いを比較したい：

→ライトボックス表示で比較することができます。ライトボックス表示では、調節値も表示されます。☞「ライトボックス表示」（P.92）

1つのレンズに2種類の調節値（前ピン状態、後ピン状態）を登録したい：

→同一レンズに複数の調節値を登録することができます。撮影時に適用する調節値は[個別登録リスト]画面で選択します。

同じレンズを2本持っているが、それぞれで登録したい：

→同じ種類のレンズでも個体別に登録できます。

AFターゲットを指定して登録したい／ズームのワイド側とテレ側の調整値を登録したい：

→個別登録画面でⒹを押すと、以下の設定ができます。

- 個別のAFターゲットを指定し、ターゲットごとに異なる調整ができます。通常はすべてのAFターゲットの調整値として登録されます。
- ズームのテレ側とワイド側で異なる調整をすることができます。通常はテレ側の調整値として登録されます。

露出基準調整

適正露出の基準値をお好みに合わせて、測光方式ごとに調整します。±1.0EVの範囲を1/6ステップで、設定できます。

❗ 注意

- 露出補正の範囲は±5.0EVです。**[露出基準調整]**をすると、基準値を調整した方向の範囲が狭まります。
- 露出基準調整量は撮影時に確認できません。通常の露出補正を目的とする場合は、露出補正してください。☞「露出補正」（P.51）

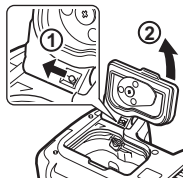
電池設定

単3電池は、種類や銘柄によって特性が異なる場合があります。別売のパワーバッテリーホルダー（HLD-4）に単3電池を入れて使用するとき、電池残量表示の電池電圧レベルを特性に合わせて設定することができます。通常は設定を変更する必要はありません。

[▬1] 単3アルカリ電池／オキシライド電池／リチウム電池の電池特性を基準とする設定です。

[▬2] **[▬1]**よりも警告レベルを低く設定します。

[▬3] **[▬2]**よりも警告レベルを低く設定します。

• パワーバッテリーホルダーをカメラに取り付けるときは、カメラの電池カバーを右図の手順で取り外します。

注意

• 使用する電池の状態により、十分な効果が得られない場合があります。

• **[▬1] [▬2] [▬3]**の設定順で撮影可能枚数が増えますが、警告表示されずに撮影できない状態になることがあります。

▭警告レベル

▭（点灯）が表示されるタイミングを変更することができます。通常は設定を変更する必要はありません。

注意

• 電池残量表示は電池の充電を促す警告ではありません。▭が点滅表示したら、電池を充電してください。☞「電源を入れる」（P.15）

水準器調整

角度のずれが気になる場合には、水準器の0点を調整できます。

[リセット] 出荷時の調整値に戻ります。

[キャリブレーション] 現在のカメラの状態位置を0点とします。

注意

• カメラを水平に固定させた状態で**[キャリブレーション]**を実行してください。カメラが安定していないと、希望通りの0点調整ができない場合があります。

カスタムメニュー 2

日時設定

☞P.16

記録カード選択

コンパクトフラッシュとxD-ピクチャーカードを両方挿入しているときに、使用するカードを選択します。

ファイルネーム編集

画像のファイル整理に便利なようにファイルネームの一部を変更できます。
カラー設定により変更できる部分が異なります。☞「カラー設定」（P.113）

モニタ調整

液晶モニタの明るさと色温度を調整します。色温度の調整は再生時のモニタ表示にのみ適用されます。
◁▷で🌡（色温度）と☼（明るさ）を切り換え、△▽で**[+7]**～**[-7]**の範囲で調整します。

🗣☰（言語切り換え）

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語ではなく他の言語にすることができます。
- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。
  詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをご覧ください。☞「OLYMPUS Masterを使う」（P.130）

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

主な国と地域の映像信号
海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

撮影確認

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

[1秒]～[20秒] 画像を表示する時間を指定します。1秒刻みで設定することができます。
[OFF] 記録中の画像は表示されません。
[AUTO[▶]] 記録中の画像を表示し、そのまま再生モードに切り換わります。画像を確認した後、消去したいときに便利です。

ピクセルマッピング

☞P.142

バージョン

カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
お問い合わせいただく際やソフトウェアをダウンロードする場合に必要になることがあります。
▷を押します。カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
Ⓞボタンを押すと、前の画面に戻ります。

設定のリセット

このカメラでは、**P**/**A**/**S**/**M**モードで変更した設定は、電源を切ってもリセットされません。カメラを出荷時の設定に戻すには**[リセット]**を実行します。**[リセット1]**・**[リセット2]**にあらかじめリセット内容を登録しておくこともできます。**[リセット1]**・**[リセット2]**には、登録時のカメラの設定内容が登録されます。登録される機能については、「マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能」（☞P.154）をご覧ください。

[リセット１][リセット2]を登録する

メニュー **MENU ▸ [◘] ▸ [カスタムリセット設定]**

1 登録先（[リセット1]または[リセット2]）を選択し、▷を押します。
- すでに登録している場合、**[リセット1]**/**[リセット2]**に**[登録]**と表示されます。もう一度**[登録]**を選択すると、登録内容が上書きされます。
- 登録を解除する場合は**[クリア]**を選択します。

2 [登録]を選択し、Ⓞボタンを押します。

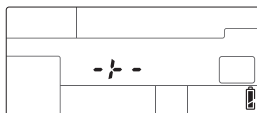
リセット操作

出荷時の設定に戻します。または、**[リセット1]**、**[リセット2]**の登録内容にリセットします。

[リセット]	カメラを出荷時の設定に戻します。初期設定は「メニュー一覧」（☞P.155）をご覧ください。
[リセット1]/[リセット2]	登録した内容にリセットします。

ダイレクトボタン　**⊠ + ISO**

- ⊠ボタンと**ISO**ボタンを同時に2秒間押すと、**[リセット]**が実行されます。
- 2つのボタンを同時に押しながらダイヤルを操作すると、リセットの内容を選ぶことができます。ボタンから指を離すとリセットが実行されます。

ファインダ

コントロールパネル

-⊦-　：リセット
-⊦-　1：リセット1
-⊦-　2：リセット2

メニュー　**MENU ▸ [ⓒ] ▸ [カスタムリセット設定]**

1 **[リセット]/[リセット1]/[リセット2]のいずれかを選択した状態で㊉ボタンを押します。**

2 **△▽で[実行]を選択し、㊉ボタンを押します。**

7
カスタム機能の設定

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する規格。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF 対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする
予約されている内容にしたがってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする
パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

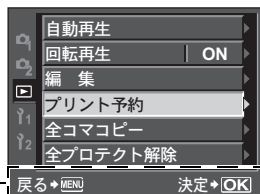
注意
- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。また、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- RAWデータはプリントできません。

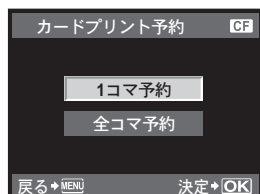
DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ
プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ファイル番号
（例）100—0011
画像の通し番号
フォルダの通し番号

1コマ予約する

操作ガイドにしたがって1枚の画像をプリント予約してみましょう。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]

操作ガイド

2 [1コマ予約]を選択し、Ⓞボタンを押します。

3 ◁▷を押してプリント予約したいコマを選択し、▽△を押してプリントする枚数を設定します。

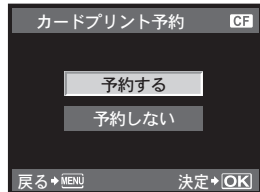
- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。

4 プリント予約が終わったらⓄボタンを押します。

- 1コマ予約のメニュー画面が表示されます。

5 日時の種類を選択し、Ⓞボタンを押します。

[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。

6 [予約する]を選択し、Ⓞボタンを押します。

全コマ予約する

カード内全画像をプリント予約します。プリント枚数は1枚固定です。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]

2 [全コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。

3 日時の種類を選択し、OKボタンを押します。

[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。

4 [予約する]を選択し、OKボタンを押します。

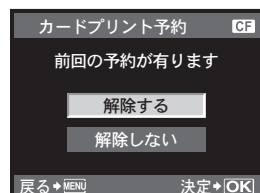
プリント予約を解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]

すべての予約を解除する

2 [1コマ予約]または[全コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。

3 [解除する]を選択し、OKボタンを押します。

1コマずつ予約を解除する

2 [1コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。

3 [解除しない]を選択し、OKボタンを押します。

4 ◁▷を押してプリント予約を解除したいコマを選択し、▽でプリント枚数を0に設定します。

5 プリント予約の解除が終わったら、OKボタンを押します。

6 日時の種類を選択し、OKボタンを押します。

• プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。

7 [予約する]を選択し、OKボタンを押します。

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞P.128）で**[標準設定]**を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

- 使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

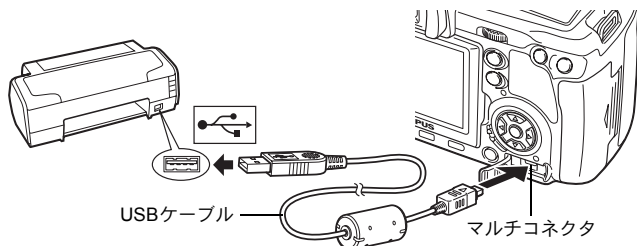
注意

- プリントを始める際は、充電した電池または別売のACアダプタをご使用ください。
- RAWデータで記録された画像は、プリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、カメラに付属のUSBケーブルで、カメラのマルチコネクタとプリンタのUSBポートを接続します。

- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 カメラの電源を入れます。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 で[かんたんプリント]か[カスタムプリント]を選択します。

USB CF
ストレージ
MTP
コントロール
かんたんプリント
カスタムプリント
決定➔OK

[かんたんプリント]を選択した場合

- 「かんたんプリントでプリントする」（☞P.127）へ進んでください。

[カスタムプリント]を選択した場合

- [しばらくお待ちください]と表示された後、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。
  「カスタムプリントでプリントする」（☞P.127）へ進んでください。

注意

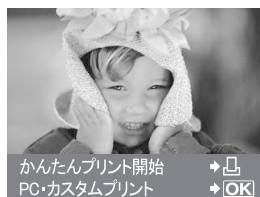
- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USB ケーブルを抜いて、手順1からやりなおしてください。

かんたんプリントでプリントする

1 を押して、プリントする画像をカメラに表示します。

- プリントしたい画像をカメラに表示してから、USB ケーブルでカメラとプリンタを接続すると、すぐに右の画面が表示されます。

2 （プリント）ボタンを押します。

- プリントが終わると画像選択の画面が表示されます。別の画像をプリントするときはを押して画像を選択し、ボタンを押します。
- 終了するときは、画像選択の画面が表示された状態でカメラからUSBケーブルを抜きます。

カスタムプリントでプリントする

1 操作ガイドにしたがってプリントの各設定をします。

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

この部分に表示されるガイドにしたがって操作を進めてください。

[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像がないときは、選択できません。（☞P.124）

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

[サイズ] プリンタで用意されている用紙に合わせます。

[フチ] 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

[分割数] 同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで**[マルチプリント]**を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

[プリント]（OK） 表示している画像をプリントします。**[1枚予約]**をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。

[1枚予約]（▲） 表示している画像をプリントする予約をします。**[1枚予約]**をしたら、◀▶で、次に予約したい画像を選んでください。

[詳細予約]（▼） 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。操作については次項「プリントする情報を設定する」（☞P.128）をご覧ください。

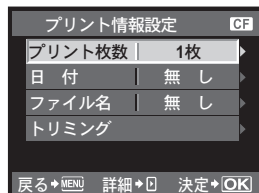
プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。**[全コマプリント]**モードの場合、**[オプション設定]**を選択すると下の画面が表示されます。

[プリント枚数] プリントする枚数を設定します。

[日付] 画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。

[ファイル名] 画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

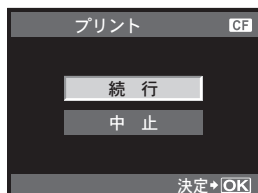
[トリミング] 画像をトリミングしてプリントします。メインダイヤルでトリミングサイズを、十字ボタンでトリミング位置を指定します。

2 プリントする画像や内容が決まったら、[プリント]を選択し、Ⓞボタンを押します。

[プリント] プリンタへプリントする画像のデータを転送します。

[中止] プリントをやめます。設定した予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、**MENU**ボタンを押します。一つ前の設定に戻ります。

• プリントを始めてから途中で停止したいときは、Ⓞボタンを押します。

[続行] プリントを続行します。

[中止] プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

OLYMPUS Masterを使う

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

準備するもの

- OLYMPUS Master 2 CD-ROM
- USBケーブル
- 動作環境を満たしたパソコン
（動作環境については、インストールガイドをご覧ください。）

OLYMPUS Masterをインストールする （OLYMPUS Masterに同梱されているインストールガイドを参照）	
▼	
付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する	（☞P.131）
▼	
OLYMPUS Masterを起動する	（☞P.132）
▼	
画像をパソコンに保存する	（☞P.132）
▼	
カメラをパソコンから取り外す	（☞P.133）

付属のOLYMPUS Masterを使う

OLYMPUS Masterとは？

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

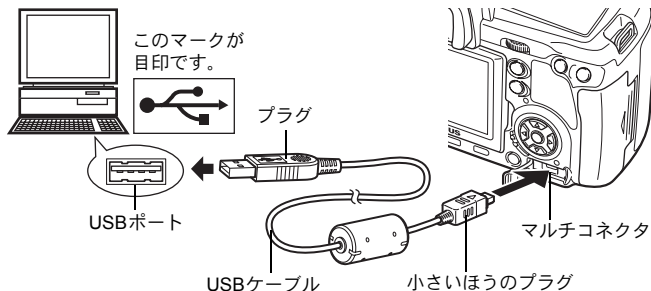
- **カメラやメディアから画像を取り込む**
- **画像を見る**
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。
- **画像を整理・管理する**
アルバム、またはフォルダで画像を整理できます。取り込んだ画像は撮影日時で自動的に整理され、日付によって画像をすばやく見つけることができます。
- **フィルタ機能、補正機能で画像を補正する**
- **画像を編集する**
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。
- **プリンタを使ってプリントする**
簡単な操作でプリントできます。
- **カメラのバージョンアップをする**
- **RAW画像を現像する**

その他の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」をご覧ください。

カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 付属のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのマルチコネクタを接続します。

- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラのパワースイッチをONにします。

- 液晶モニタに USB ケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 △▽を押して[ストレージ]を選択します。OKボタンを押します。

4 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

Windowsの場合

- 初めてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

Macintoshの場合

- Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhoto が自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

1 デスクトップの「OLYMPUS Master 2」アイコン をダブルクリックします。

Macintoshの場合

1 「OLYMPUS Master 2」フォルダ内の「OLYMPUS Master 2」アイコン をダブルクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。
- OLYMPUS Masterをインストールして初めて起動すると、ブラウズウィンドウの前にOLYMPUS Masterの初期設定画面とユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって操作してください。

OLYMPUS Masterを終了するには

1 各ウィンドウで「閉じる」 をクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

1 ブラウズウィンドウで「取り込み」 をクリックして、「カメラから取り込み」 をクリックします。

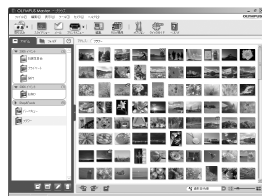
- カメラから取り込みウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

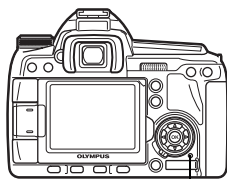
2 「新規アルバム」を選択して、アルバムの名前を入力します。

3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。

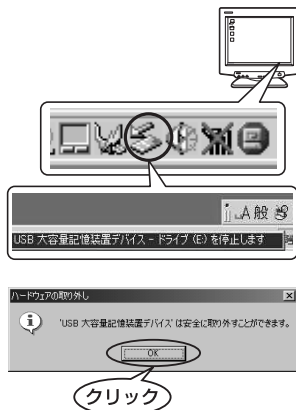
- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。

カメラを取り外す

1 **カメラのカードアクセスランプの点滅が終了していることを確認します。**

2 **USBケーブルを抜く準備をします。**

Windowsの場合

1) システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。
2) 表示されるメッセージをクリックします。
3)「デバイスは安全に取り外すことができます」が表示されたら、「OK」をクリックします。

Macintoshの場合

1) デスクトップの「名称未設定」（または「NO_NAME」）アイコンをドラッグすると「ごみ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

3 **カメラからUSBケーブルを抜きます。**

注意

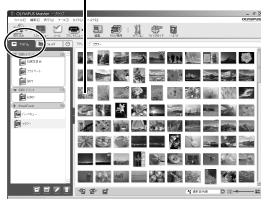
- Windows の場合：
「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画を見る

1 ブラウズウィンドウの「アルバム」タブをクリックし、見たいアルバムを選択します。

- 選択したアルバムの画像がサムネイルエリアに表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

- 画像編集ウィンドウに切り換わり、画像が拡大されます。
- 「戻る」をクリックすると、ブラウズウィンドウに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows ：2000 Professional/XP Home Edition/XP Professional/Vista
Macintosh：Mac OS X v10.3以降

注意

- Windows Vistaをお使いの場合は、131ページの手順3で**[MTP]**を選択することでWindows フォト ギャラリーが使用できます。
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

こんなときは?

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

- 電池は低温下にあると性能が低下して、カメラを動かすための十分な充電量が確保できない場合があります。カメラから電池を一度取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、カメラは動作停止します。シャッターボタンなどいずれかのボタンを操作するとカメラは動作を再開します。更に4時間何も操作をしないと、自動的に電源が切れます。カメラは電源を入れなおすまで動きません。☞「スリープ時間」(P.109)、「自動電源OFF」(P.109)

フラッシュが充電中である

- フラッシュを起こしているとき、ファインダ内の ⚡ マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

- ファインダ内の合焦マークが点滅しているときは、AF でピントを合わせることができなかったときです。もう一度シャッターボタンを押しなおしてください。

長秒時ノイズ低減が作動している

- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。**[長秒時ノイズ低減]**は**[OFF]**に設定することもできます。☞「長秒時ノイズ低減」(P.80)

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

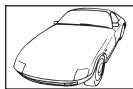
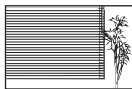
- お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞「日時を設定する」(P.16)

カメラから電池を抜いていた

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります(当社試験条件による)。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものには
ピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体　画面中央に極端に明るいものがある場合　繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合　動きの速いもの　被写体がAFターゲット内にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。☞「フォーカスロック—ピントが合わないとき」（P.64）

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストと言われる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。
☞「交換レンズについて」（P.146）

被写体に無い明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。**[ピクセルマッピング]**を行ってください。また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。
☞「画像処理機能をチェックする—ピクセルマッピング」（P.142）

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

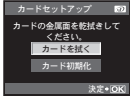
- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- すでに設定済みの項目との組み合わせの関係で設定できない場合：
  [□]と**[長秒時ノイズ低減]**の組み合わせなど。

イメージャ AFが使えない

イメージャ AFは対応レンズとの組み合わせのみ可能です。対応しているオリンパスレンズについては、オリンパスホームページでご確認ください。

電源を切るとカメラが振動する

これは手ぶれ補正機構の初期化動作で、この動作を行わないと、適正な補正効果が得られない場合があります。

設定した機能が元に戻ってしまう

P/**A**/**S**/**M** 以外の撮影モードでは、モードダイヤルを回したり電源を切ると設定した機能が初期設定に戻ります。

エラーコード

ファインダ内の表示	コントロールパネルの表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
通常表示	- - -	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
CArd E	-E-	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
CArd P	-P-	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
CArd 0	0	撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。

ファインダ内の表示	コントロールパネルの表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	表示なし	カードセットアップ カードの金属面を乾拭きしてください。 カードを拭く カード初期化 決定➔OK	xD-ピクチャーカードが読み込めていません。またはカードが初期化されていません。	• **[カードを拭く]**を選択し、Ⓞボタンを押してカメラの電源を切ります。カードを抜いて乾いた柔らかい布で金属面を乾拭きしてください。 • **[カード初期化]**▶**[実行]**の順に選択し、Ⓞボタンを押して初期化します。初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。
表示なし	表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
表示なし	表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
表示なし	表示なし	この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
表示なし	表示なし	しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください	長時間のライブビューや連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	しばらくすると、自動的に電源が切れます。カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
CArd oP	-0-	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。

ファインダ内の表示	コントロールパネルの表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	表示なし	電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
表示なし	表示なし	接続されていません	カメラがパソコンまたはプリンタに正しく接続されていません。	カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続しなおしてください。
表示なし	表示なし	用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
表示なし	表示なし	インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
表示なし	表示なし	紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
表示なし	表示なし	プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
表示なし	表示なし	プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
表示なし	表示なし	この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⒺマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン：

- 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときのほか、ライブビュー起動時・終了時にも働きます。また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。

☞「SSWFランプ」（P.15）

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

ゴミの除去—クリーニングモード

撮像素子にゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。電池残量にご注意ください。

1 レンズを取り外し、パワースイッチをONにします。

2 MENU ▶ [ʏ1] ▶ [ʏI] ▶ [クリーニングモード]

クリーニングモード
光源センサの参照 ON
AF微調節
露出基準調整
電池設定
警告レベル ±0
戻る ▶ MENU　決定 ▶ OK

3 ⓘを押して、ⓞボタンを押します。
- クリーニングモードになります。

4 シャッターボタンを全押しします。
- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

5 撮像素子をクリーニングします。
- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

6 電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。
- カメラの電源を切ると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。

注意
- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする—ピクセルマッピング

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 MENU ▶ [ʏ2] ▶ [ピクセルマッピング]

2 ⓘを押して、ⓞボタンを押します。
- ピクセルマッピング実行中の**[処理中]**バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

注意
- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

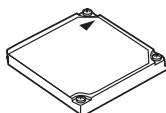
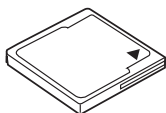
カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、コンパクトフラッシュ、マイクロドライブ、xD-ピクチャーカード（別売）です。

コンパクトフラッシュ
大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。市販のコンパクトフラッシュが使用できます。

マイクロドライブ
大容量に対応した小型のハードディスクドライブです。CF + TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使用できます。

xD-ピクチャーカード
主にコンパクトカメラで使用されている記録メディアです。

マイクロドライブ使用時のご注意

マイクロドライブは小型のハードディスクドライブです。回転系記録媒体のため、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に弱く、使用時（とくに記録中や再生中）は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分な注意が必要です。ご使用の前に以下の注意事項をよくお読みください。
マイクロドライブの取扱説明書も合わせてお読みください。

- 画像記録中にカメラを机などに置く場合は、カメラに衝撃を与えないでください。
- 工事などで地盤が振動している場所や、舗装の悪い道を走行中の車など、カメラに激しく振動が伝わる場所では使用しないでください。
- 強い磁気のある場所へ近づけないでください。
- 3000 ｍ以上の高度など気圧の低い場所では正常に動作しない場合があります。

注意

- 初期化や削除してもカード内のデータは完全に消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

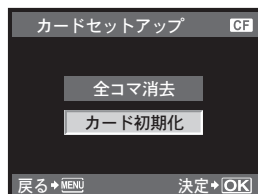
カードを初期化する

当社製以外のカードやパソコンで初期化したカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化しなおしてください。
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1 MENU ▸ [📷] ▸ [カードセットアップ]

2 ⊕⊖で[カード初期化]を選択します。㊉ボタンを押します。

3 ⊕⊖で[実行]を選択します。㊉ボタンを押します。

- 初期化が実行されます。

こんなときは

2つのカードスロットにカードを挿入しているときは：

→**[記録カード選択]** で使用するカードを選択してください。☞「記録カード選択」（P.120）

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（BLM-1）1 個を使用します。
それ以外の電池は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ライブビュー撮影中。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に付属の充電器（BCM-2）で充電を行ってください。
- 付属の充電器による充電池の充電時間は、通常約5時間（目安）です。
- 専用の充電器以外は使用しないでください。

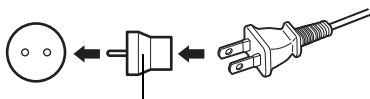
ACアダプタ

長時間スライドショーを行う、パソコンに画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタ（AC-1：別売）のご使用をおすすめします。
専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。

注意

- カメラの電源が入っているとき、カメラを他の機器に接続しているとき、電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- ACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。

海外での使用について

- 充電器とACアダプタは、世界中のほとんどの家庭用電源AC100～240 V（50/60 Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。

変換プラグアダプター（市販）

イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。
詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器とACアダプタが故障することがありますので使用しないでください。

交換レンズについて

撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
レンズは専用レンズ（フォーサーズマウント）をご使用ください。専用レンズ以外では、オートフォーカスや正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

フォーサーズマウント
オリンパスが開発した規格。フォーサーズシステムのレンズマウント規格。既存の35 mmフィルム一眼レフカメラ用レンズシステムにとらわれず、デジタルカメラの特性にふさわしい光学設計に基づいて、新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

ZUIKO DIGITAL用交換レンズ

過酷なプロユースにも耐えうるよう設計された「フォーサーズシステム」専用の交換レンズです。「フォーサーズシステム」の利点を活かすことで、大口径でありながら小型軽量化を実現しています。

フォーサーズシステムレンズの焦点距離と被写界深度について

35 mm判カメラに対してフォーサーズシステムカメラは、同じ焦点距離、同じ絞り値に対して得られる効果が異なります。

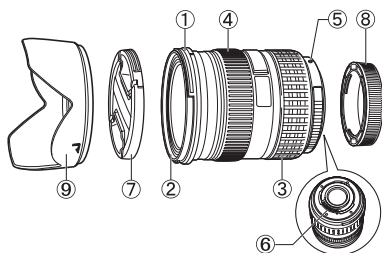
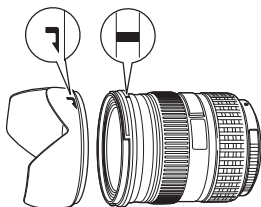
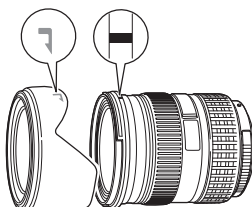
焦点距離
35 mm判カメラと同じ焦点距離に対して、2倍相当の望遠効果が得られます。そのため、小型の望遠レンズ設計が可能です。たとえば、フォーサーズシステムレンズ14-50 mmは、35 mm判換算で28-100 mmに相当します。
- フォーサーズシステムレンズの画角を35 mm判換算した場合、得られる遠近感は35 mm判カメラと同じです。

被写界深度
35 mm判カメラに対して2倍相当の深い深度が得られます。たとえば、F2.0の明るさのフォーサーズシステムレンズは、35 mm判換算でF4.0に相当します。
- 背景のボケ量は、35 mm判換算した値で得られる効果と同じです。

注意
- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- 埃の多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、埃の侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

主なZUIKO DIGITALレンズの仕様

■ 各部の名称

① フード取り付け部
② フィルター取り付けネジ
③ ズームリング
④ フォーカスリング
⑤ 取り付け指標
⑥ 電池回路接点
⑦ フロントキャップ
⑧ リアキャップ
⑨ レンズフード

■ フードの取り付け方

■ フードの収納のしかた

• 逆光時はフードを取り付けて撮影してください。

■ 主な仕様

項目	14-42 mm	14-54 mm	12-60 mm
マウント	フォーサーズマウント		
焦点距離	14～42 mm	14～54 mm	12～60 mm
最大口径比	F3.5～5.6	F2.8～3.5	F2.8～4.0
画角	75°～29°	75°～23°	84°～20°
レンズ構成	8群10枚	11群15枚	10群14枚
	多層膜コーティング（一部単層）		
絞り制御	F3.5～22	F2.8～22	F2.8～22
撮影距離	0.25 m～∞	0.22 m～∞	0.25 m～∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え		
質量（フード、キャップを除く）	190 g	435 g	575 g
大きさ（最大径 × 全長）	ø65.5 × 61 mm	ø73.5 × 88.5 mm	ø79.5 × 98.5 mm
レンズフード取り付け	バヨネット式		
フィルター取り付けネジ径	58 mm	67 mm	72 mm

別売のエクステンションチューブEX-25は下記の範囲で使用できます。
EX-25取り付け時のピントの調整方式はMFになります。

レンズ・焦点距離		撮影可能範囲	倍率 （ ）は35 mmフィルムカメラ換算
14-42 mm	14 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	25 mm	13.3 cm	1.02×（2.04×）
	42 mm	16.2 cm～17.3 cm	0.61～0.69×（1.22～1.38×）
14-54 mm	14 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	54 mm	17.7 cm～22.2 cm	0.47～0.65×（0.94～1.3×）
12-60 mm	12 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	60 mm	21 cm～25.6 cm	0.43～0.58×（0.86～1.16×）

■ 保管上のご注意

- 使用後は清掃して保管してください。レンズ面のごみや汚れは、ブロアーブラシや刷毛で取り除きます。レンズの汚れは市販のレンズクリーニングペーパーを使ってください。有機溶剤は使わないでください。
- 必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 防虫剤のあるところに保管しないでください。

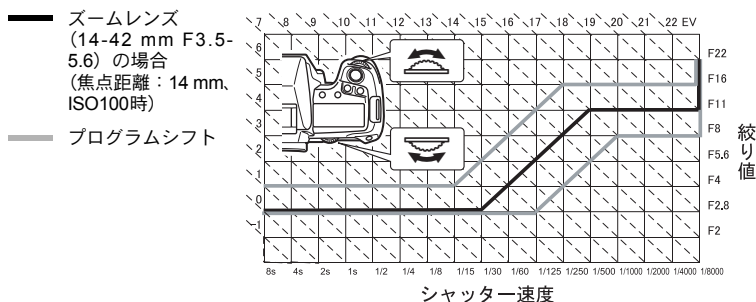
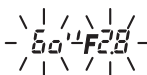
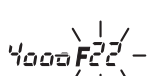
❗ 撮影時のご注意

- フィルターを2枚以上重ねたり、厚みがある種類を使用したときは、画面にけられが生ずることがあります。

プログラム線図（Pモード）

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

ズームレンズ（14-42 mm F3.5-5.6）の場合（焦点距離：14 mm、ISO100時）

プログラムシフト

シャッター速度連動範囲

撮影モード	フラッシュ発光秒時	同調秒時上限*1	発光固定秒時*2
P	1/（レンズの焦点距離× 2）または同調秒時設定のいずれか遅い方	1/250	1/60
A			
S	同調秒時設定		—
M			

*1 メニューで変更可：1/60-1/250　☞「⚡同調速度」（P.113）
*2 メニューで変更可：1/30-1/250　☞「⚡低速制限」（P.113）

露出警告表示

シャッターボタンを半押ししたとき、適正な露出が得られない場合はファインダとスーパーコンパネの表示が点滅します。

撮影モード	警告表示例（点滅）	状態	対処方法
P	60" F2.8	被写体が暗すぎます。	• ISO感度を上げてください。 • フラッシュを使用してください。
	8000 F22	被写体が明るすぎます。	• ISO感度を下げてください。 • 市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。
A	30" F5.6	露出アンダーです。	• 絞り値を小さくしてください。 • ISO感度を上げてください。
	4000 F5.6	露出オーバーです。	• 絞り値を大きくしてください。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。
S	4000 F2.8	露出アンダーです。	• シャッター速度を遅くします。 • ISO感度を上げてください。
	4000 F22	露出オーバーです。	• シャッター速度を速くします。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。

* 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。

撮影モード別使用可能なフラッシュモード

撮影モード	ファインダの表示	コントロールパネルの表示	スーパーコンパネの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
AUTO P A (ポートレート) (風景) (マクロ) (スポーツ) (夜景＋人物)*2	⚡ -A	⚡-A	⚡ AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*1のとき発光	1/30秒～1/250秒
	⚡ oo -A	⚡-A 👁	👁	オート発光（赤目軽減）			
	⚡	⚡	⚡	強制発光		いつでも発光	
	⚡ oFF	⚡ oFF	⚡(禁止)	発光禁止	—	—	—
	⚡ SLo oo -A	⚡SLOW -A 👁	👁 SLOW	スローシンクロ（赤目軽減）	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*1のとき発光	60秒～1/250秒
	⚡ SLo -A	⚡SLOW -A	⚡ SLOW	スローシンクロ（先幕シンクロ）			
	⚡ SLo 2 -A	⚡SLOW -A 2nd-CURTAIN	⚡ SLOW2	スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ		
	⚡ FuLL	⚡ FuLL	⚡ FULL	マニュアル発光（FULL）	先幕シンクロ	いつでも発光	
	⚡ 1-4	⚡ 1-4	⚡ 1/4	マニュアル発光（1/4）			
	⚡ 1-16	⚡ 1-16	⚡ 1/16	マニュアル発光（1/16）			
	⚡ 1-64	⚡ 1-64	⚡ 1/64	マニュアル発光（1/64）			

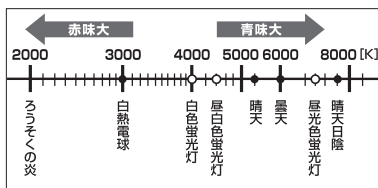
撮影モード	ファインダの表示	コントロールパネルの表示	スーパーコンパネの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
S M	⚡	⚡	⚡	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	60秒～1/250秒
	⚡ oo	⚡ 👁	👁⚡	強制発光（赤目軽減）			
	⚡ oFF	⚡ oFF	⚡（発光禁止マーク）	発光禁止	—	—	—
	⚡ 2	⚡ 2nd-CURTAIN	2nd CURTAIN	強制発光／スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ	いつでも発光	60秒～1/250秒
	⚡ FuLL	⚡ FuLL	⚡ FULL	マニュアル発光（FULL）	先幕シンクロ		
	⚡ 1-4	⚡ 1-4	⚡ 1/4	マニュアル発光（1/4）			
	⚡ 1-16	⚡ 1-16	⚡ 1/16	マニュアル発光（1/16）			
	⚡ 1-64	⚡ 1-64	⚡ 1/64	マニュアル発光（1/64）			

*1 専用フラッシュがスーパーFPモードに設定されているとき、通常のフラッシュ発光秒時以上で逆光を判定して発光します。☞「スーパー FP発光」（P.87）
*2 夜景＆人物モードでは、**AUTO**、👁、⚡は、設定できません。

ホワイトバランス色温度

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。

• 各光源として設定された色温度は目安です。

このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

画質モードとファイル容量、撮影可能枚数

表内のファイルサイズは、アスペクト比4：3のときのおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ（ピクセルサイズ）	圧縮率	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数（xD-ピクチャーカード：1GBの場合）
RAW	4032 × 3024	ロスレス圧縮	ORF	約13.9	72
L SF		1/2.7	JPEG	約8.2	121
L F		1/4		約5.7	175
L N		1/8		約2.7	376
L B		1/12		約1.8	561
M SF	3200 × 2400	1/2.7		約5.4	187
M F		1/4		約3.4	300
M N		1/8		約1.7	592
M B		1/12		約1.2	876
M SF	2560 × 1920	1/2.7		約3.2	316
M F		1/4		約2.2	466
M N		1/8		約1.1	913
M B		1/12		約0.8	1361
M SF	1600 × 1200	1/2.7		約1.3	789
M F		1/4		約0.9	1163
M N		1/8		約0.5	2205
M B		1/12		約0.4	3198
S SF	1280 × 960	1/2.7		約0.9	1230
S F		1/4		約0.6	1776
S N		1/8		約0.3	3366
S B		1/12		約0.3	4569
S SF	1024 × 768	1/2.7		約0.6	1881
S F		1/4		約0.4	2665
S N		1/8		約0.3	4920
S B		1/12		約0.2	6396
S SF	640 × 480	1/2.7		約0.3	4264
S F		1/4		約0.2	5815
S N		1/8		約0.1	9138
S B		1/12		約0.1	12793

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。
- 液晶モニタに表示される撮影枚数は9999までです。
- コントロールパネルに表示される撮影枚数は999までです。

マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
露出補正	✓	✓
手ぶれ補正	✓	✓
□/◷/▭*	✓	✓
仕上がり	✓	✓
階調	✓	✓
画質モード	✓	✓
長秒時ノイズ低減	✓	✓
WBモード	✓	✓
WB補正	✓	✓
測光	✓	✓
ISO感度	✓	✓
高感度ノイズ低減	✓	✓
フラッシュモード	✓	✓
⚡RCモード	✓	✓
フラッシュ補正	✓	✓
AF方式	✓	✓
AFターゲット選択	✓	✓
低振動モード[◆]	✓	✓
AE BKT	✓	✓
WB BKT	✓	✓
FL BKT	✓	✓
ISO BKT	✓	✓
多重露出	—	✓
AFイルミネータ	✓	✓
フォーカスリング	—	✓
AFロックオン	—	—
AFターゲット表示	—	—
AFターゲットサイズ	—	—
[···]循環選択	—	—
レンズリセット	—	—
BULB中MF	—	—
LV中AF	✓	✓
ダイヤル機能	—	✓
ダイヤル方向	—	✓
AEL/AFLモード	—	✓
AEL/AFL MEMO	—	✓
Fnボタン機能	—	✓
マイモード設定	—	—
ボタンON保持時間	—	—

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
AEL/AFL⇄Fn	—	✓
⊡ボタン機能	—	✓
レリーズ優先S	✓	✓
レリーズ優先C	✓	✓
▭L設定	—	✓
ビープ音	—	✓
スリープ時間	—	✓
バックライト時間	—	✓
自動電源OFF	—	—
USB接続モード	—	—
LVブースト	✓	✓
LVフレームレート	✓	✓
☻顔検出	—	✓
INFO表示設定	—	✓
水準器	—	✓
露出ステップ	✓	✓
ISO感度ステップ	✓	✓
ISOオート設定	—	✓
ISOオート有効	—	✓
AEL測光モード	—	✓
BULBリミッター	—	✓
⚡同調速度	✓	✓
⚡低速制限	✓	✓
⚡±+±連動	—	✓
自動ポップアップ	—	✓
全WBモード補正	—	—
カラー設定	✓	✓
シェーディング補正	✓	✓
画質設定	—	✓
ピクセルサイズ	—	✓
アスペクト比設定	✓	✓
アスペクト反映	—	✓
ワンプッシュ消去	—	✓
RAW+JPEG消去	—	✓
ファイルネーム	—	—
実行優先設定	—	—
dpi設定	—	—
クリーニングモード	—	—
光源センサの参照	✓	✓

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
AF微調節	✓	✓
露出基準調整	✓	✓
電池設定	✓	✓
警告レベル	—	—
水準器調整	—	—
日時設定	—	—
記録カード選択	—	—

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
ファイルネーム編集	—	—
モニタ調整	—	—
	—	—
ビデオ出力	—	—
撮影確認	—	✓
ピクセルマッピング	—	—
バージョン	—	—

✓：登録可　—：登録不可

* 低振動モードを含む

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	カードセットアップ	全コマ消去／カード初期化		P.102 P.144
	カスタムリセット設定	リセット		P.121
		リセット1	登録／クリア	
		リセット2	登録／クリア	
	仕上がり	1 VIVID／2 NATURAL*／3 FLAT／4 PORTRAIT／モノトーン／カスタム		P.78
	階調	オート／標準*／ハイキー／ローキー		P.79
	画質モード	RAW／LF／LN*／MN／SN／LF+RAW／LN+RAW／MN+RAW／SN+RAW		P.71
	WBモード	オート*	A -7～+7,G -7～+7	P.73
		5300K	A -7～+7,G -7～+7	
		7500K	A -7～+7,G -7～+7	
		6000K	A -7～+7,G -7～+7	
		3000K	A -7～+7,G -7～+7	
		4000K	A -7～+7,G -7～+7	
		4500K	A -7～+7,G -7～+7	
		6600K	A -7～+7,G -7～+7	
		WB 5500K	A -7～+7,G -7～+7	
			A -7～+7,G -7～+7	
		CWB	2000K～14000K	
	ISO感度	オート*／100～3200		P.54
	長秒時ノイズ低減	OFF／ON／オート*		P.80
	高感度ノイズ低減	OFF／弱／標準*／強		P.80

資料

11

タブ	機能	選択肢		参照ページ
2	測光	*	AF連動ON／AF連動OFF*	P.50
		HI		
		SH		
	RCモード	OFF*／ON		P.88
	フラッシュ補正	-3.0～0.0*～+3.0		P.85
	AF方式	S-AF*／C-AF／MF／S-AF+MF／C-AF+MF		P.58
	AFターゲット選択	[::::]*／[・]／[·:·]		P.61
	低振動モード[◆]	OFF*／1秒～30秒		P.68
	AE BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV／5F 0.3EV／5F 0.7EV／5F 1.0EV		P.53
	WB BKT	A-B	OFF*／3F 2STEP／3F 4STEP／3F 6STEP	P.77
		G-M		
	FL BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P.86
	ISO BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P.55
	多重露出	コマ数	OFF*／2コマ／3コマ／4コマ	P.56
		自動ゲイン補正	OFF*／ON	
		再生画+多重	OFF*／ON	

* 初期設定

再生メニュー

タブ	機能	選択肢			参照ページ
▶	自動再生	1／4／9／16／25／49／100			P.95
	回転再生	OFF／ON*			P.95
	編集	RAW／JPEG	RAW編集		P.97
			JPEG編集	階調オート／赤目補正／トリミング／モノクロ作成／セピア作成／鮮やかさ調整／リサイズ／アスペクト	
		画像合成	2コマ合成／3コマ合成／4コマ合成		
	プリント予約	1コマ予約／全コマ予約			P.123
	全コマコピー	実行／中止			P.100
	全プロテクト解除	実行／中止			P.101

* 初期設定

資料

11

カスタムメニュー 1

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	A	AF/MF			P.103
		AFイルミネータ	OFF／ON*		P.103
		フォーカスリング	↺*／↻		P.103
		AFロックオン	OFF*／ON		P.103
		AFターゲット表示	OFF／ON*		P.103
		AFターゲットサイズ	標準*／小		P.104
		[···]循環選択	OFF*／循環1／循環2		P.104
		レンズリセット	OFF／ON*		P.104
		BULB中MF	OFF／ON*		P.104
		LV中AF	全押しAF／ハイブリットAF／イメージャ AF*		P.38
	B	ボタン／ダイヤル			P.105
		ダイヤル機能	P	Ps*／露出補正／フラッシュ補正	P.105
			A	絞り*／露出補正／フラッシュ補正	
			S	シャッター速度*／露出補正／フラッシュ補正	
			M	メインダイヤル：シャッター速度*／絞り	
				サブダイヤル：シャッター速度／絞り*	
			MENU	メインダイヤル：◀▶／▲▼ / VALUE*	
				サブダイヤル：◀▶*／▲▼ / VALUE	
		ダイヤル方向	ダイヤル1*／ダイヤル2		P.105
		AEL／AFLモード	S-AF*	mode1*／mode2／mode3	P.106
			C-AF	mode1／mode2*／mode3／mode4	
			MF	mode1*／mode2／mode3	
		AEL／AFL MEMO	OFF*／ON		P.106
		Fnボタン機能	フェイス&バック*／プレビュー／ライブプレビュー／ワンタッチWB／[···] HOME／MF切換／RAW◀：／試し撮り撮影／マイモード撮影／水準器／OFF		P.107
		マイモード設定	マイモード1／マイモード2		P.108
		ボタンON保持時間	OFF／3秒／5秒／8秒*／HOLD		P.108
		AEL/AFL⇄Fn	OFF*／ON		P.108
		◀▶ボタン機能	OFF*／[···]		P.108
	C	レリーズ／連写			P.109
		レリーズ優先S	OFF*／ON		P.109
		レリーズ優先C	OFF／ON*		P.109
		▭L設定	1fps／2fps／3fps*／4fps		P.109

* 初期設定

資料

11

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	D	表示／音／接続			P.109
		ビープ音	OFF／ON*		P.109
		スリープ時間	OFF／1分*／3分／5分／10分		P.109
		バックライト時間	8秒*／30秒／1分／HOLD		P.109
		自動電源OFF	OFF／4時間*		P.109
		USB接続モード	オート*／ストレージ／MTP／ コントロール／かんたん／カスタム		P.110
		LVブースト	OFF*／ON		P.110
		LVフレームレート	標準*／高速		P.110
		顔検出	OFF*／ON		P.41 P.111
		INFO表示設定	INFO	表示OFF／総合表示／ヒストグラム表示／ハイライト&シャドウ	P.111
			LV-INFO	ヒストグラム表示／拡大枠表示／比較表示／表示OFF／方眼表示／黄金分割表示／目盛表示	
		水準器	OFF*／ON		P.111
	E	露出／測光／ISO			P.112
		露出ステップ	1/3EV*／1/2EV／1EV		P.112
		ISO感度ステップ	1/3EV*／1EV		P.112
		ISOオート設定	上限値	200～3200（800*）	P.112
			基準値	200～3200（200*）	
		ISOオート有効	P/A/S*／ALL		P.112
		AEL測光モード	オート*／／／HI／SH		P.112
		BULBリミッター	1～30分（8分*）		P.112
	F	フラッシュ			P.113
		同調速度	1/60～1/250（1/250*）		P.113
		低速制限	1/30～1/250（1/60*）		P.113
		+ 連動	OFF*／ON		P.113
		自動ポップアップ	OFF／ON*		P.113
	G	画質／アスペクト／色／WB			P.113
		全WBモード補正	ALL SET	A -7～+7　G -7～+7	P.113
			ALL CLEAR	実行／中止	
		カラー設定	sRGB*／AdobeRGB		P.113
		シェーディング補正	OFF*／ON		P.114
		画質設定	1～4	L／M／S　SF／F／N／B	P.114
		ピクセルサイズ	Middle	3200 × 2400／2560 × 1920*／1600 × 1200	P.114
			Small	1280 × 960*／1024 × 768／640 × 480	
		アスペクト比設定	4:3*／3:2／16:9／6:6／5:4／7:6／6:5／7:5／3:4		P.114
		アスペクト反映	LV撮影*／ALL		P.115

資料

11

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	H	記録／消去			P.115
		ワンプッシュ消去	OFF*／ON		P.115
		RAW+JPEG消去	JPEG／RAW／RAW+JPEG*		P.115
		ファイルネーム	オート*／リセット		P.116
		実行優先設定	中止優先*／実行優先		P.116
		dpi設定	オート*／カスタム		P.116
	I	その他			P.117
		クリーニングモード	—		P.142
		光源センサの参照	OFF／ON*		P.117
		AF微調節	AF微調節モード	OFF*／一律／個別	P.117
			個別登録リスト	確認／削除／編集	
		露出基準調整	(ESP)	-1～+1	P.118
			(中央重点)		
			(スポット)		
		電池設定	1*／2／3		P.119
		警告レベル	-2～0*～+2		P.119
		水準器調整	リセット／キャリブレーション		P.119

* 初期設定

カスタムメニュー 2

タブ	機能	選択肢		参照ページ
2	日時設定	—		P.16
	記録カード選択	CF*／xD		P.120
	ファイルネーム編集	Adobe RGB	OFF*／A～Z／0～9	P.120
		sRGB		
	モニタ調整	-7～+7　-7～+7		P.120
	(言語)	日本語*／ENGLISH		P.120
	ビデオ出力	NTSC*／PAL		P.120
	撮影確認	OFF／AUTO／1秒～20秒（5秒*）		P.121
	ピクセルマッピング	—		P.142
	バージョン	—		P.121

* 初期設定

資料

11

仕様

カメラの仕様

■ 型式

型式　　　　　　　　　：レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ　　　　　　：ズイコーデジタル・フォーサーズシステムレンズ
レンズマウント　　　　：フォーサーズマウント
35 mmフィルムカメラ換算焦点距離：
　　　　　　　　　　　レンズ焦点距離の約2倍

■ 撮像素子

型式　　　　　　　　　：4/3型Live MOSセンサー
カメラ部有効画素数　　：約1230万画素
画面サイズ　　　　　　：17.3 mm（H）× 13.0 mm（V）
アスペクト比　　　　　：1.33（4:3）

■ ファインダ

形式　　　　　　　　　：TTL一眼レフファインダ
視野率　　　　　　　　：上下左右とも約98%（対実画面）
ファインダー倍率　　　：約1.02倍（-1 m^{-1}、50 mmレンズ・無限遠）
アイポイント　　　　　：約24.2 mm（-1 m^{-1}時）
視度調整範囲　　　　　：-3.0～+1.0 m^{-1}
光路分割　　　　　　　：クイックリターン式全面ハーフミラー
被写界深度確認　　　　：プレビューボタンによる
　　　　　　　　　　　（**Fn**ボタンをプレビューに設定することで可能）
フォーカシング
　スクリーン　　　　　：固定式
アイカップ　　　　　　：交換式

■ ライブビュー

：撮影用Live MOSセンサー使用、可動式
：視野率100%

■ 液晶モニタ

型式　　　　　　　　　：2.7型TFTカラー液晶
総画素数　　　　　　　：約23万ドット

■ シャッター

型式　　　　　　　　　：電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度　　　　：1/8000～60秒、バルブ撮影

■ オートフォーカス

型式　　　　　　　　　：TTL位相差検出方式・イメージャコントラスト検出方式
測距点　　　　　　　　：11点
AF輝度範囲　　　　　　：EV-2～EV19（ISO100換算、常温20 °C、TTL位相差検出方式）
測距点選択　　　　　　：自動選択・任意選択
AF補助光　　　　　　　：内蔵フラッシュによる

■ 露出制御

測光方式 ：TTL開放測光方式
（1）デジタルESP測光
（2）中央重点平均測光
（3）スポット測光（ファインダ画面の約2%）
測光範囲 ：EV1～20（デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光）（常温・50 mm F2使用・ISO100相当）
撮影モード ：（1）**AUTO**：フルオート
（2）**P**：プログラムAE（プログラムシフト可能）
（3）**A**：絞り優先AE
（4）**S**：シャッター優先AE
（5）**M**：マニュアル
ISO感度 ：100～3200（1/3、1ステップ）
露出補正 ：±5EV（1/3、1/2、1ステップ）

■ ホワイトバランス

型式 ：撮像素子と光源センサーを併用
設定方式 ：オート／プリセット（8種）／カスタムWB／ワンタッチWB

■ 記録

記録媒体 ：CFカード（タイプI,II準拠）
マイクロドライブ（FAT16/32対応）
xD-ピクチャーカード
記録方式 ：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ
対応規格 ：Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III、PictBridge

■ 再生

表示形式 ：1コマ表示／拡大表示／インデックス表示／回転表示／スライドショー表示／ライトボックス表示／カレンダー表示
情報表示 ：情報表示／ヒストグラム表示

■ ドライブ関係

ドライブモード ：1コマ撮影／連写／セルフタイマー／リモコン
連写性能 ：5コマ／秒
セルフタイマー ：12秒後撮影／2秒後撮影
光リモコン ：2秒後撮影／即時撮影（専用リモコンRM-1（別売））

■ フラッシュ

シンクロ同調 ：1/250秒以下で同調
調光方式 ：TTL-AUTO（TTLプリ発光式）／AUTO／MANUAL
外部フラッシュ接点 ：ホットシュー／外部フラッシュ端子（x接点）
ワイヤレスフラッシュ機能：オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応

■ 外部コネクタ

USB端子／VIDEO出力端子／ケーブルリモコン端子（マルチコネクタ）、DC入力端子

■ 電源

電池 ：リチウムイオン電池（BLM-1）1個
AC電源 ：ACアダプタ（AC-1）（別売）

■ **大きさ・質量**

大きさ	：141.5 mm（幅）× 107.5 mm（高さ）× 75 mm（奥行き）（突起部を除く）
質量	：約655 g（電池含まず）

■ **動作環境**

温度	：0～40 °C（動作時）／-20～60 °C（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）

電池・充電器の仕様

リチウムイオン電池BLM-1

MODEL NO.	：PS-BLM1
形式	：充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：DC7.2 V
公称容量	：1500 mAh
充放電回数	：約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（充電） -10 °C～60 °C（動作時） -20 °C～35 °C（保存時）
大きさ	：約39 mm（幅）× 55 mm（奥行き）× 21.5 mm（高さ）
質量	：約75 g（保護キャップ含まず）

リチウムイオン充電器BCM-2

MODEL NO.	：PS-BCM2
定格入力	：AC100 V～240 V（50/60 Hz）
定格出力	：DC8.35 V、400 mA
充電時間	：約5時間（常温：BLM-1ご使用の場合）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（動作時）／-20 °C～60 °C（保存時）
大きさ	：約62 mm（幅）× 83 mm（奥行き）× 26 mm（高さ）
質量	：約72 g（電源コード含まず）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLEDを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない**
  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡し、指示を受けてください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない**
  火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
  連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない**
  感電やけがをする原因となります。
- **内部に水や異物を入れない**
  火災や感電の原因になります。万一、水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない**
  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。また別売のACアダプタを長時間ご使用の場合にも、本体の温度が高くなります。
- **専用の電池または充電器以外は使用しない**
  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用を中止する**
  火災や、やけどの原因となります。このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手で操作しない**
  故障、感電の原因となることがあります。また充電器などの電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**
  けがや事故の原因となることがあります。
- **高温になるところへ放置しない**
  部品の劣化、火災の原因となります。
- **専用のACアダプタ以外は使用しない**
  カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
- **充電器などのコードは傷つけたり、引っ張ったり、継ぎ足したりしない**
  コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに傷、断線、またはプラグに接触不良がある。
- **交換レンズについてのご注意**
  - レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない
    失明や視力障害を起こすことがあります。
  - 使用しないときはレンズキャップをつけて保管する
    太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**
  発火・破裂・火災の原因となります。
- **(+)（−）端子を金属等で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**
  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で使用・放置しない**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**
  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電池の液が目に入った場合は、失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で電池を触ったり持ったりしない**
- **所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止する**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止する**
  販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。**

⚠ 注意

- **カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さない**
  やけどの原因となることがあります。
- **長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく**
  液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- **充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**
  故障・感電の原因となります。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない**
  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- **充電器を分解・改造しない**
  感電・けがの原因となります。
- **充電器は指定の電源電圧で使用する**
  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破壊・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持つ**
  電源プラグを持たないと、火災・感電の原因となることがあります。
  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う**
  電源プラグを抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラ本体や交換レンズの電気接点部には触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 持ち運び・保管の際は、＋－電極端子がショートしないように必ず付属の保護キャップをしっかり付けてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。

- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、(+) 端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは有限責任中間法人JBRCホームページ (http://www.jbrc.com)をご覧ください。

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- 使用温度範囲は-10～40 °Cです。範囲内でご使用ください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。
xD-ピクチャーカード ™ は商標です。
階調自動調整機能は、Apical Limitedの特許技術を使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このマークは、オリンパスグループが地球環境保全のために、独自に設けた基準を満たした製品のみに与えられるマークです。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。ご記入いただいたお客様の個人情報は、本お問い合わせ対応のためだけに利用し、それ以外の目的には利用いたしません。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

● お名前（フリガナ）
● 連絡先：郵便番号
● 住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号／FAX
E-mail
● 製品名（型番）：E-30
● シリアル番号（製品底面に記載されています）：
● お買い上げ日：
● 問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

・ご使用のパソコンの種類：
・パソコンメーカー・型番等
・メモリの容量　ハードディスクの空き容量：
・OS名とバージョン：
・（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
・（Windows）コントロールパネル—システム—デバイスマネージャーの内容
・その他接続されている周辺機器名：
・問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：
・問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

OLYMPUS®

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● 製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）

フリーダイヤル
0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
「お客様サポート」のページをご参照ください。

● 修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in China

VS835501